

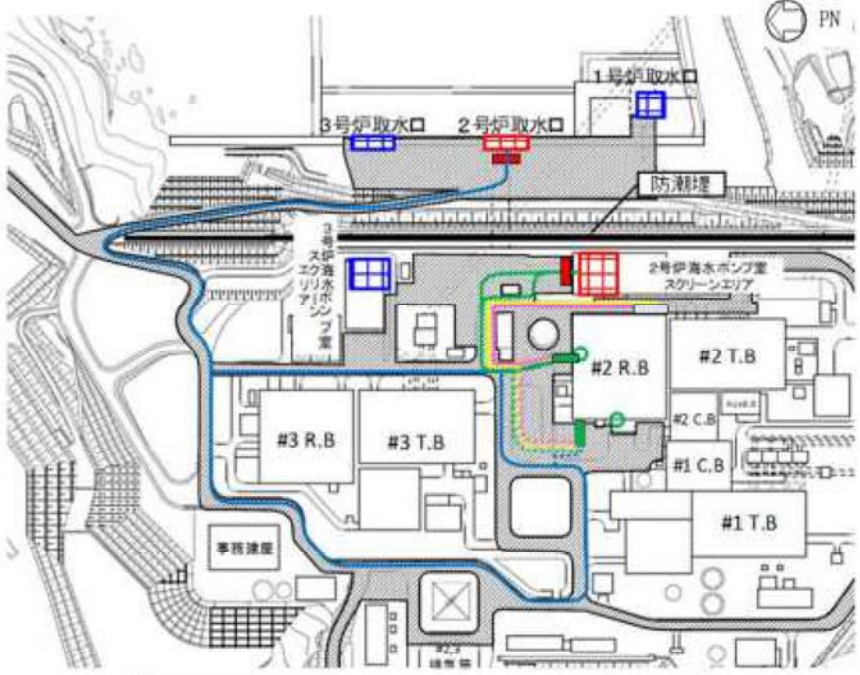
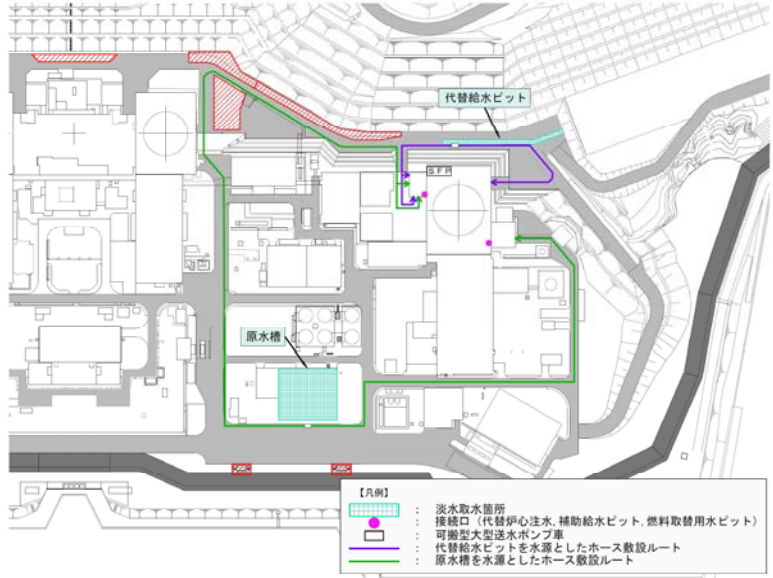
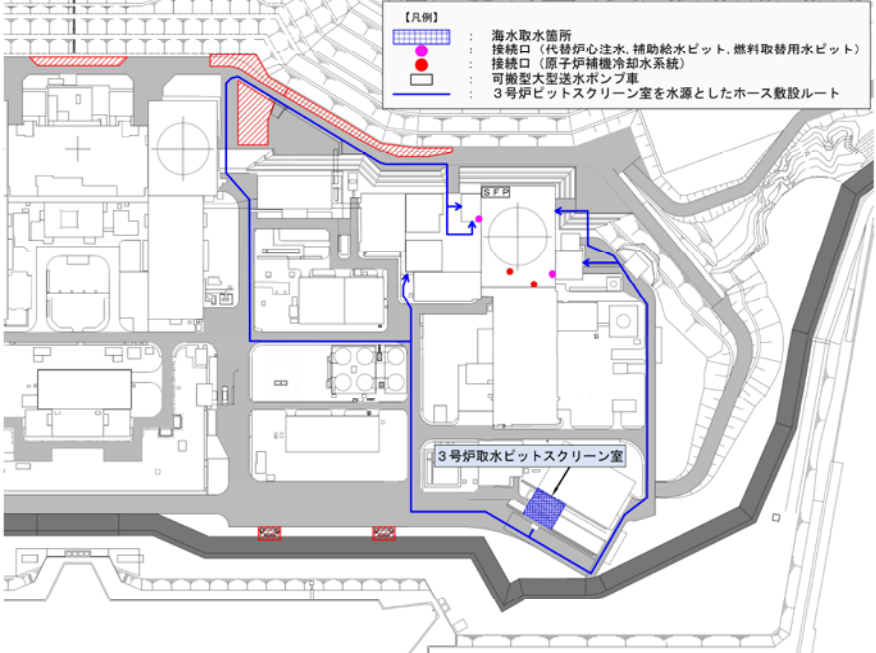
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(2)海水取水方法</p> <p>2号炉海水ポンプ室スクリーンエリアからの海水取水方法について、以下に示す。</p> <p>津波による影響については、津波により浸水することが考えられるが、取水路を通した湧き上がりによるものであることから、大きな波力は生じないと考えられる。2号炉海水ポンプ室スクリーンエリアには作業の支障になるような構造物はないことから作業性や海水取水に影響はない。</p> <p>また、海水取水のための作業については津波によるスクリーンエリア浸水より10時間経過後であっても問題ないことから浸水した水が取水路を通して排水された後に実施する。</p> <p>①防潮壁のゲートから大容量送水ポンプを防潮壁内に入らせスクリーンエリア付近(O.P.+14.8m)に寄せ付ける。その後、水中ポンプを大容量送水ポンプ付属のクレーンでスクリーンエリアに降ろし、投入箇所付近まで人力で運搬する。</p> <p>②大容量送水ポンプに接続したホースをスクリーンエリアまで人力で降ろした後、スクリーンエリアに敷設する分のホースを大容量送水ポンプ付属のクレーンで吊り降ろす。</p> <p>③水中ポンプとホースを接続し、水中ポンプを投げ込み用ハッチから可搬型の吊り具により海面に吊り下ろす。</p> <p>なお、スクリーンエリアのO.P.+8.0mへの移動については昇降階段を使用する。</p> <p>第2図 スクリーンエリアにおける水中ポンプ吊降ろし作業イメージ</p>			<p>【女川】記載方針の相違              ・女川は海水取水方法を明確化している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

<p>女川原子力発電所2号炉</p> <p>2. 海水取水ホース敷設ルート                      (1) ホース敷設ルート                      2号炉取水口及び2号炉海水ポンプ室スクリーンエリアからの海水取水ホースの敷設ルートについて第3図に示す。</p>  <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>取水ポイント</li> <li>代替取水ポイント</li> <li>接続口(熱熱)</li> <li>原子炉補機代替冷却水系(海水送水)ホース敷設ルート1</li> <li>原子炉補機代替冷却水系(海水排水)ホース敷設ルート1</li> <li>原子炉補機代替冷却水系(海水送水)ホース敷設ルート2</li> <li>原子炉補機代替冷却水系(海水排水)ホース敷設ルート2 (破線は建屋西側接続口使用時を示す)</li> <li>熱交換器ユニット</li> <li>大容量送水ポンプ</li> <li>原子炉補機代替冷却水系海水排水エリア</li> <li>可搬型重大事故等対策設備アクセスルート</li> </ul>	<p>島根原子力発電所2号炉</p>	<p>泊発電所3号炉</p> <p>3. ホース敷設ルート                      (1) 淡水取水ホース敷設ルート                      淡水取水場所からのホースの敷設ルートについて第7図に示す。</p>  <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>淡水取水箇所</li> <li>接続口(代替炉心注水、補助給水ビット、燃料取替用水ビット)</li> <li>可搬型大型送水ポンプ車</li> <li>代替給水ビットを水源としたホース敷設ルート</li> <li>原水槽を水源としたホース敷設ルート</li> </ul> <p>第7図 淡水取水ホースの敷設ルート図</p> <p>(2) 海水取水ホース敷設ルート                      海水取水場所からのホース敷設ルートについて第8図に示す。</p>  <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海水取水箇所</li> <li>接続口(代替炉心注水、補助給水ビット、燃料取替用水ビット)</li> <li>接続口(原子炉補機冷却水系)</li> <li>可搬型大型送水ポンプ車</li> <li>3号炉ビットスクリーン室を水源としたホース敷設ルート</li> </ul> <p>第8図 海水取水ホースの敷設ルート図 (1/2)</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】記載内容の相違                      ・プラントの相違によるホース敷設ルートの相違</p> <p>【島根】記載箇所の相違                      ・島根はホース敷設ルートについて「補足資料(10)」に記載している。</p>
--	--------------------	--	---

第3図 原子炉補機代替冷却水系ホース敷設ルート図



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海水取水箇所</li> <li>接続口（代替炉心注水、補助給水ピット、燃料取替用水ピット）</li> <li>接続口（原子炉補給冷却水系統）</li> <li>可搬型大型送水ポンプ車</li> <li>1, 2号炉ピットスクリーン室を水源としたホース敷設ルート</li> <li>3号炉取水口を水源としたホース敷設ルート</li> </ul> <p>1, 2号炉取水ピットスクリーン室</p> <p>1, 2号炉取水口</p> <p>3号炉取水口</p> <p>第8図 海水取水ホースの敷設ルート図（2/2）</p>	<p><b>相違理由</b></p> <p>【女川】記載内容の相違              ・プラントの相違による              ホース敷設ルートの相違</p> <p>【島根】記載箇所の相違              ・島根はホース敷設ルートについて「補足資料（10）」に記載している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

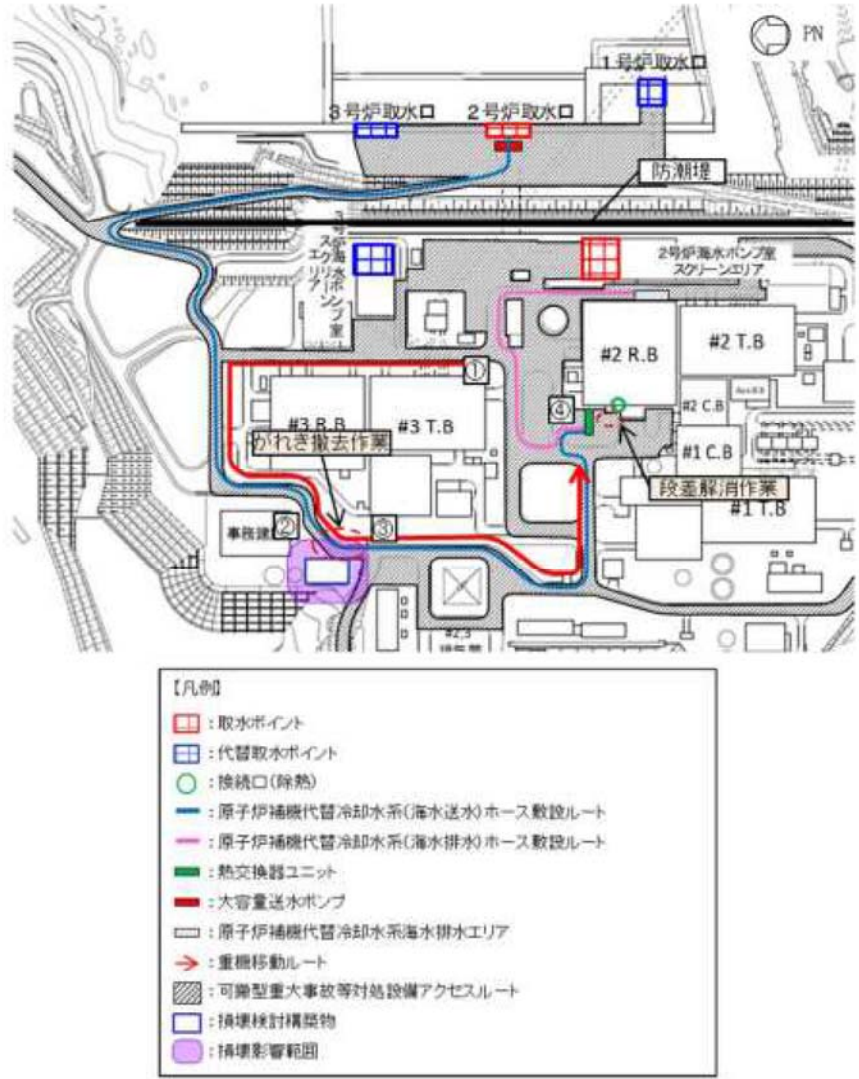
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(2)海水取水ルート の復旧時間評価</p> <p>海水取水ルート の確保について、復旧により時間を要する2号炉取水口から取水する場合を想定しても、重要事故シーケンスの制限時間が最も短い時間内に原子炉補機代替冷却水系の設置準備が完了することを確認する。</p> <p>a. 復旧ルート（除熱）</p> <p>復旧するルートは復旧時間の最も長い組合せである、注水ルート のルート1（第4図参照）復旧後、原子炉補機代替冷却水系ホース敷設ルート（第5図参照）を復旧する場合の時間を評価する。</p> <p>なお、アクセスルート復旧方法や条件については、ルート1及びルート2の復旧方法及び条件と同様とする。（添付資料1.0.2-102参照）</p>  <p>第4図 注水ルート（ルート1）</p>			<p>【女川】記載箇所の相違</p> <p>・泊は海水取水場所からのホース敷設ルートも含めて「6.(4)仮復旧時間の評価」に記載している。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第5図 除熱復旧ルート</p>			<p>【女川】記載箇所の相違                  ・泊は海水取水場所からのホース敷設ルートも含めて「6.(4) 仮復旧時間の評価」に記載している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）


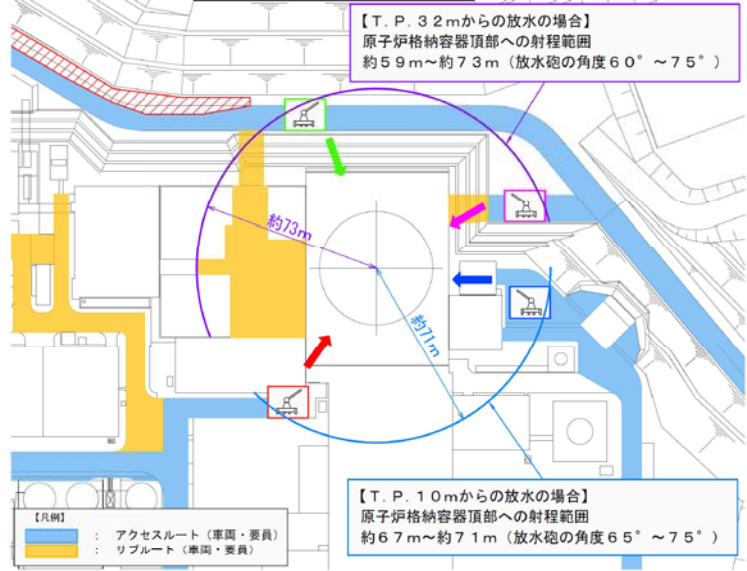
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																										
<p>b. 除熱ルート復旧時間評価結果</p> <p>原子炉補機代替冷却水系のホース敷設ルートの復旧については第1表のとおり213分（3.6時間）にて復旧が可能であることから、原子炉補機代替冷却水系準備制限時間の24.0時間までに熱交換器ユニットを設置できることを確認した（有効性評価上は3.6時間を4時間として評価する。）。</p> <p>なお、タイムチャートについては添付資料1.0.2-110参照。</p> <p>第1表 原子炉補機代替冷却水系ホース敷設ルートの復旧時間評価結果</p> <table border="1" data-bbox="112 569 911 982"> <thead> <tr> <th>区間</th> <th>距離 [約m]</th> <th>評価項目</th> <th>所要時間 [分]</th> <th>累積時間 [分]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①→②</td> <td>410</td> <td>重機移動</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">②→③</td> <td rowspan="2">50</td> <td>分解作業 (3号給排水処理建屋)</td> <td>144</td> <td>149</td> </tr> <tr> <td>がれき撤去作業 (3号給排水処理建屋)</td> <td>10</td> <td>159</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③→④</td> <td rowspan="2">350</td> <td>重機移動</td> <td>3</td> <td>162</td> </tr> <tr> <td>段差解消</td> <td>51</td> <td>213</td> </tr> </tbody> </table>	区間	距離 [約m]	評価項目	所要時間 [分]	累積時間 [分]	①→②	410	重機移動	5	5	②→③	50	分解作業 (3号給排水処理建屋)	144	149	がれき撤去作業 (3号給排水処理建屋)	10	159	③→④	350	重機移動	3	162	段差解消	51	213			<p>【女川】記載箇所の相違                  ・泊は海水取水場所からのホース敷設ルートも含めて「6.(4)仮復旧時間の評価」に記載している。</p>
区間	距離 [約m]	評価項目	所要時間 [分]	累積時間 [分]																									
①→②	410	重機移動	5	5																									
②→③	50	分解作業 (3号給排水処理建屋)	144	149																									
		がれき撤去作業 (3号給排水処理建屋)	10	159																									
③→④	350	重機移動	3	162																									
		段差解消	51	213																									



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>参考資料-1</p> <p>放水砲の設置位置</p> <p>放射性物質拡散抑制及び泡消火放水（航空機燃料火災）のために設置する放水砲について、設置及び運搬が可能な範囲を第1図及び第2図に示す。</p>  <p>第1図 放射性物質拡散抑制時の放水砲が設置可能な範囲</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p> </div>	<p>参考資料-1</p> <p>放水砲の設置位置</p> <p>放射性物質拡散抑制及び泡消火放水（航空機燃料火災）のために設置する放水砲について、設置及び運搬が可能な範囲を第1図及び第2図に示す。</p>  <p>第1図 放射性物質拡散抑制時の放水砲が設置可能な範囲</p>	<p>【女川】記載方針の相違                  ・泊は放水砲の設置位置を明確化している。</p> <p>【島根】記載内容の相違                  ・プラントの相違に伴う図の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="997 239 1691 814" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="943 835 1751 869" data-label="Caption"> <p>第2図 泡消火放水時（航空機燃料火災）の放水砲が設置可能な範囲</p> </div> <div data-bbox="961 911 1762 987" data-label="Text"> <p>放水砲は現場状況に応じて、第1図及び第2図に示す円の内側の任意の範囲に設置する。</p> </div> <div data-bbox="1175 1083 1745 1138" data-label="Text" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p> </div>	<div data-bbox="1828 239 2546 793" data-label="Diagram"> </div> <div data-bbox="1780 835 2588 869" data-label="Caption"> <p>第2図 泡消火放水時（航空機燃料火災）の放水砲が設置可能な範囲</p> </div> <div data-bbox="1798 911 2599 987" data-label="Text"> <p>放水砲は現場状況に応じて、第1図及び第2図に示す円の内側の任意の範囲に設置する。</p> </div>	<p><b>相違理由</b></p> <p>【女川】記載方針の相違          ・泊は放水砲の設置位置を明確化している。</p> <p>【島根】記載内容の相違          ・プラントの相違に伴う図の相違。</p>




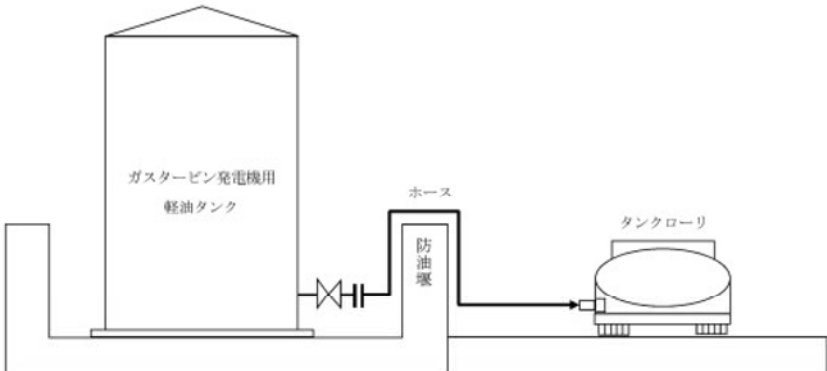
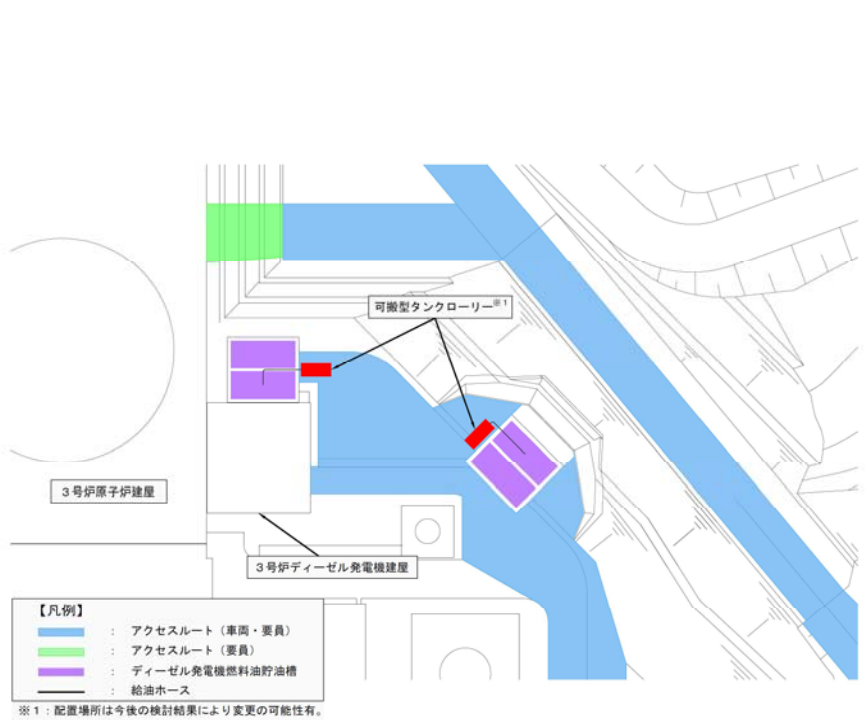
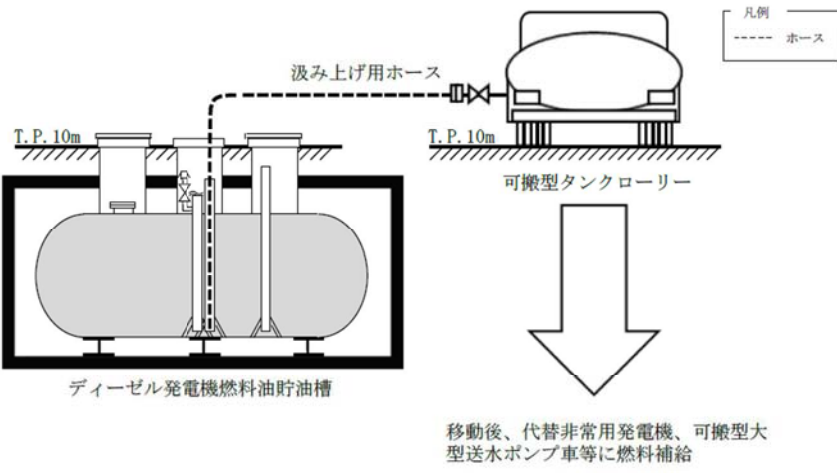
泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">参考資料-2</p> <p style="text-align: center;">タンクローリーの設置位置及び燃料補給作業について</p> <p>重大事故等対応で必要となるタンクローリは、ガスタービン発電機用軽油タンク又は非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等より、可搬型設備に給油するための燃料を補給する。第1,3図にタンクローリーの設置が可能な範囲を、第2,4図に燃料補給作業のイメージ図を示す。</p> <p>ガスタービン発電機用軽油タンク及び非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等は、岩盤に直接支持される構造であり、タンクローリ配置範囲はアクセスルート上であることから地震時の液状化及び揺すり込みによる不等沈下により段差が発生しないため、補給作業に影響はない。</p> <p>また、タンクローリはガスタービン発電機用軽油タンク及び非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等の近傍にアクセス可能であり、燃料補給作業に影響はない。</p> <p>なお、タンクローリ補給後のホース内残存油については、タンクローリ側のポンプにより吸わせることでタンクローリ側への回収処理が可能である。</p>	<p style="text-align: right;">参考資料-2</p> <p style="text-align: center;">可搬型タンクローリーの設置位置及び燃料補給作業について</p> <p>重大事故等対応で必要となる可搬型設備に給油するための燃料補給作業は、可搬型タンクローリによる直接汲み上げ又はディーゼル発電機燃料油移送ポンプによる汲み上げを行う。第1,3図に可搬型タンクローリーの設置が可能な範囲を、第2,4図に燃料補給作業のイメージ図を示す。</p> <p>ディーゼル発電機燃料油貯油槽は、岩盤に直接支持される構造であり、可搬型タンクローリ配置範囲はアクセスルート上であることから地震時の液状化及び揺すり込みによる不等沈下により段差が発生しないため、補給作業に影響はない。</p> <p>また、ディーゼル発電機燃料油移送ポンプによる汲み上げを行う場合のホース敷設範囲は、頑健な建屋内又は屋外のアクセスルートであることから、燃料補給作業に影響はない。</p> <p>なお、可搬型タンクローリ補給後のホース内残存油については、タンクローリ側のポンプにより吸わせることで可搬型タンクローリ側への回収処理が可能である。</p>	<p>【女川】記載方針の相違                  ・泊は可搬型タンクローリの設置位置を明確化している。</p> <p>【島根】記載表現の相違</p>

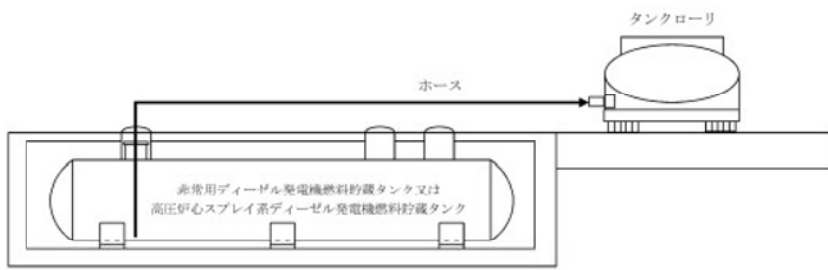
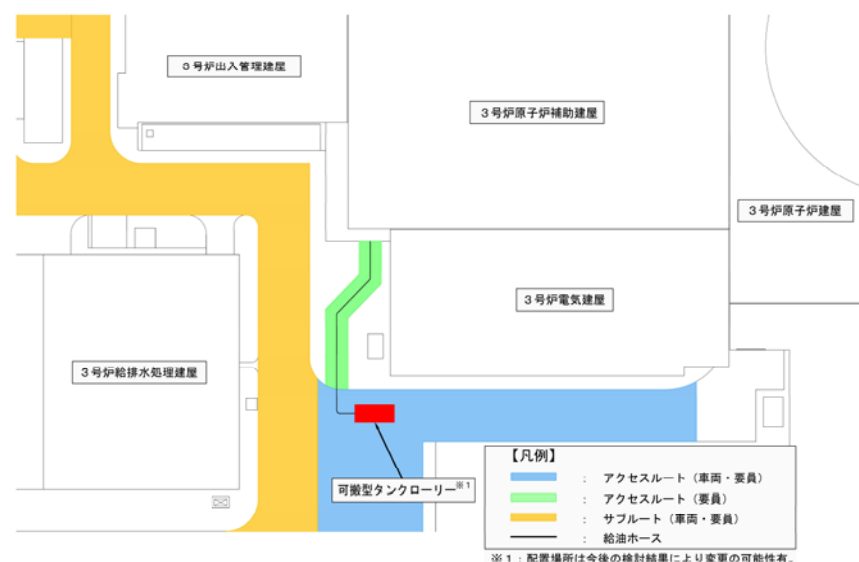
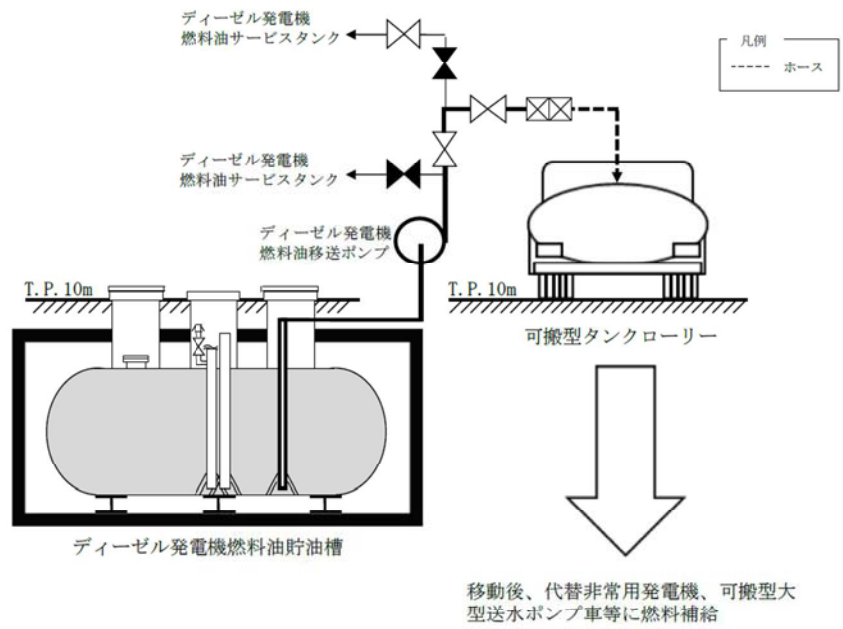
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>【凡例】              青線：アクセスルート（車両・要員）              緑線：アクセスルート（要員）</p> <p>ガスタービン発電機用軽油タンク</p> <p>タンクローリ※1</p> <p>※1：配置場所は今後の検討結果等により変更の可能性有。</p> <p>第1図 ガスタービン発電機用軽油タンクから給油する時のタンクローリの配置イメージ</p>  <p>ガスタービン発電機用軽油タンク</p> <p>防油堰</p> <p>ホース</p> <p>タンクローリ</p> <p>第2図 タンクローリ給油イメージ（ガスタービン発電機用軽油タンクを使用する場合）</p>	 <p>【凡例】              青線：アクセスルート（車両・要員）              緑線：アクセスルート（要員）              紫線：ディーゼル発電機燃料油貯油槽              黒線：給油ホース</p> <p>3号炉原子炉建屋</p> <p>3号炉ディーゼル発電機建屋</p> <p>可搬型タンクローリ※1</p> <p>※1：配置場所は今後の検討結果等により変更の可能性有。</p> <p>第1図 可搬型タンクローリによる直接汲み上げを行う場合の可搬型タンクローリの配置イメージ</p>  <p>凡例              ー ホース</p> <p>汲み上げ用ホース</p> <p>T.P. 10m</p> <p>可搬型タンクローリ</p> <p>ディーゼル発電機燃料油貯油槽</p> <p>移動後、代替非常用発電機、可搬型大型送水ポンプ車等に燃料補給</p> <p>第2図 可搬型タンクローリ給油イメージ（可搬型タンクローリによる汲み上げを行う場合）</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】記載方針の相違              ・泊は可搬型タンクローリの設置位置を明確化している。</p> <p>【島根】記載内容の相違              ・プラントの相違に伴う図の相違。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p data-bbox="1023 798 1676 871">第3図 非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等から給油する時のタンクローリーの配置イメージ</p>  <p data-bbox="949 1564 1751 1638">第4図 タンクローリ給油イメージ（非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等を使用する場合）</p> <div data-bbox="1172 1711 1736 1753" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p> </div>	 <p data-bbox="1795 798 2597 871">第3図 ディーゼル発電機燃料油移送ポンプによる汲み上げを行う場合の可搬型タンクローリーの配置イメージ</p>  <p data-bbox="1810 1564 2582 1638">第4図 可搬型タンクローリ給油イメージ（ディーゼル発電機燃料油移送ポンプによる汲み上げを行う場合）</p> <p data-bbox="2211 1459 2552 1512">移動後、代替非常用発電機、可搬型大型送水ポンプ車等に燃料補給</p>	<p data-bbox="2626 189 2864 451">【女川】記載方針の相違                  ・泊は可搬型タンクローリーの設置位置を明確化している。                  【島根】記載内容の相違                  ・プラントの相違に伴う図の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙(3)</p> <p style="text-align: center;">可搬型重大事故等対処設備の接続箇所について</p> <p>1. 可搬型設備接続箇所の考え方                      可搬型設備のうち原子炉建屋の外から水又は電力を供給するものの接続口については、設置許可基準規則第43条第3項第3号の要求より、共通要因によって接続することができなくなることを防止するため、接続口を異なる複数の場所に設置する。</p> <p>その他の可搬型設備の接続口については、必要な容量を確保することが可能な数を設けた上で、設備の信頼度等を考慮し、必要に応じて更なる安全性向上のために予備を確保する。</p> <p>可搬型設備の接続口の一覧表を第1表及び第2表に、可搬型設備の接続方法を第1図に、建屋接続場所を第2図に示す。</p>	<p style="text-align: right;">別紙(2)</p> <p style="text-align: center;">可搬型設備の接続口の配置及び仕様について</p> <p>1. 可搬型設備の接続口の考え方                      可搬型設備のうち原子炉建物の外から水又は電源を供給するものの接続口については、「設置許可基準規則」第四十三条第3項第3号の要求より、共通要因によって接続することができなくなることを防止するため、接続口を複数箇所に設けるとともに、一つの接続口につき一つの機能としている。</p> <p>その他の可搬型設備の接続口については、必要な容量を確保することのできる数を設けた上で、設備の信頼度等を考慮し、必要に応じて自主的に予備を確保する。</p> <p>可搬型設備の接続口一覧を第1表及び第2表、接続口の写真を第1図、可搬型設備の配置図を第2図、接続場所を第3図に示す。</p>	<p style="text-align: right;">別紙(3)</p> <p style="text-align: center;">可搬型重大事故等対処設備の接続箇所について</p> <p>1. 可搬型設備接続箇所の考え方                      可搬型設備のうち原子炉建屋の外から水又は電力を供給するものの接続口については、設置許可基準規則第43条第3項第3号の要求より、共通要因によって接続することができなくなることを防止するため、接続口を異なる複数の場所に設置する。</p> <p>その他の可搬型設備の接続口については、必要な容量を確保することのできる数を設けた上で、設備の信頼度等を考慮し、必要に応じて自主的に予備を確保する。</p> <p>可搬型設備の接続口一覧を第1表及び第2表に、可搬型設備の接続方法を第1図に、可搬型設備の配置図を第2図、接続場所を第3図に示す。</p>	<p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【島根】設備の相違                      ・泊は注水・補給用の接続口については、炉心注水／補助給水ピットへの補給／燃料取替用水ピットへの補給の3つの機能を共有し、配管経路の弁の切替えにより送水先を変更できるよう設計している。有効性評価の想定において、これらの機能を同時に使用することはないため、一つの接続口につき一つの機能とはしていない。</p> <p>【女川及び島根】記載表現の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

第1表 可搬型設備のうち原子炉建屋の外から水又は電力を供給するもの

可搬型設備名称	口数	接続方法	仕様
大容量送水ポンプ（タイプI） ・原子炉・格納容器下部注水接続口	3箇所 (原子炉建屋 北, 東, 建屋内)	フランジ接続	150A
大容量送水ポンプ（タイプI） ・格納容器スプレイ接続口	3箇所 (原子炉建屋 北, 東, 建屋内)	フランジ接続	150A
大容量送水ポンプ（タイプI） ・燃料プール注水接続口	3箇所 (原子炉建屋 北, 東, 建屋内)	フランジ接続	150A
大容量送水ポンプ（タイプI） ・燃料プールのスプレイ接続口	3箇所 (原子炉建屋 北, 東, 建屋内)	フランジ接続	150A
熱交換器ユニット ・熱交換器ユニット接続口（RHR供給）	3箇所 (原子炉建屋 北, 西, 建屋内)	フランジ接続	200A
熱交換器ユニット ・熱交換器ユニット接続口（RHR戻り）	3箇所 (原子炉建屋 北, 西, 建屋内)	フランジ接続	200A
熱交換器ユニット ・熱交換器ユニット接続口（その他負荷供給）	3箇所 (原子炉建屋 北, 西, 建屋内)	フランジ接続	200A
熱交換器ユニット ・熱交換器ユニット接続口（その他負荷戻り）	3箇所 (原子炉建屋 北, 西, 建屋内)	フランジ接続	200A
電源車 ・電源車接続口	2箇所 (原子炉建屋 西, 建屋内)	コネクタ接続	-

第2表 その他の可搬型設備

可搬型設備名称	口数	接続方法	仕様
大容量送水ポンプ（タイプI） ・復水貯蔵タンク接続口	1箇所 (CST連絡トレンチ/ バルブ室)	フランジ接続	150A
大容量送水ポンプ（タイプI） ・復水貯蔵タンク接続マンホール	1箇所 (復水貯蔵タンク)	フランジ接続	150A
大容量送水ポンプ（タイプI） ・フィルタ装置水接続口（屋外）	1箇所 (原子炉建屋 北)	フランジ接続	65A
大容量送水ポンプ（タイプI） ・フィルタ装置水・薬液接続口（屋内）	1箇所 (原子炉建屋 建屋内)	フランジ接続	65A
可搬型窒素ガス供給装置 ・可搬型窒素ガス供給装置接続口	2箇所 (原子炉建屋 北, 建屋内)	フランジ接続	50A

第1表 可搬型設備のうち原子炉建物の外から水又は電源を供給する接続口一覧

接続口に接続する可搬型設備名称	接続口配置箇所	接続方式	仕様
大量送水車 ・低圧原子炉代替注水系（可搬型） 接続口	3箇所 (原子炉建物西, 南, 建物内)	結合金具接続	150A
大量送水車 ・格納容器代替スプレイ系（可搬型） 接続口	3箇所 (原子炉建物西, 南, 建物内)	結合金具接続	150A
大量送水車 ・ベデスタル代替注水系（可搬型） 接続口	3箇所 (原子炉建物西, 南, 建物内)	結合金具接続	150A
大量送水車 ・燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド） 接続口	2箇所 (原子炉建物西, 南)	結合金具接続	150A
移動式代替熱交換設備 ・原子炉補機代替冷却系接続口	2箇所 (原子炉建物西, 南)	フランジ接続	250A
大型送水ポンプ車 ・原子炉補機代替冷却系接続口	1箇所 (原子炉建物内)	結合金具接続	250A
高圧発電機車 ・高圧発電機車接続プラグ収納箱	2箇所 (原子炉建物西, 南)	コネクタ接続	72A
高圧発電機車 ・緊急用メタクラ接続プラグ盤	1箇所 (ガスタービン発電機建物)	コネクタ接続	72A

第2表 その他の可搬型設備の接続口一覧

接続口に接続する可搬型設備名称	接続口配置箇所	接続方法	仕様
直流給電車 ・直流給電車接続口	2箇所 (廃棄物処理建物南, 原子炉建物南)	コネクタ接続	57A
大量送水車 ・原子炉ウェル代替注水系接続口	2箇所 (原子炉建物西, 南)	結合金具接続	150A
可搬型窒素供給装置 ・窒素ガス代替注入系サプレッション・ チェンバ側供給用接続口	2箇所 (原子炉建物南, 建物内)	結合金具接続	50A
可搬型窒素供給装置 ・窒素ガス代替注入系ドライウェル側供給用 接続口	2箇所 (原子炉建物南, 建物内)	結合金具接続	50A
可搬型窒素供給装置 ・格納容器フィルタベント系窒素ガス供給用 接続口	2箇所 (原子炉建物南, 建物内)	結合金具接続	50A
大量送水車 ・格納容器フィルタベント系スクラバ水補給用 接続口	1箇所 (原子炉建物南)	フランジ接続	25A
第1ベントフィルタ出口水素濃度 ・格納容器フィルタベント系水素濃度測定用 接続口	1箇所 (原子炉建物南)	アダプタ接続	20A

第1表 可搬型設備のうち原子炉建屋の外から水又は電力を供給する接続口一覧

可搬型設備名称	口数	接続方法	仕様
【代替炉心注水、補助給水ピット補給、 燃料取替用水ピット補給】 可搬型大型送水ポンプ車 ・可搬型大型送水ポンプ車10m接続口 ・可搬型大型送水ポンプ車33m接続口	2箇所 (原子炉建屋 東, 原子炉補助建屋 西 (建屋内))	フランジ接続	150A
【原子炉補機冷却水系統通水】 可搬型大型送水ポンプ車 ・可搬型大型送水ポンプ車A母管接続口 ・可搬型大型送水ポンプ車B母管接続口	2箇所 (原子炉建屋 東, 西 (建屋内))	フランジ接続	150A
【代替交流電源】 可搬型代替電源車 ・可搬型代替電源接続盤	2箇所 (原子炉建屋 東, 原子炉補助建屋 西)	ボルト・ネジ 接続	150mm <sup>2</sup>
【代替直流電源】 可搬型直流電源用発電機 ・可搬型直流電源接続盤	2箇所 (原子炉建屋 東, 原子炉補助建屋 北)	ボルト・ネジ 接続	60mm <sup>2</sup>

第2表 その他の可搬型設備の接続口一覧

可搬型設備名称	口数	接続方法	仕様
【代替格納容器スプレイ】 可搬型大型送水ポンプ車 ・可搬型大型送水ポンプ車10m 接続口 ・可搬型大型送水ポンプ車33m 接続口	2箇所 (原子炉建屋 東, 原子炉補助建屋 西 (建屋内))	フランジ接続	150A
【蒸気発生器注水】 可搬型大型送水ポンプ車 ・可搬型大型送水ポンプ車代替給水 ライン接続口	1箇所 (原子炉建屋 建屋内)	結合金具接続	150A
【原子炉補機冷却海水系統通水】 可搬型大容量海水送水ポンプ車 ・可搬型大容量海水送水ポンプ車A 母管接続口 ・可搬型大容量海水送水ポンプ車B 母管接続口	2箇所 (ディーゼル発電機建屋 建屋内)	フランジ接続	150A

【女川及び島根】

記載内容の相違

・プラントの相違による  
可搬型設備、接続箇所  
及び仕様の相違



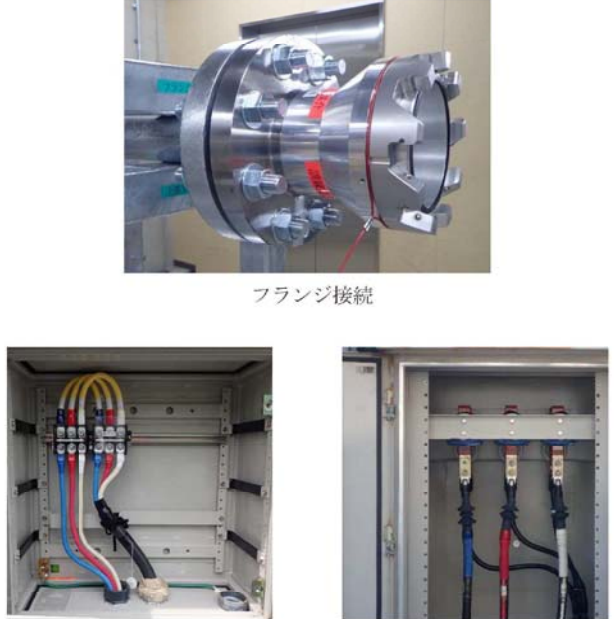
【女川及び島根】

記載内容の相違

・プラントの相違による  
可搬型設備、接続箇所  
及び仕様の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>コネクタ接続</p> <p>第1図 可搬型設備の接続方法</p>	 <p>結合金具接続      フランジ接続</p> <p>コネクタ接続      アダプタ接続</p> <p>第1図 接続口の写真（例示）</p>	 <p>フランジ接続</p> <p>ボルト・ネジ接続      ボルト・ネジ接続</p> <p>第1図 可搬型設備の接続方法</p>	<p>【女川及び島根】                  記載内容の相違                  ・プラントの相違による                  接続方法の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

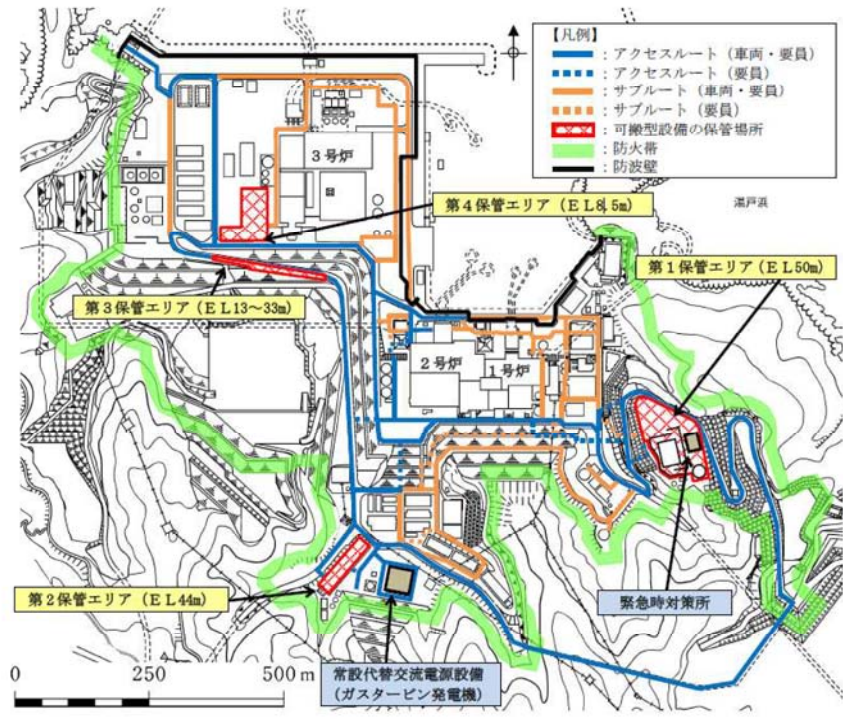
女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

第4保管エリア【E.L.8.5m】	第1保管エリア【E.L.50m】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高圧発電機車：3台</li> <li>・大量送水車：2台</li> <li>・移動式代替熱交換設備：1台</li> <li>・大型送水ポンプ車：2台</li> <li>・可搬式産業供給装置：1台</li> <li>・第1ベントフィルタ 出口水素濃度：1台</li> <li>・シルトフェンス（2号炉放水接続用）：約20m</li> <li>・シルトフェンス（輸谷溝用）：約320m</li> <li>・小型船舶：1隻</li> <li>・放射性物質吸着剤：3組</li> <li>・放水砲：1台</li> <li>・泡混合設備：5個</li> <li>・タンクローリー：1台</li> <li>・可搬式モニタリング・ポスト：6台</li> <li>・可搬式気象観測装置：1台</li> <li>・緊急時対策用送電機：2台</li> <li>・緊急時対策用正化装置（空気ポンプ）：30本</li> <li>・緊急時対策用空気浄化送風機：1台</li> <li>・緊急時対策用空気浄化フィルタユニット：1台</li> <li>・ホイールローダ：1台</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高圧発電機車：3台</li> <li>・大量送水車：1台</li> <li>・移動式代替熱交換設備：1台</li> <li>・大型送水ポンプ車：1台</li> <li>・可搬式産業供給装置：1台</li> <li>・第1ベントフィルタ 出口水素濃度：1台</li> <li>・シルトフェンス（2号炉放水接続用）：約20m</li> <li>・シルトフェンス（輸谷溝用）：約360m</li> <li>・小型船舶：1隻</li> <li>・放射性物質吸着剤：1組</li> <li>・放水砲：1台</li> <li>・泡混合設備：1個</li> <li>・タンクローリー：1台</li> <li>・可搬式モニタリング・ポスト：6台</li> <li>・可搬式気象観測装置：1台</li> <li>・緊急時対策用送電機：2台</li> <li>・緊急時対策用正化装置（空気ポンプ）：510本</li> <li>・緊急時対策用空気浄化送風機：2台</li> <li>・緊急時対策用空気浄化フィルタユニット：2台</li> <li>・ホイールローダ：1台</li> </ul>

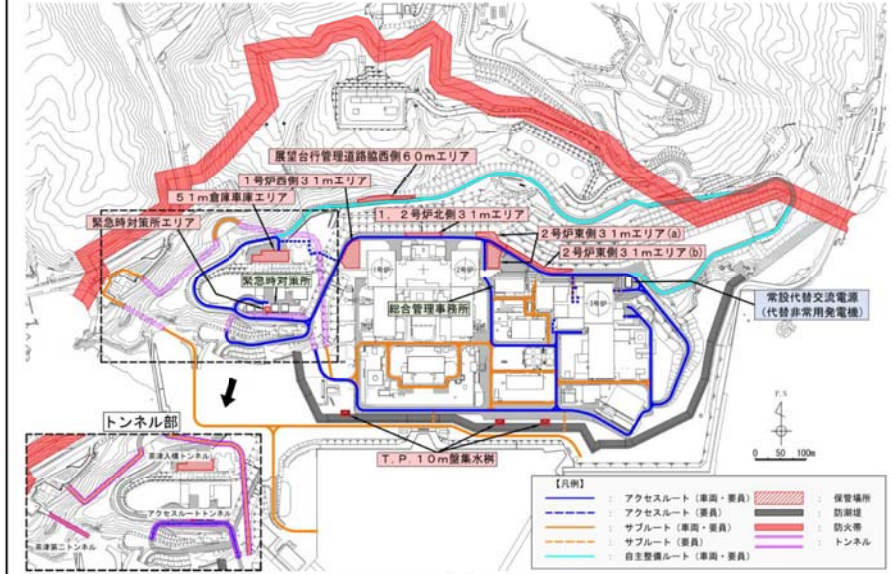


第3保管エリア【E.L.13~33m】	第2保管エリア【E.L.44m】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高圧発電機車：1台</li> <li>・大量送水車：1台</li> <li>・移動式代替熱交換設備：1台</li> <li>・大型送水ポンプ車：1台</li> <li>・タンクローリー：1台</li> <li>・ホイールローダ：1台</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大量送水車：1台</li> </ul>

※：サブルートは、地震及び津波時に期待しない。  
 ※：各設備の保管場所・数量については、今後の検討結果等により変更となる可能性がある。  
 ※：各保管エリアには、可搬型重大事故等対策設備を記載。

第2図 可搬型設備 配置図

51m倉庫車庫エリア【T.P.+51m】	1,2号炉北側31mエリア【T.P.+31m】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・可搬型大型送水ポンプ車：2台</li> <li>・可搬型スプレインズル：2台</li> <li>・可搬型大容量海水送水ポンプ車：1台</li> <li>・放水砲：1台</li> <li>・泡混合設備：1台</li> <li>・放射性物質吸着剤：1組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可搬型大容量海水送水ポンプ車：1台</li> <li>・放水砲：1台</li> <li>・泡混合設備：1台</li> <li>・可搬型直流電源用発電機：1台</li> </ul>
緊急時対策所エリア【T.P.+39m】	2号炉東側31mエリア(a)【T.P.+31m】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時対策用発電機：4台</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可搬型大型送水ポンプ車：2台</li> <li>・可搬型スプレインズル：2台</li> <li>・可搬型代替電源車：2台</li> <li>・可搬型直流電源用発電機：1台</li> <li>・緊急時対策用発電機：2台</li> </ul>



1号炉西側31mエリア【T.P.+31m】	2号炉東側31mエリア(b)【T.P.+31m】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・可搬型代替電源車：1台</li> <li>・可搬型直流電源用発電機：1台</li> <li>・可搬型タンクローリー：2台</li> <li>・小型船舶：1隻</li> <li>・ホイールローダ：1台</li> <li>・バックホウ：1台</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可搬型大型送水ポンプ車：1台</li> <li>・可搬型直流電源用発電機：1台</li> <li>・可搬型タンクローリー：2台</li> <li>・ホイールローダ：1台</li> <li>・バックホウ：1台</li> <li>・緊急時対策用発電機：2台</li> <li>・小型船舶：1隻</li> </ul>
展望台行政管理道路脇西側60mエリア※1【T.P.+60m】	T.P.10m盤集水樹※2【T.P.+10m】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・可搬型大型送水ポンプ車：1台</li> <li>・可搬型代替電源車：1台</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性物質吸着剤：3組</li> </ul>

※1 本エリアには、保守点検による待機除時のバックアップのみを配備するため、重大事故等時にたぐちにアクセスする必要はない。  
 ※2 放射性物質吸着剤は、敷地T.P.+10mの想定される水位に対し、機能を喪失しないことから、1セットを使用場所である集水樹に保管する。  
 注：サブルートは、地震及び津波時には期待しない。自主整備ルートは、使用可能な場合に活用する。  
 注：各保管エリアには、可搬型重大事故等対策設備を記載。  
 注：各設備の保管場所・数量については、今後の検討結果等により変更となる可能性がある。  
 注：防潮堤外側のサブルートの位置及び茶津入構トンネルの形状については、今後の検討結果等により変更となる可能性がある。

第2図 可搬型設備 配置図

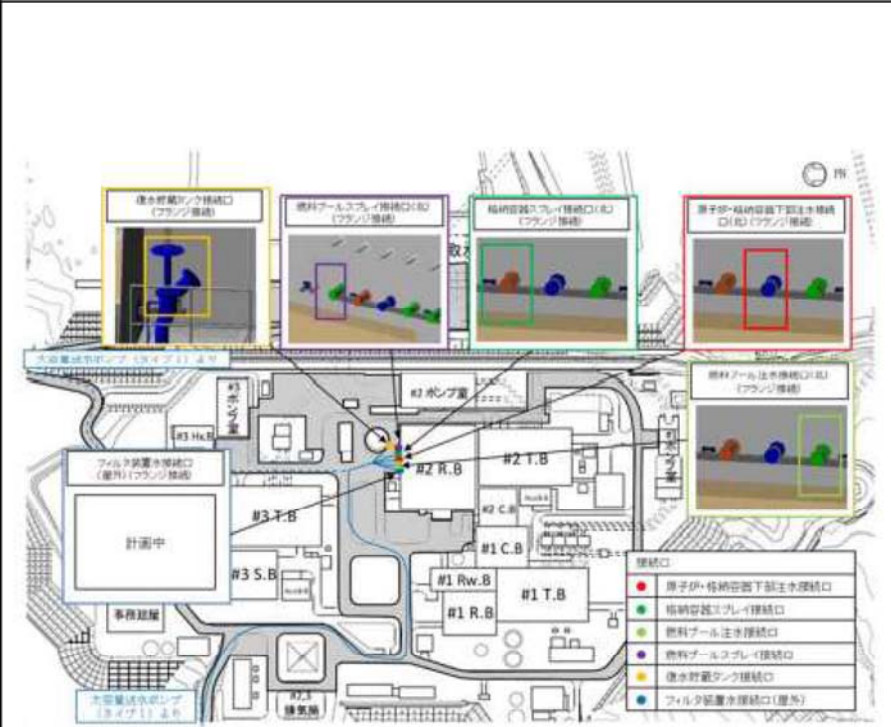
【女川】記載内容の相違・泊は可搬型設備の配置を記載



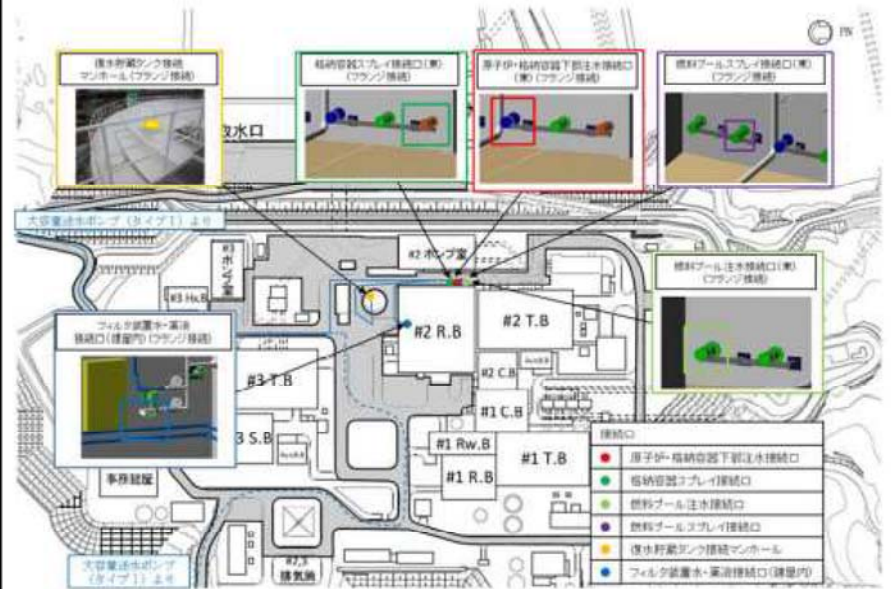
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

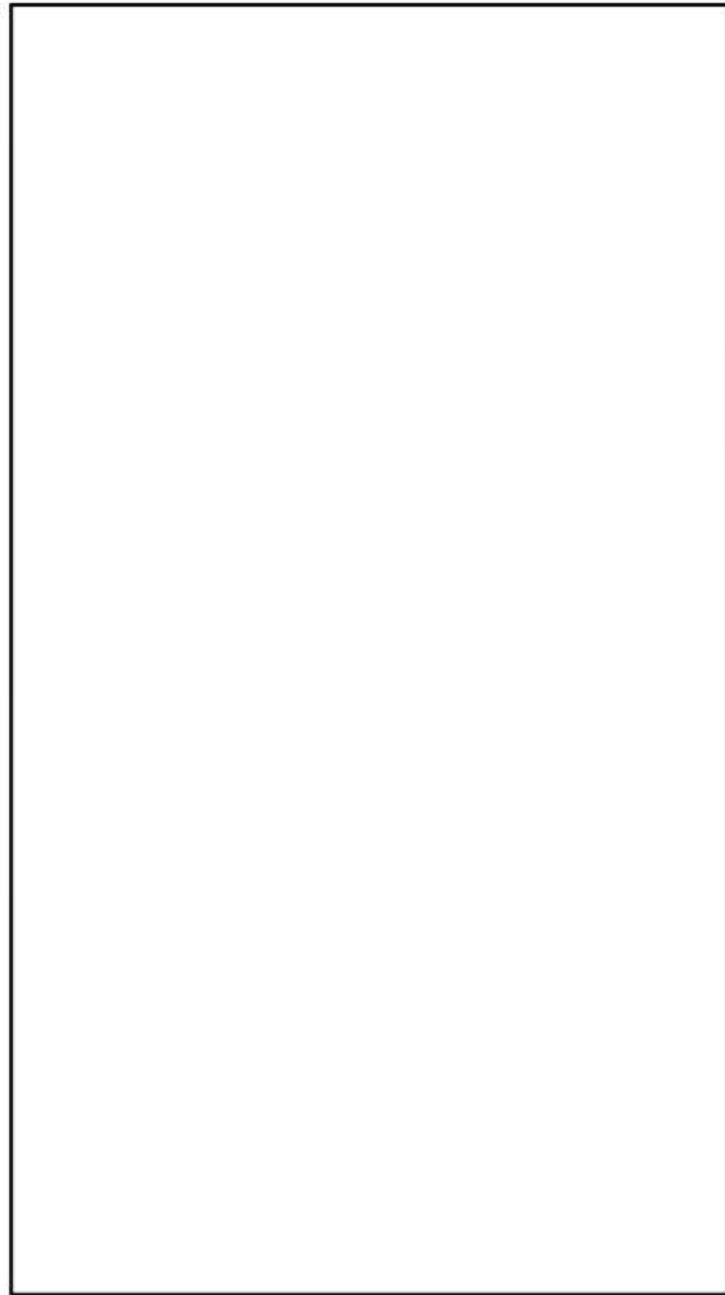


第2図 建屋接続場所 (1/7)



第2図 建屋接続場所 (2/7)

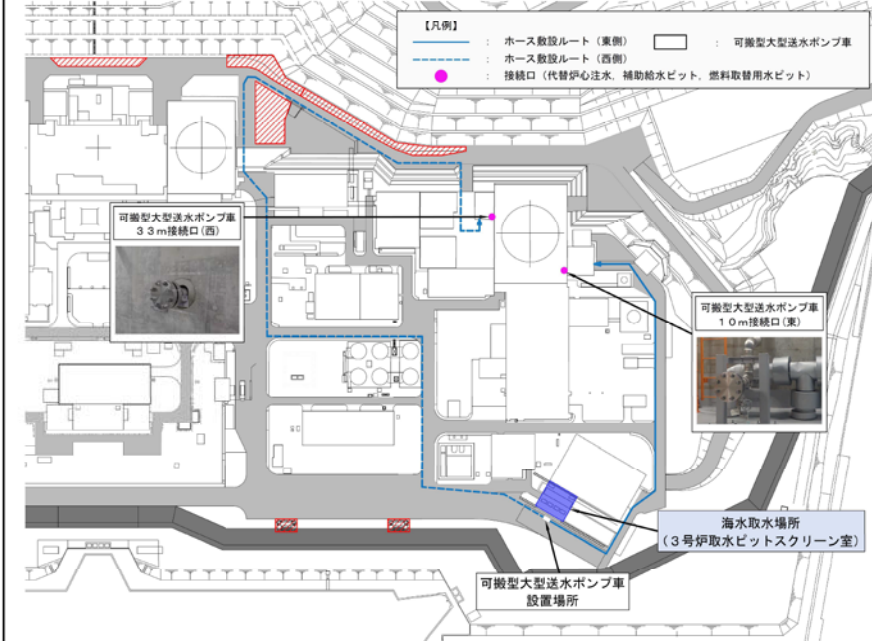
島根原子力発電所2号炉



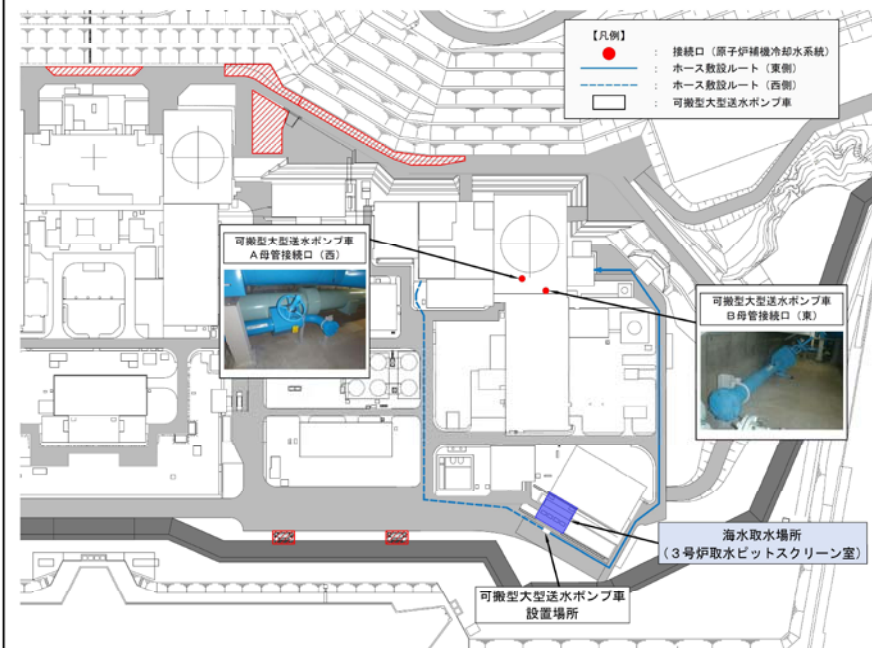
本資料のうち、特記の内容は機密に係る事項のため公開できません。

第3図 可搬型設備 接続口の配置図 (1/5)

泊発電所3号炉



第3図 建屋接続場所 (1/6)



第3図 建屋接続場所 (2/6)

相違理由

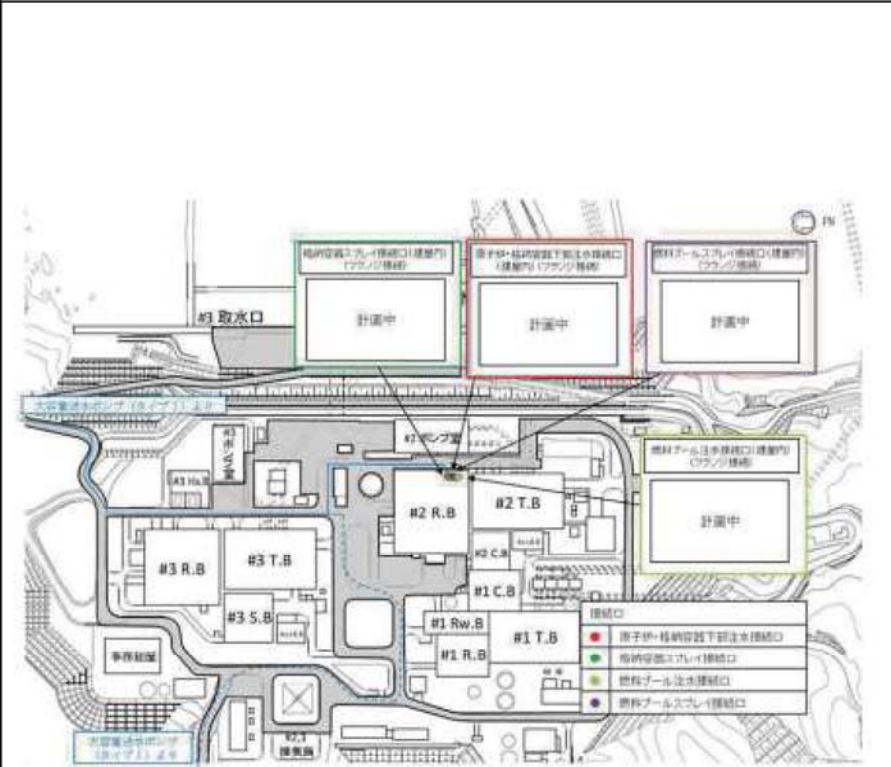
【女川及び島根】  
 記載内容の相違  
 ・プラントの相違による  
 建屋接続場所の相違



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

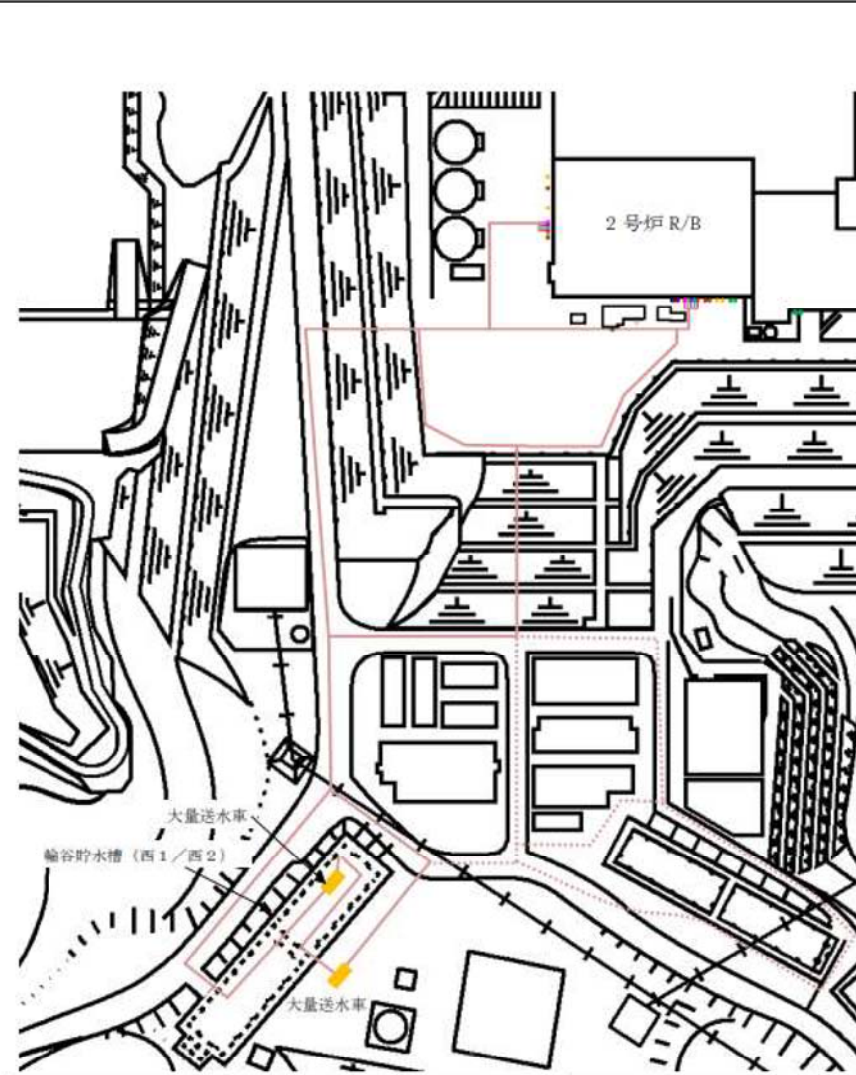
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉



第2図 建屋接続場所 (3/7)

島根原子力発電所2号炉

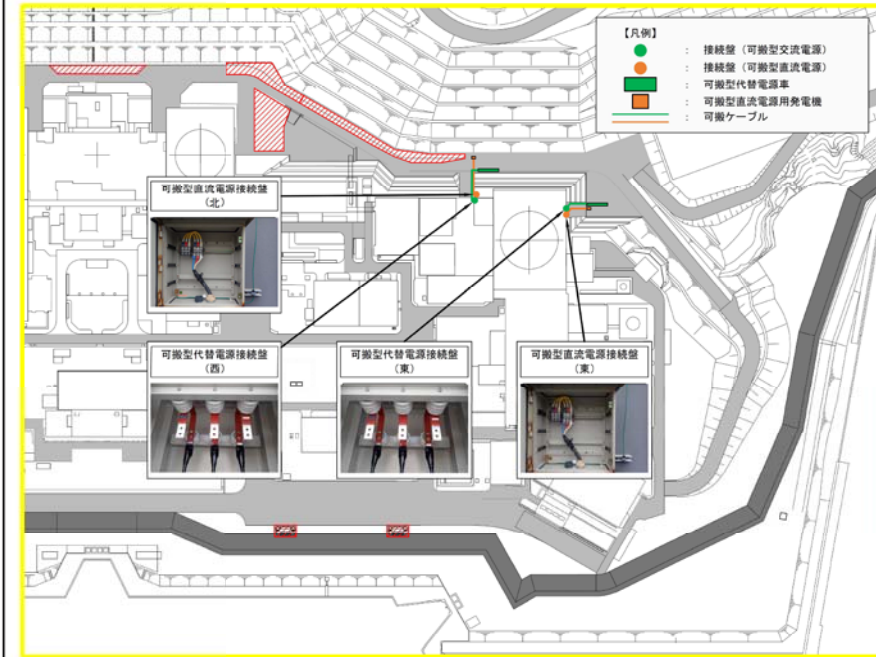


第3図 可搬型設備 接続口の配置図(2/5)

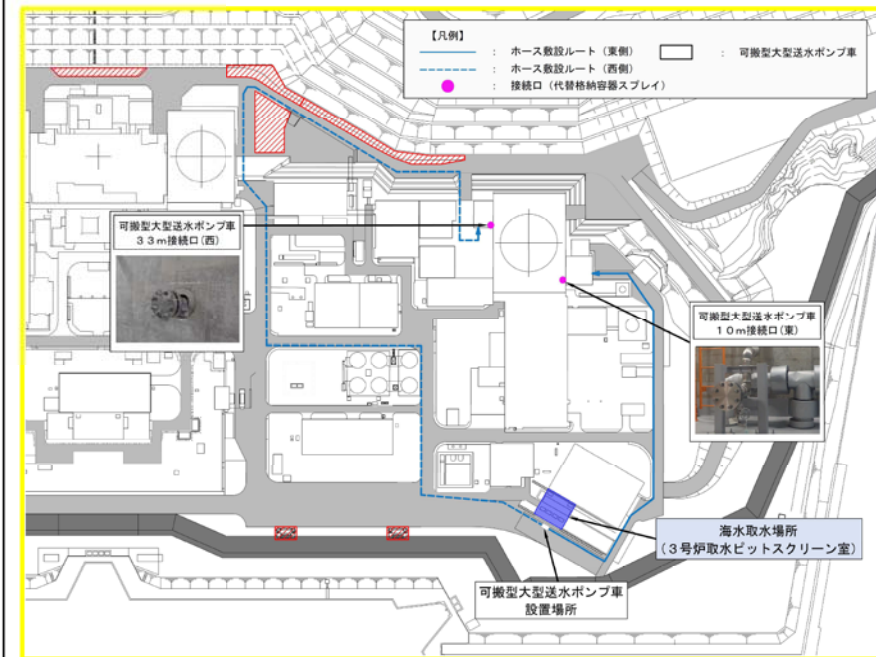
ホース・接続ルート	接続口	接続口
低圧原子炉代替注水系統(可搬型)	低圧原子炉代替注水系統(可搬型)接続口	定電圧代替注入系統(330V・7.5kVA)供給用接続口
格納容器代替注水系統(可搬型)	格納容器代替注水系統(可搬型)接続口	定電圧代替注入系統(7.5kVA)供給用接続口
燃料プール注水系統(可搬型)	燃料プール注水系統(可搬型)接続口	格納容器(400t)系定電圧供給用接続口
燃料プール注水系統(常設)	燃料プール注水系統(常設)接続口	格納容器(400t)系定電圧供給用接続口
原子炉格納容器注水系統	原子炉格納容器注水系統接続口	格納容器(400t)系水素濃度測定用接続口
各代替注水系統(77kV)	高圧発電機車接続口	緊急用メータラ接続プラグ盤
各代替注水系統(77kV)	高圧発電機車接続口	
	原子炉代替注水系統接続口	

泊発電所3号炉

相違理由



第3図 建屋接続場所 (3/6)



第3図 建屋接続場所 (4/6)

第2図 建屋接続場所 (4/7)

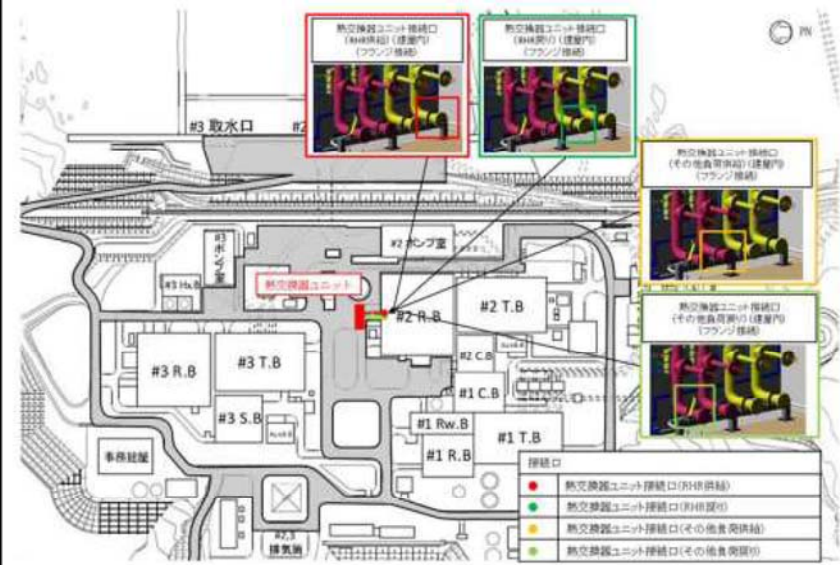
枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。



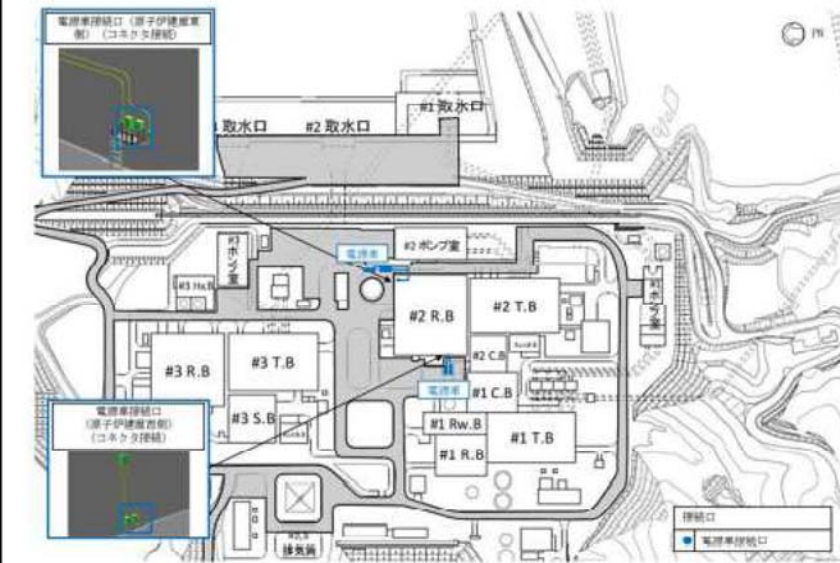
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

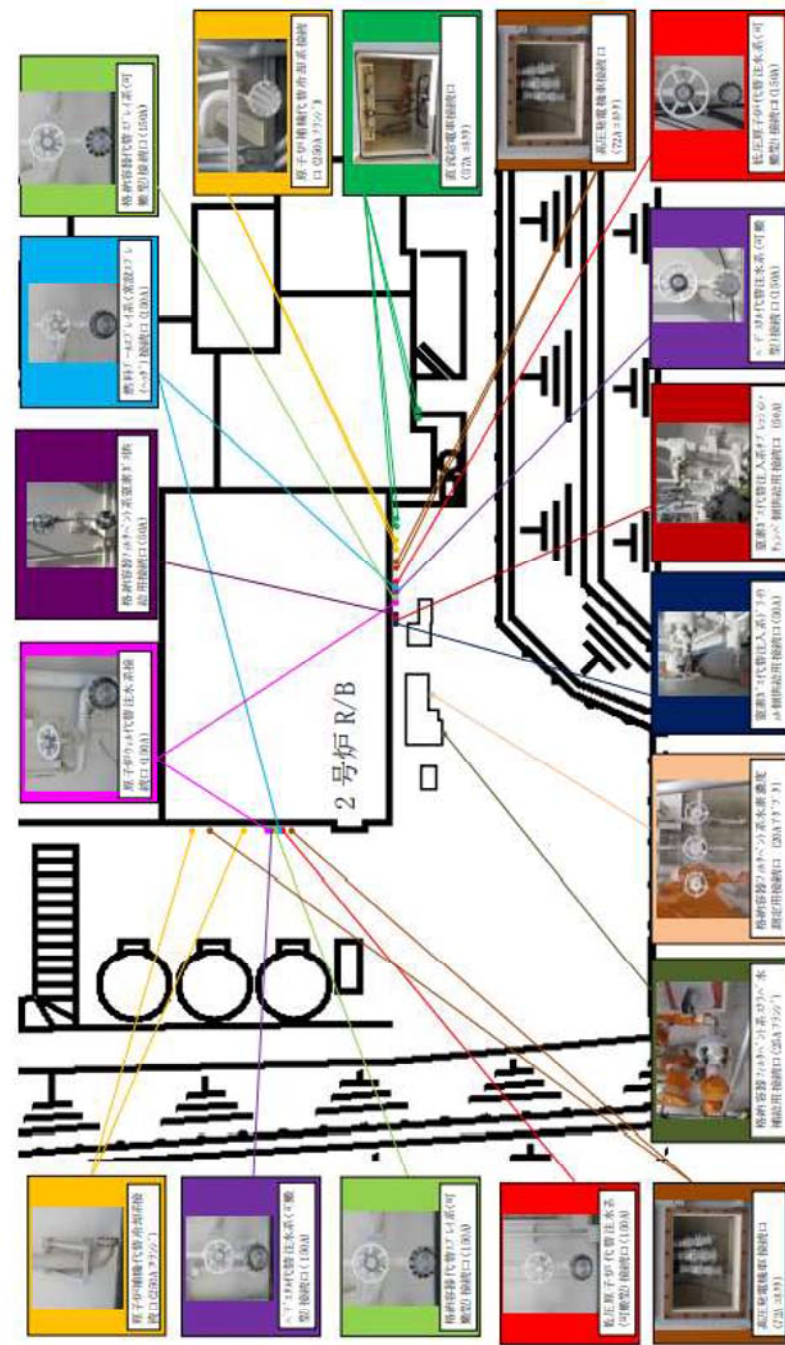


第2図 建屋接続場所 (5/7)



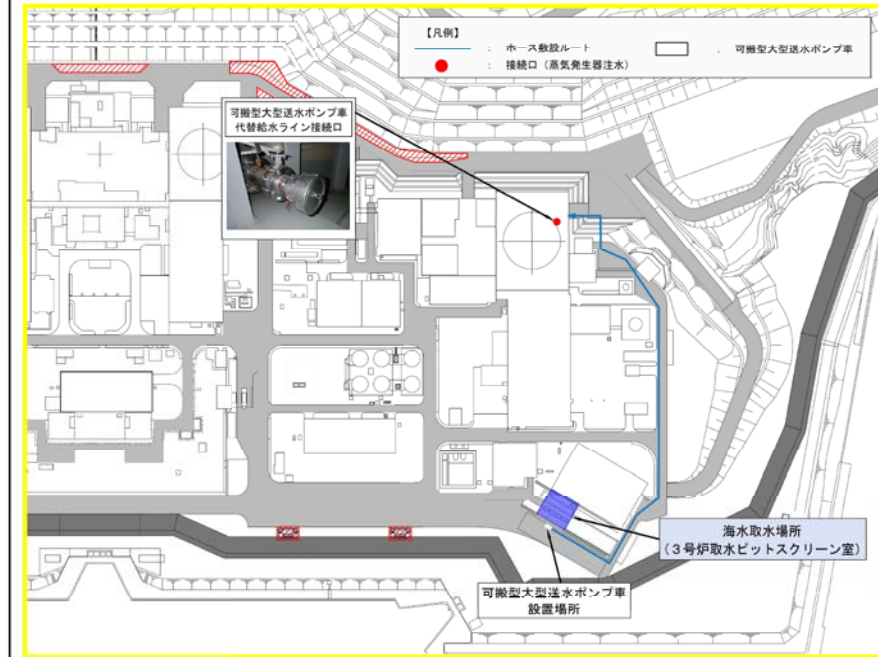
第2図 建屋接続場所 (6/7)

島根原子力発電所2号炉

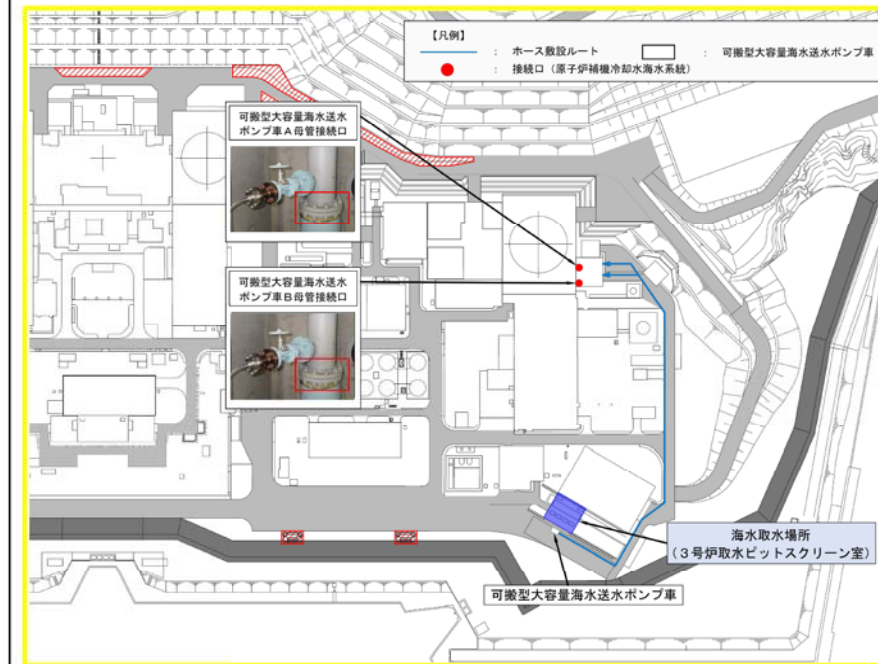


第3図 可搬型設備 接続口の配置図 (3/5)

泊発電所3号炉



第3図 建屋接続場所 (5/6)



第3図 建屋接続場所 (6/6)

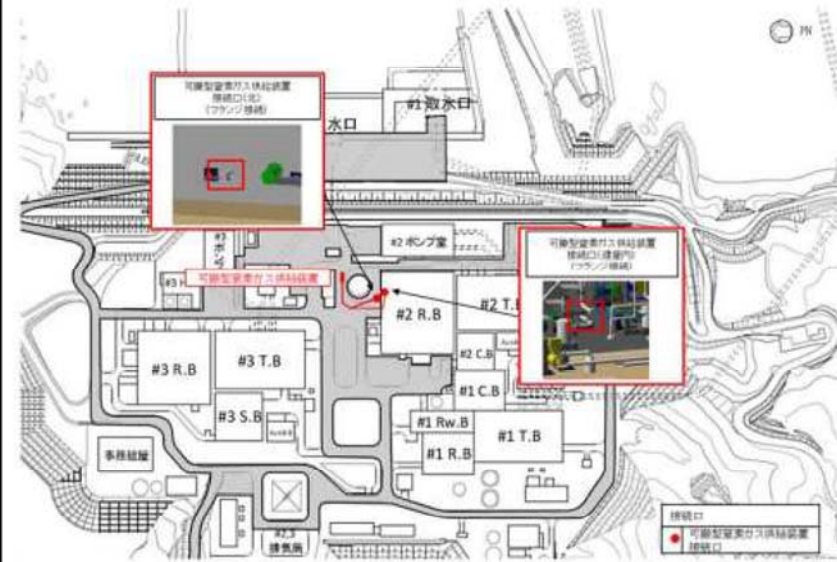
相違理由



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

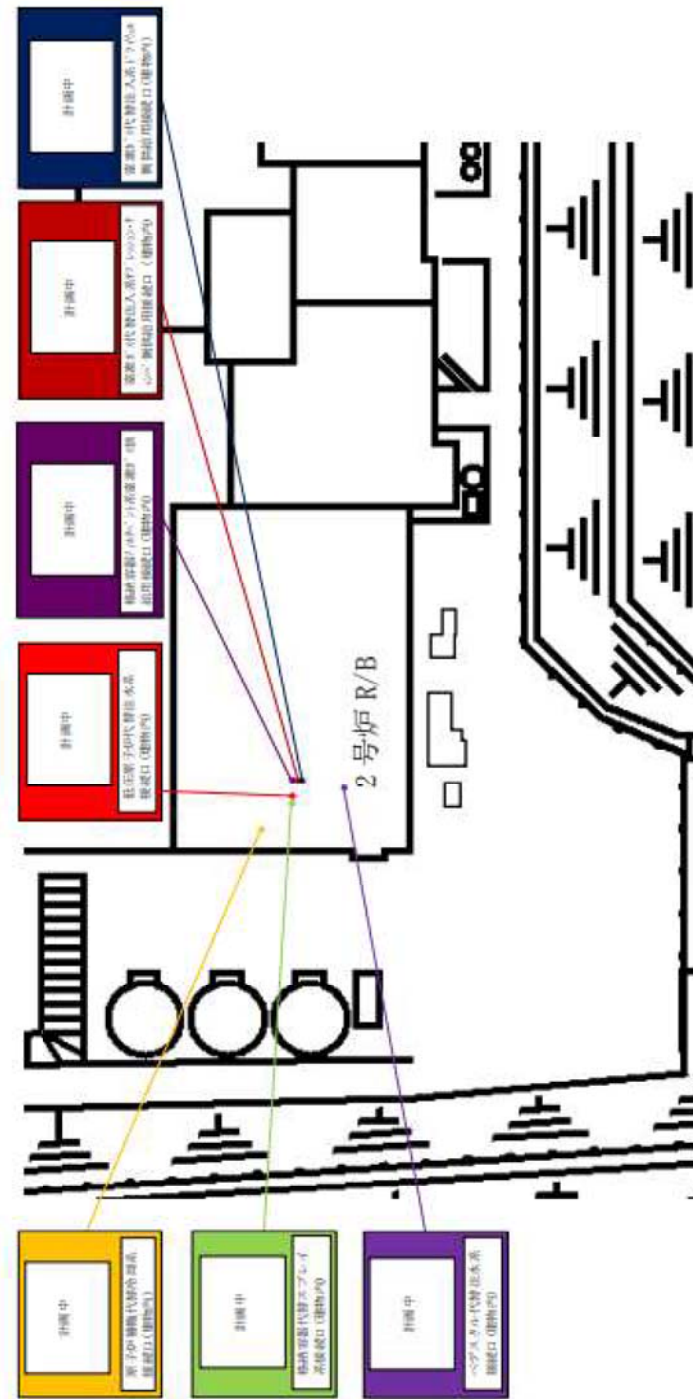
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉



第2図 建屋接続場所（7/7）

島根原子力発電所2号炉



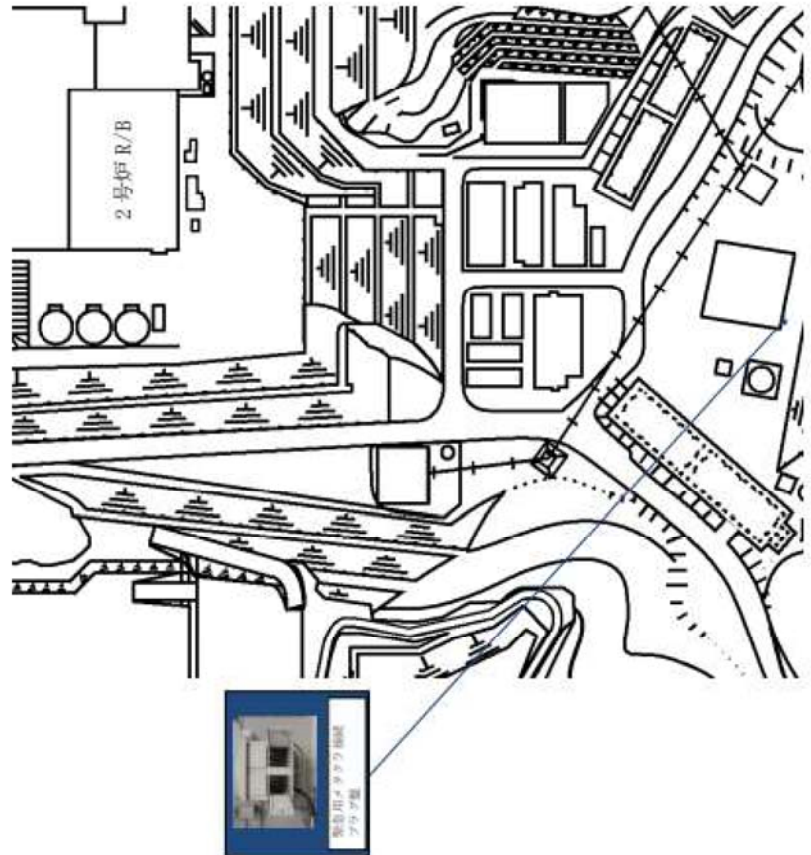
第3図 可搬型設備 接続口の配置図（4/5）

泊発電所3号炉

相違理由

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>第3図 可搬型設備 接続口の配置図 (5/5)</p>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

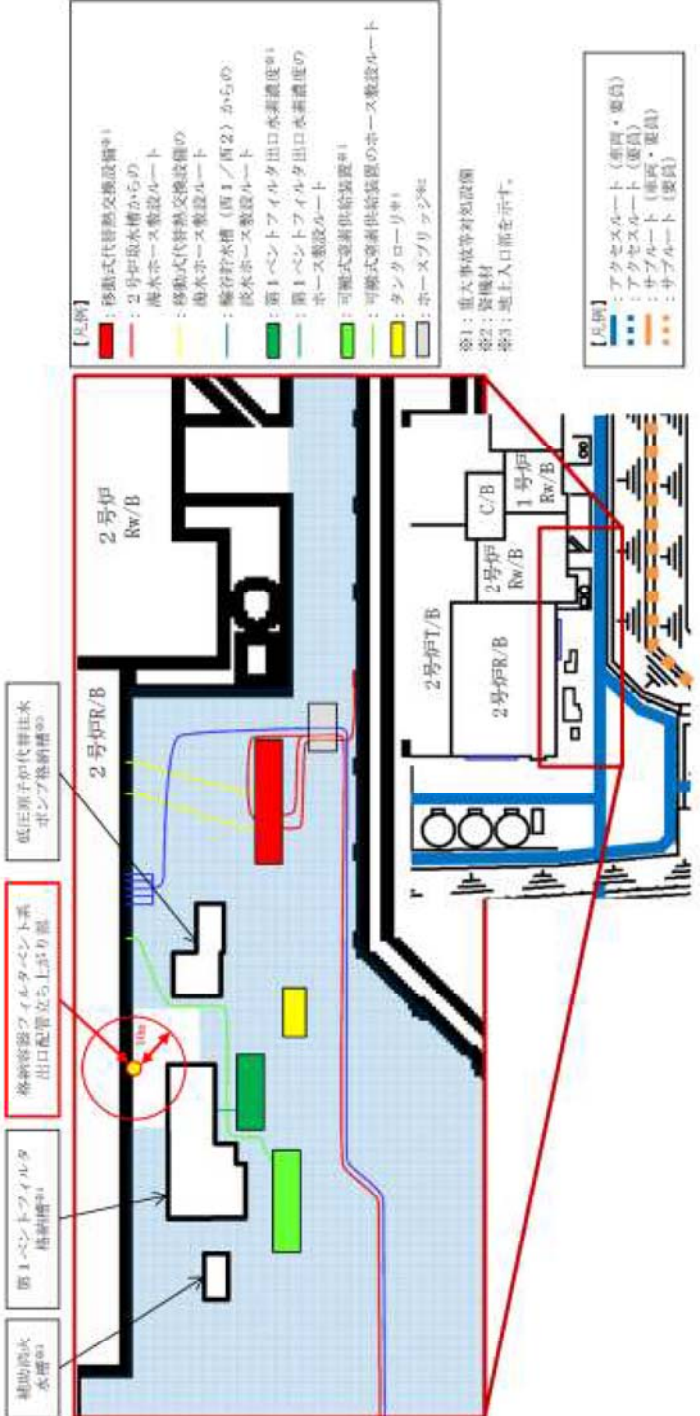
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																		
	<p>2. 可搬型設備の配置</p> <p>可搬型設備の配置に当たって、有効性評価シナリオのうち、可搬型設備の配置数が最も多いシナリオ（雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧・過温破損））を選択し、可搬型設備の配置が可能であること、ホース及びケーブル敷設が可能であることを確認した。</p> <p>ホース及びケーブル敷設完了後におけるタンクローリ等の車両通行が想定されるが、ホースブリッジの設置によってアクセス性を確保する。また、ホース及びケーブル同士の交差箇所は、治具等を設置することで、互いに干渉しないようにする。</p> <p>配置条件を第3表に、可搬型設備の配置図を第4、5図に示す。</p> <p style="text-align: center;">第3表 作業成立性の配置条件</p> <table border="1" data-bbox="946 716 1745 1136"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th colspan="2">条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有効性評価シナリオ</td> <td colspan="2">雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧・過温破損）</td> </tr> <tr> <td>配置する可搬型設備*</td> <td>                     大量送水車：1台                      移動式代替熱交換設備：1台                      大型送水ポンプ車：1台                 </td> <td>                     可搬式窒素供給装置：1台                      第1ペントフィルタ出口水素濃度：1台                      タンクローリ：1台                 </td> </tr> <tr> <td>接続口使用箇所</td> <td colspan="2">2号炉原子炉建物南側又は西側</td> </tr> <tr> <td>取水箇所</td> <td colspan="2">                     淡水：輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）                      海水：非常用取水設備（2号炉取水槽）                 </td> </tr> <tr> <td>ホース敷設前に配置する可搬型設備</td> <td>                     移動式代替熱交換設備：1台                 </td> <td>                     可搬式窒素供給装置：1台                      第1ペントフィルタ出口水素濃度：1台                 </td> </tr> </tbody> </table> <p><small>※：大量送水車は輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）、大型送水ポンプ車は非常用取水設備（2号炉取水槽）周辺に配置するため、第4、5図に記載していない。</small></p>	項目	条件		有効性評価シナリオ	雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧・過温破損）		配置する可搬型設備*	大量送水車：1台 移動式代替熱交換設備：1台 大型送水ポンプ車：1台	可搬式窒素供給装置：1台 第1ペントフィルタ出口水素濃度：1台 タンクローリ：1台	接続口使用箇所	2号炉原子炉建物南側又は西側		取水箇所	淡水：輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2） 海水：非常用取水設備（2号炉取水槽）		ホース敷設前に配置する可搬型設備	移動式代替熱交換設備：1台	可搬式窒素供給装置：1台 第1ペントフィルタ出口水素濃度：1台		<p>【島根】記載箇所の相違</p> <p>・泊は別紙（28）に有効性評価シナリオのうち、可搬型設備の配置数が最も多くなるシナリオでの可搬型設備の配置及びホースが可能であることを記載している。</p>
項目	条件																				
有効性評価シナリオ	雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧・過温破損）																				
配置する可搬型設備*	大量送水車：1台 移動式代替熱交換設備：1台 大型送水ポンプ車：1台	可搬式窒素供給装置：1台 第1ペントフィルタ出口水素濃度：1台 タンクローリ：1台																			
接続口使用箇所	2号炉原子炉建物南側又は西側																				
取水箇所	淡水：輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2） 海水：非常用取水設備（2号炉取水槽）																				
ホース敷設前に配置する可搬型設備	移動式代替熱交換設備：1台	可搬式窒素供給装置：1台 第1ペントフィルタ出口水素濃度：1台																			



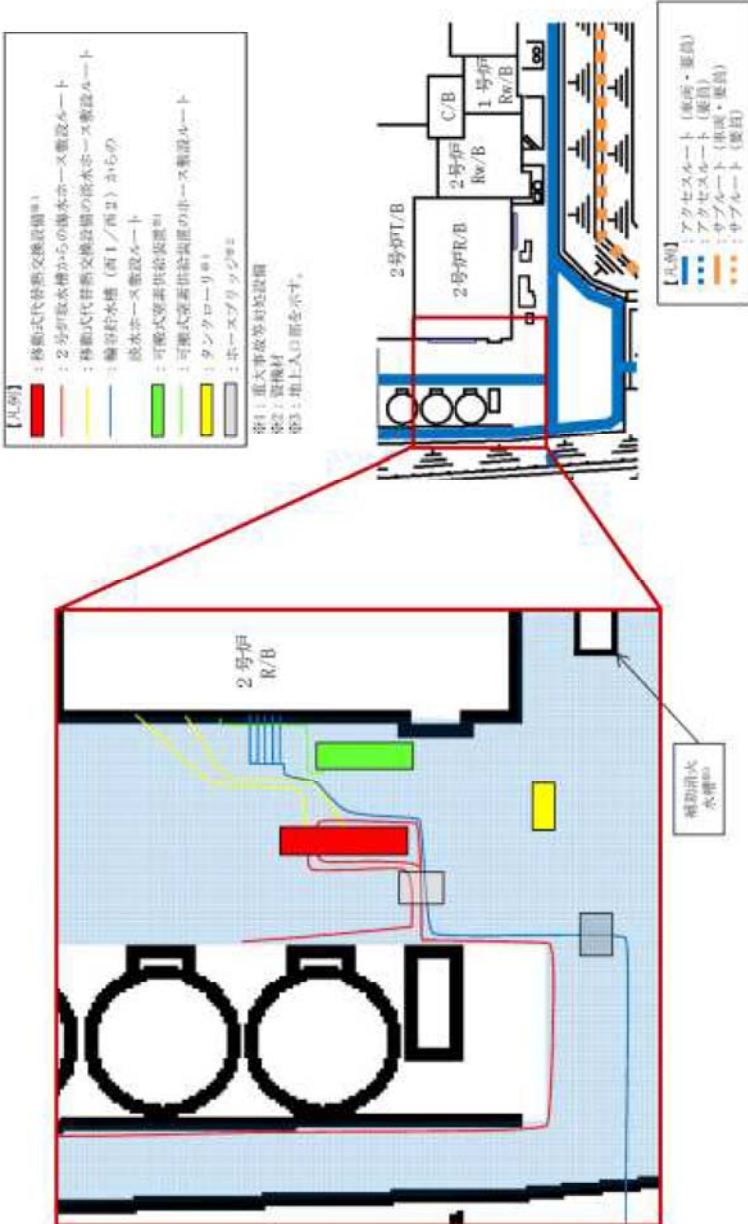
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
	 <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■：移動式代替給水設備*</li> <li>—：2号炉低圧槽からの高圧ホース敷設ルート</li> <li>—：移動式代替給水設備の給水ホース敷設ルート</li> <li>—：給水ホース敷設ルート</li> <li>—：第1ベントフィルタ出口水素濃度計ホース敷設ルート</li> <li>—：第1ベントフィルタ出口水素濃度計ホース敷設ルート</li> <li>—：可搬式空素供給装置のホース敷設ルート</li> <li>—：タンクローリヤ</li> <li>—：ホースリレー</li> </ul> <p>※1：重大事故等対策設備          ※2：資機材          ※3：地上入口前を示す。</p> <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●：アクセスルート（東側・東員）</li> <li>●：アクセスルート（西側・東員）</li> <li>●：サブルート（東側・東員）</li> <li>●：サブルート（西側・東員）</li> </ul> <p>補助給水 水塔          第1ベントフィルタ 格納槽          格納槽内フィルタベント系 出口配管立ち上がり部          低圧原子力代替給水 ポンプ格納槽</p>	<p>第4図 2号炉原子炉建物南側における可搬型設備の配置図</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>赤線：特種式汽機動交換設備</li> <li>青線：2号炉取水機からの取水ボース管設ルート</li> <li>黄線：特種式汽機動交換設備の取水ボース管設ルート</li> <li>緑線：輸送用水機（西1/西2）からの取水ボース管設ルート</li> <li>黒線：可搬式蒸気供給装置の取水ボース管設ルート</li> <li>白線：タンクローリー</li> <li>赤線：ボースワリタジ</li> </ul> <p>※1：重大事故等対策施設          ※2：管機材          ※3：地上入口部を示す。</p> <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>赤線：アクセスルート（東側・東島）</li> <li>青線：アクセスルート（東島）</li> <li>黄線：アクセスルート（西側・西島）</li> <li>黒線：サブルート（東島）</li> </ul>		相違理由

第5図 2号炉原子炉建物西側における可搬型設備の配置図

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

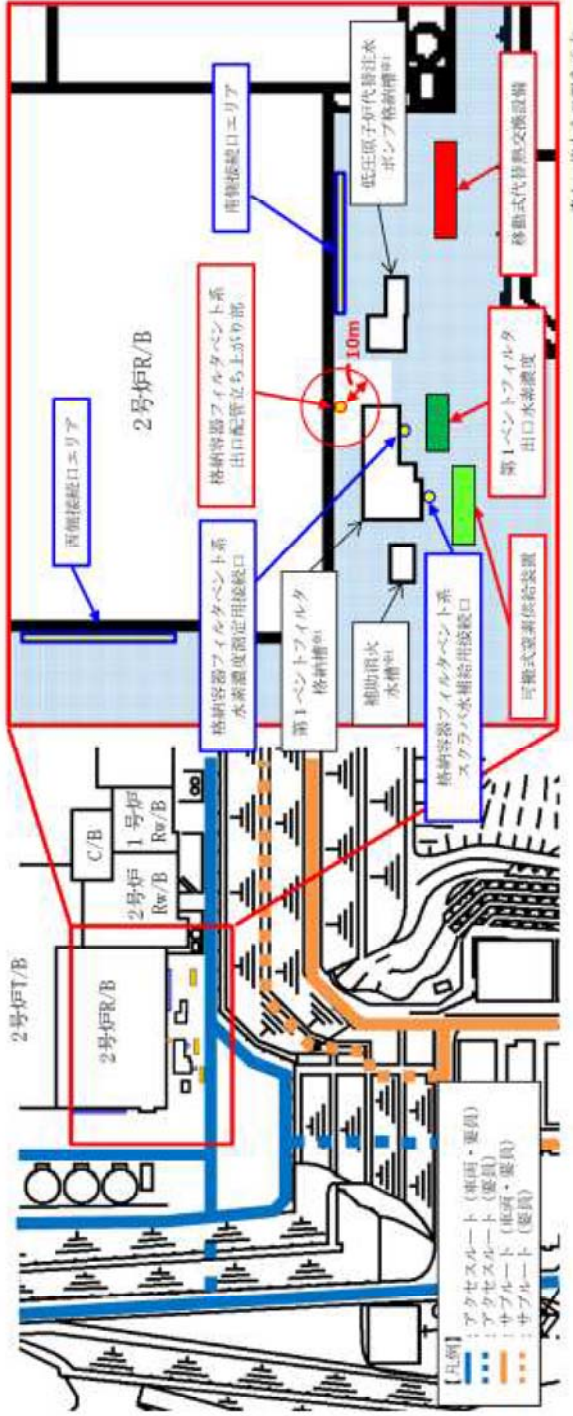
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																				
	<p>3. 環境条件</p> <p>可搬型設備の設置場所に対する環境条件について、2号炉原子炉建物南側に設置してある格納容器フィルタベント系出口配管立ち上がり部周辺における被ばく評価を実施した。ベント実施後に想定される作業を考慮した可搬型設備の配置図を第6図に示す。</p> <p>2号炉原子炉建物南側の格納容器フィルタベント系出口配管立ち上がり部周辺で、ベント実施直後に実施する作業は無いが、出口配管立ち上がり部から10m地点（2号炉原子炉建物南側接続口付近）において事故後約43時間（ベント後10時間）及び事故後7日時点、出口配管立ち上がり部から1m地点において事故後7日、30日、60日時点の線量率を評価した。なお、作業エリアの比較のため、2号炉原子炉建物西側接続口付近についても評価した。</p> <p>第4表に示す線量評価結果のとおり、短時間のアクセス等は可能な線量率であると考えられる。</p> <p>第4表 格納容器フィルタベント系出口配管立ち上がり部周辺の線量評価結果</p> <table border="1" data-bbox="943 877 1745 1369"> <thead> <tr> <th>評価場所</th> <th>事故後時間</th> <th>線量率 (nSv/h) <sup>※1</sup> (うち、配管寄与分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">評価点A (格納容器フィルタベント系出口配管立ち上がり部 (雨水排水ライン) から10m地点 (2号炉原子炉建物南側接続口付近))</td> <td>約43時間 (ベント後10時間)</td> <td>約13 (約2.5)</td> </tr> <tr> <td>7日 (168時間)</td> <td>約5.0 (約0.8)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">評価点A (格納容器フィルタベント系出口配管立ち上がり部 (雨水排水ライン) から1m地点)</td> <td>7日 (168時間)</td> <td>約85 (約81)</td> </tr> <tr> <td>30日</td> <td>約9.2 (約5.1)</td> </tr> <tr> <td>60日</td> <td>約6.2 (約2.1)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">評価点B (2号炉原子炉建物西側接続口付近)</td> <td>約43時間 (ベント後10時間)</td> <td>約9.0 (約-) <sup>※2</sup></td> </tr> <tr> <td>7日 (168時間)</td> <td>約3.7 (約-) <sup>※2</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：2号炉原子炉建物からの直接線・スカイシャイン線、クラウドシャイン、グランドシャイン、吸入摂取 (PF50 全面マスク着用) に加えて、W/Vベントに伴い格納容器フィルタベント系出口配管立ち上がり部に浮遊する放射性物質及び雨水排水ライン配管に蓄積する放射性物質 (格納容器フィルタベント系出口配管立ち上がり部に付着する放射性物質が全て地上近くの雨水排水ライン配管に移動するものと想定) を考慮して評価している。</p> <p>※2：格納容器フィルタベント系出口配管を直視できない場所のため、配管による線量はない。</p>	評価場所	事故後時間	線量率 (nSv/h) <sup>※1</sup> (うち、配管寄与分)	評価点A (格納容器フィルタベント系出口配管立ち上がり部 (雨水排水ライン) から10m地点 (2号炉原子炉建物南側接続口付近))	約43時間 (ベント後10時間)	約13 (約2.5)	7日 (168時間)	約5.0 (約0.8)	評価点A (格納容器フィルタベント系出口配管立ち上がり部 (雨水排水ライン) から1m地点)	7日 (168時間)	約85 (約81)	30日	約9.2 (約5.1)	60日	約6.2 (約2.1)	評価点B (2号炉原子炉建物西側接続口付近)	約43時間 (ベント後10時間)	約9.0 (約-) <sup>※2</sup>	7日 (168時間)	約3.7 (約-) <sup>※2</sup>		<p>【島根】記載内容の相違</p> <p>・島根は可搬型設備の設置場所周辺に設置されている格納容器フィルタベント系出口配管からの被ばく評価を実施している。泊は技術的能力1.7, 1.11, 1.13の添付資料において、屋外作業の被ばく評価を実施している。</p>
評価場所	事故後時間	線量率 (nSv/h) <sup>※1</sup> (うち、配管寄与分)																					
評価点A (格納容器フィルタベント系出口配管立ち上がり部 (雨水排水ライン) から10m地点 (2号炉原子炉建物南側接続口付近))	約43時間 (ベント後10時間)	約13 (約2.5)																					
	7日 (168時間)	約5.0 (約0.8)																					
評価点A (格納容器フィルタベント系出口配管立ち上がり部 (雨水排水ライン) から1m地点)	7日 (168時間)	約85 (約81)																					
	30日	約9.2 (約5.1)																					
	60日	約6.2 (約2.1)																					
評価点B (2号炉原子炉建物西側接続口付近)	約43時間 (ベント後10時間)	約9.0 (約-) <sup>※2</sup>																					
	7日 (168時間)	約3.7 (約-) <sup>※2</sup>																					



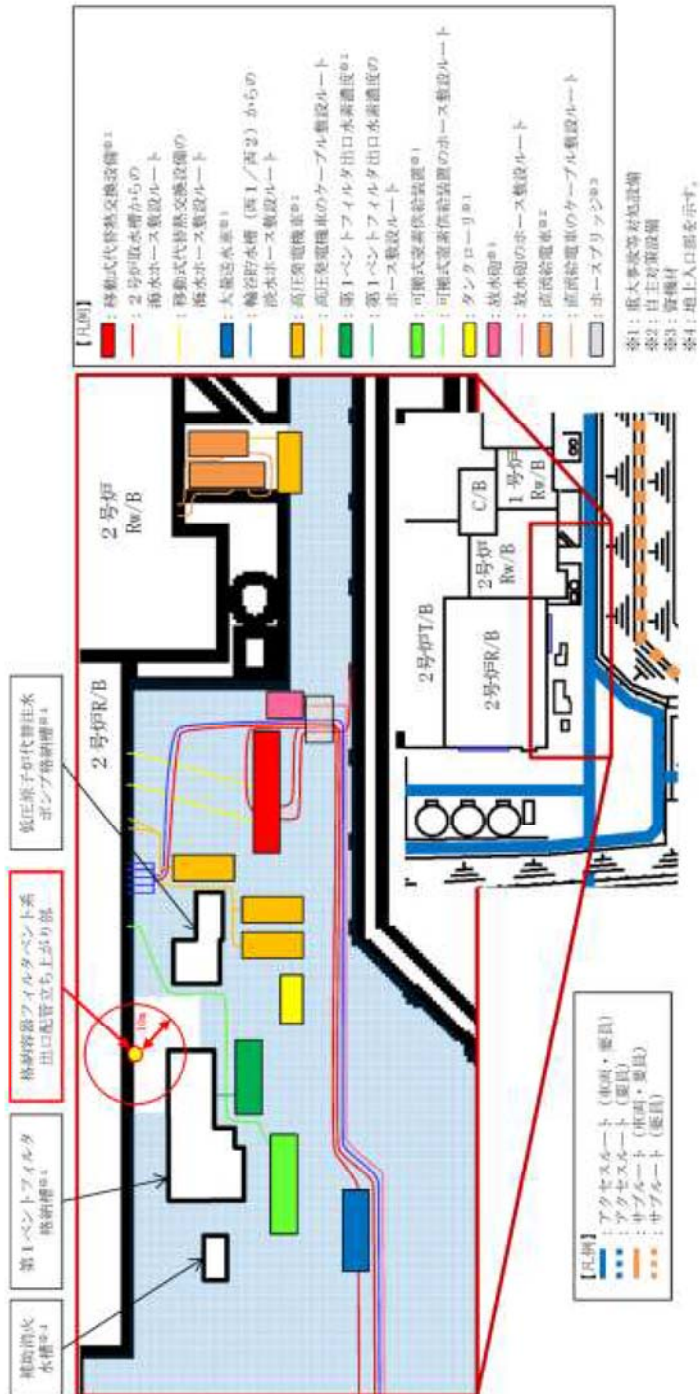
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			
	<p>第6図 ベント実施後に想定される可搬型設備の配置について</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

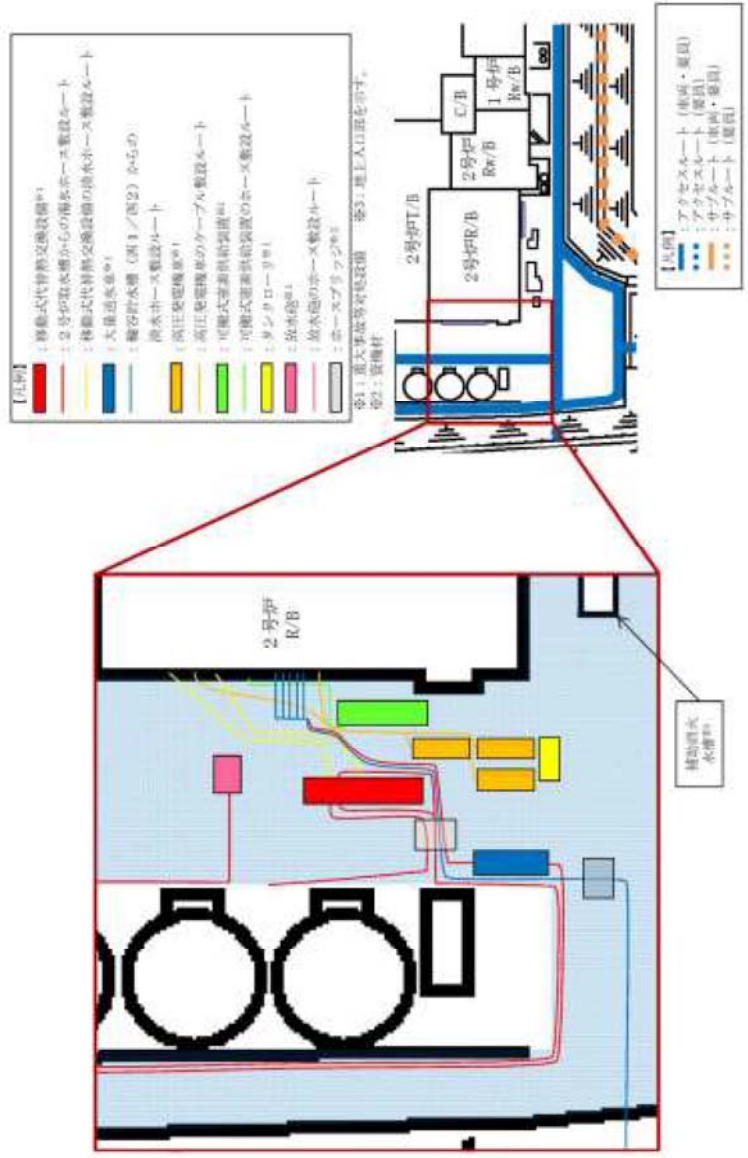
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>4. 全ての可搬型設備の配置</p> <p>自主対策設備を含めて全ての可搬型設備の配置が可能であること、また、ホース及びケーブル敷設が可能であることを確認した。なお、可搬型設備の配置図を第7、8図に示す。</p>  <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■：特殊式代替機交換設備</li> <li>■：2号炉取込機からの海水ホース敷設ルート</li> <li>■：特殊式代替機交換設備の海水ホース敷設ルート</li> <li>■：大連送水機</li> <li>■：輪送貯水機（第1/第2）からの海水ホース敷設ルート</li> <li>■：高圧巻取機</li> <li>■：高圧巻取機のケーブル敷設ルート</li> <li>■：第1ベントフイルタ出口水溜り槽</li> <li>■：第1ベントフイルタ出口水溜り槽のホース敷設ルート</li> <li>■：可搬式送水機供給設備</li> <li>■：可搬式送水機供給設備のホース敷設ルート</li> <li>■：タンクローリー</li> <li>■：放水機</li> <li>■：技術員のホース敷設ルート</li> <li>■：送水給電機</li> <li>■：送水給電機のケーブル敷設ルート</li> <li>■：ホースブランチ</li> </ul> <p>※1：緊急事故等対策設備          ※2：自主対策設備          ※3：管束付          ※4：地上入口部を示す。</p> <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●：アクセスルート（東側・要員）</li> <li>●：アクセスルート（西側・要員）</li> <li>●：サブルート（東側・要員）</li> <li>●：サブルート（西側・要員）</li> </ul>	<p>泊発電所3号炉</p>	<p>相違理由</p>

第7図 2号炉原子炉建物南側における可搬型設備の配置図（全ての可搬型設備を配置した場合）

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>第8図 2号炉原子炉建物西側における可搬型設備の配置図 (全ての可搬型設備を配置した場合)</p>		相違理由



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙(4)</p> <p style="text-align: center;">自然現象の重畳による影響について</p> <p>1. 自然現象の組合せ                      可搬型設備保管場所及びアクセスルートにおいて考慮する自然現象の組合せ事象の評価フローを第1図に示す。</p> <p style="text-align: center;">第1図 自然現象の組合せの評価フロー</p>	<p style="text-align: right;">別紙(1)</p> <p style="text-align: center;">保管場所、屋外及び屋内のアクセスルートへの自然現象の重畳による影響について</p>	<p style="text-align: right;">別紙(4)</p> <p style="text-align: center;">保管場所、屋外及び屋内のアクセスルートへの自然現象の重畳による影響について</p> <p>1. 自然現象の組合せ                      可搬型設備保管場所及びアクセスルートにおいて考慮する自然現象の組合せ事象の評価フローを第1図に示す。</p> <p style="text-align: center;">第1図 自然現象の組合せの評価フロー</p>	<p style="text-align: center;">相違理由</p> <p>【島根】記載内容の相違                      ・外部事象の選定結果及び資料構成の相違                      【女川】記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(1) 組合せを検討する自然現象</p> <p>自然現象の組合せについては、発電所敷地で想定される自然現象（地震、津波を除く。）として抽出された12事象から、洪水、地滑り及び高潮を除いた9事象に、地震及び津波を加えた11事象で網羅的に組合せの検討を実施する。</p> <p>組合せを検討する女川原子力発電所で想定される自然現象は以下に示すとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・風(台風)</li> <li>・竜巻</li> <li>・凍結</li> <li>・降水</li> <li>・積雪</li> <li>・落雷</li>   <li>・火山の影響</li> <li>・生物学的事象</li> <li>・森林火災</li> <li>・地震</li> <li>・津波</li> </ul> <p>組合せに当たっては、発生頻度が比較的高いと考えられる風(台風)、凍結、降水又は積雪について、その他の自然現象と組み合わせる前に同時に発生するものとして取り扱う。</p> <p>ただし、凍結と降水、降水と積雪の組合せは同時に発生することは考えられない、又は与える影響が自然現象を重ね合わせることで個々の自然現象が与える影響より緩和されることを考慮し、11事象のうち、風(台風)、凍結、降水、積雪以外の自然現象との組合せは、風(台風)+降水及び風(台風)+凍結+積雪の2つをあらかじめ想定する。</p> <p>以上を踏まえた自然現象の組合せを第1表に示す。</p>	<p>自然現象の重畳として、発電所敷地で想定される自然現象（地震、津波を除く。）として抽出した10事象（洪水、風(台風)、竜巻、凍結、降水、積雪、落雷、地滑り・土石流、火山の影響、生物学的事象）から、敷地に影響を及ぼすことがないと判断した、洪水を除いた9事象に、地震、津波及び人為事象として整理した森林火災を加えた12事象について影響を評価した。</p> <p>自然現象の組合せを第1表に示す。</p>	<p>(1) 組合せを検討する自然現象</p> <p>自然現象の組合せについては、発電所敷地で想定される自然現象（地震、津波を除く。）として抽出された12事象から、洪水及び津波に包絡される高潮を除いた10事象に、地震及び津波を加えた12事象で網羅的に組合せの検討を実施する。</p> <p>組合せを検討する泊発電所で想定される自然現象は以下に示すとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・風(台風)</li> <li>・竜巻</li> <li>・凍結</li> <li>・降水</li> <li>・積雪</li> <li>・落雷</li> <li>・地滑り</li> <li>・火山の影響</li> <li>・生物学的事象</li> <li>・森林火災</li> <li>・地震</li> <li>・津波</li> </ul> <p>組合せに当たっては、発生頻度が比較的高いと考えられる風(台風)、凍結、降水又は積雪について、その他の自然現象と組み合わせる前に同時に発生するものとして取り扱う。</p> <p>ただし、凍結と降水、降水と積雪の組合せは同時に発生することは考えられない、又は与える影響が自然現象を重ね合わせることで個々の自然現象が与える影響より緩和されることを考慮し、12事象のうち、風(台風)、凍結、降水、積雪以外の自然現象との組合せは、風(台風)+降水及び風(台風)+凍結+積雪の2つをあらかじめ想定する。</p> <p>以上を踏まえた自然現象の組合せを第1表に示す。</p>	<p>【島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部事象の選定結果及び資料構成の相違</li> </ul>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

第1表 自然現象の組合せ

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
A	※1								
B	※2	1							
C	竜巻	2	9						
D	落雷	3	10	16					
E	火山の影響	4	11	17	22				
F	生物学的事象	5	12	18	23	27			
G	森林火災	6	13	19	24	28	31		
H	地震	7	14	20	25	29	32	34	
I	津波	8	15	21	26	30	33	35	36

※1：風(台風)+降水  
 ※2：風(台風)+凍結+積雪

島根原子力発電所2号炉

第1表 自然現象の組合せ

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
A	※1									
B	※2	1								
C	竜巻	2	10							
D	落雷	3	11	18						
E	地滑り・土石流	4	12	19	25					
F	火山の影響	5	13	20	26	31				
G	生物学的事象	6	14	21	27	32	36			
H	森林火災	7	15	22	28	33	37	40		
I	地震	8	16	23	29	34	38	41	43	
J	津波	9	17	24	30	35	39	42	44	45

※1：風(台風)+降水  
 ※2：風(台風)+凍結+積雪

泊発電所3号炉

第1表 自然現象の組合せ

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
A	※1									
B	※2	1								
C	竜巻	2	10							
D	落雷	3	11	18						
E	地滑り	4	12	19	25					
F	火山の影響	5	13	20	26	31				
G	生物学的事象	6	14	21	27	32	36			
H	森林火災	7	15	22	28	33	37	40		
I	地震	8	16	23	29	34	38	41	43	
J	津波	9	17	24	30	35	39	42	44	45

※1：風(台風)+降水  
 ※2：風(台風)+凍結+積雪

相違理由

【女川及び島根】  
 記載内容の相違  
 ・外部事象の選定結果の相違



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
<p>(2) 影響モードの整理                      各自然現象がもたらす影響モードを第2表に示す。また、可搬型設備、屋外アクセスルート及び屋内アクセスルートに影響を及ぼす影響モードについて第3表のとおり整理した。</p> <p>第2表 想定される自然現象とプラントにもたらす影響モード</p> <table border="1" data-bbox="94 415 908 940"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="9">影響モード</th> </tr> <tr> <th>荷重</th> <th>温度</th> <th>閉塞</th> <th>浸水</th> <th>電氣的影響</th> <th>腐食</th> <th>磨耗</th> <th>アクセス性</th> <th>視認性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>風(台風)</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>竜巻</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>凍結</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>降水</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>積雪</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>落雷</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>火山の影響</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>生物学的事象</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>森林火災</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>地震</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>津波</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr> </tbody> </table> <p>第3表 可搬型設備、屋外アクセスルート及び屋内アクセスルートに影響を及ぼす影響モード</p> <table border="1" data-bbox="94 1182 908 1562"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="9">影響を及ぼす影響モード</th> </tr> <tr> <th>荷重</th> <th>温度</th> <th>閉塞</th> <th>浸水</th> <th>電氣的影響</th> <th>腐食</th> <th>磨耗</th> <th>アクセス性</th> <th>視認性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>可搬型設備</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>屋外アクセスルート</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>屋内アクセスルート</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>		影響モード									荷重	温度	閉塞	浸水	電氣的影響	腐食	磨耗	アクセス性	視認性	風(台風)	○	—	—	—	—	—	—	○	—	竜巻	○	—	—	—	—	—	—	○	—	凍結	—	○	○	—	—	—	—	○	—	降水	—	—	—	○	—	—	—	—	○	積雪	○	—	—	—	—	—	—	○	○	落雷	—	—	—	—	○	—	—	—	—	火山の影響	○	—	○	—	○	○	○	○	○	生物学的事象	—	—	○	—	○	—	—	—	—	森林火災	—	○	○	—	○	—	○	○	○	地震	○	—	—	—	—	—	—	○	○	津波	○	—	—	○	—	—	—	○	—		影響を及ぼす影響モード									荷重	温度	閉塞	浸水	電氣的影響	腐食	磨耗	アクセス性	視認性	可搬型設備	○	○	○	○	○	○	○	—	—	屋外アクセスルート	—	—	—	—	—	—	—	○	—	屋内アクセスルート	○	—	—	○	—	—	—	—	—	<p>各自然現象がもたらす影響モードを第2表に示す。</p> <p>第2表 各自然現象がもたらす影響モード</p> <table border="1" data-bbox="926 415 1748 1241"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="9">プラントに及ぼす影響</th> </tr> <tr> <th>荷重</th> <th>温度</th> <th>閉塞</th> <th>浸水</th> <th>電氣的影響</th> <th>腐食</th> <th>磨耗</th> <th>アクセス性</th> <th>視認性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>風(台風)</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>竜巻</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>凍結</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>降水</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>積雪</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>落雷</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>地滑り・土石流</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>火山の影響</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>生物学的事象</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>森林火災</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>地震</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>津波</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>		プラントに及ぼす影響									荷重	温度	閉塞	浸水	電氣的影響	腐食	磨耗	アクセス性	視認性	風(台風)	○	—	—	—	—	—	—	○	—	竜巻	○	—	—	—	—	—	—	○	—	凍結	—	○	○	—	—	—	—	○	—	降水	○	—	—	○	—	—	—	○	○	積雪	○	—	○	—	—	—	—	○	○	落雷	—	—	—	—	○	—	—	—	—	地滑り・土石流	○	—	—	—	—	—	—	○	—	火山の影響	○	—	○	—	○	○	○	○	○	生物学的事象	—	—	○	—	○	—	—	—	—	森林火災	—	○	○	—	○	—	○	○	○	地震	○	—	—	—	—	—	—	○	○	津波	○	—	—	○	—	—	—	○	—	<p>(2) 影響モードの整理                      各自然現象がもたらす影響モードを第2表に示す。また、可搬型設備、屋外アクセスルート及び屋内アクセスルートに影響を及ぼす影響モードについて第3表のとおり整理した。</p> <p>第2表 想定される自然現象とプラントにもたらす影響モード</p> <table border="1" data-bbox="1765 428 2591 1085"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="9">影響モード</th> </tr> <tr> <th>荷重</th> <th>温度</th> <th>閉塞</th> <th>浸水</th> <th>電氣的影響</th> <th>腐食</th> <th>磨耗</th> <th>アクセス性</th> <th>視認性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>風(台風)</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>竜巻</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>凍結</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>降水</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>積雪</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>落雷</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>地滑り</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>火山の影響</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>生物学的事象</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>森林火災</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>地震</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>津波</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr> </tbody> </table> <p>第3表 可搬型設備、屋外アクセスルート及び屋内アクセスルートに影響を及ぼす影響モード</p> <table border="1" data-bbox="1765 1247 2591 1669"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="9">影響モード</th> </tr> <tr> <th>荷重</th> <th>温度</th> <th>閉塞</th> <th>浸水</th> <th>電氣的影響</th> <th>腐食</th> <th>磨耗</th> <th>アクセス性</th> <th>視認性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>可搬型設備</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>屋外アクセスルート</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>屋内アクセスルート</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>		影響モード									荷重	温度	閉塞	浸水	電氣的影響	腐食	磨耗	アクセス性	視認性	風(台風)	○	—	—	—	—	—	—	○	—	竜巻	○	—	—	—	—	—	—	○	—	凍結	—	○	○	—	—	—	—	○	—	降水	—	—	—	○	—	—	—	—	○	積雪	○	—	—	—	—	—	—	○	○	落雷	—	—	—	—	○	—	—	—	—	地滑り	○	—	—	—	—	—	—	○	—	火山の影響	○	—	○	—	○	○	○	○	○	生物学的事象	—	—	○	—	○	—	—	—	—	森林火災	—	○	○	—	○	—	○	○	○	地震	○	—	—	—	—	—	—	○	○	津波	○	—	—	○	—	—	—	○	—		影響モード									荷重	温度	閉塞	浸水	電氣的影響	腐食	磨耗	アクセス性	視認性	可搬型設備	○	○	○	○	○	○	○	—	—	屋外アクセスルート	—	—	—	—	—	—	—	○	—	屋内アクセスルート	○	—	—	○	—	—	—	—	—	<p>【島根】 記載内容の相違                      ・外部事象の選定結果及び資料構成の相違</p> <p>【女川】 記載内容の相違                      ・外部事象の選定結果の相違</p>
		影響モード																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	荷重	温度	閉塞	浸水	電氣的影響	腐食	磨耗	アクセス性	視認性																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
風(台風)	○	—	—	—	—	—	—	○	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
竜巻	○	—	—	—	—	—	—	○	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
凍結	—	○	○	—	—	—	—	○	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
降水	—	—	—	○	—	—	—	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
積雪	○	—	—	—	—	—	—	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
落雷	—	—	—	—	○	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
火山の影響	○	—	○	—	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
生物学的事象	—	—	○	—	○	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
森林火災	—	○	○	—	○	—	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
地震	○	—	—	—	—	—	—	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
津波	○	—	—	○	—	—	—	○	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	影響を及ぼす影響モード																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	荷重	温度	閉塞	浸水	電氣的影響	腐食	磨耗	アクセス性	視認性																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
可搬型設備	○	○	○	○	○	○	○	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
屋外アクセスルート	—	—	—	—	—	—	—	○	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
屋内アクセスルート	○	—	—	○	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	プラントに及ぼす影響																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	荷重	温度	閉塞	浸水	電氣的影響	腐食	磨耗	アクセス性	視認性																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
風(台風)	○	—	—	—	—	—	—	○	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
竜巻	○	—	—	—	—	—	—	○	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
凍結	—	○	○	—	—	—	—	○	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
降水	○	—	—	○	—	—	—	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
積雪	○	—	○	—	—	—	—	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
落雷	—	—	—	—	○	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
地滑り・土石流	○	—	—	—	—	—	—	○	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
火山の影響	○	—	○	—	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
生物学的事象	—	—	○	—	○	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
森林火災	—	○	○	—	○	—	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
地震	○	—	—	—	—	—	—	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
津波	○	—	—	○	—	—	—	○	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	影響モード																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	荷重	温度	閉塞	浸水	電氣的影響	腐食	磨耗	アクセス性	視認性																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
風(台風)	○	—	—	—	—	—	—	○	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
竜巻	○	—	—	—	—	—	—	○	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
凍結	—	○	○	—	—	—	—	○	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
降水	—	—	—	○	—	—	—	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
積雪	○	—	—	—	—	—	—	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
落雷	—	—	—	—	○	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
地滑り	○	—	—	—	—	—	—	○	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
火山の影響	○	—	○	—	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
生物学的事象	—	—	○	—	○	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
森林火災	—	○	○	—	○	—	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
地震	○	—	—	—	—	—	—	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
津波	○	—	—	○	—	—	—	○	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	影響モード																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	荷重	温度	閉塞	浸水	電氣的影響	腐食	磨耗	アクセス性	視認性																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
可搬型設備	○	○	○	○	○	○	○	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
屋外アクセスルート	—	—	—	—	—	—	—	○	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
屋内アクセスルート	○	—	—	○	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																			
<p>(3) 組合せの評価</p> <p>第1表に示すA, B及び1から36までの自然現象の組合せについて、保管場所、屋外ルート、屋内ルートに対して第4表のとおり影響を評価した、自然現象を組み合わせたとしても重大事故への対応は可能であることを確認した。</p> <p>なお、荷重の影響モードをもつ自然現象については、津波と地震、地震と積雪と風（台風）、津波と積雪と風（台風）及び火山の影響と風（台風）と積雪の組合せを考慮するが、これらについては、事象が重畳したとしても荷重による影響の程度が変化するのみである。</p> <p style="text-align: center;">第4表 自然現象の組合せによる影響評価</p> <table border="1" data-bbox="106 657 905 1470"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th colspan="2">評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">A 風(台風) +降水</td> <td>保管場所</td> <td>風(台風)及び降水の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>降水時に風(台風)による飛散物の撤去作業を行う必要があるため、作業効率が低下するもの、全く作業ができなくなることは考えにくい。 また、風(台風)による飛散物により排水路が閉塞し、降水によって冠水する可能性があるが、排水路については、大雨や台風の接近が予想される場合は事前の点検を実施し、必要に応じて清掃を行い、排水機能を維持することから風(台風)及び降水が重畳しても影響はない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">B 風(台風) +凍結 +積雪</td> <td>保管場所</td> <td>荷重の観点からは、風(台風)及び積雪による荷重が考えられるが、除雪を行うことにより対処可能なため風(台風)及び積雪の個別評価と変わらない。 その他については、凍結の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>除雪作業と風(台風)による飛散物の撤去作業を行う必要があるため、作業量が増加するが、風(台風)による飛散物は少ないと考えられるため、重機による除雪作業及びがれき撤去は可能である。また、凍結した場合でも、重機はキャタピラー駆動であることから、除雪作業及びがれき撤去可能である。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">1 風(台風) +降水 +凍結 +積雪</td> <td>保管場所</td> <td>降水と凍結は個々の影響より緩和されることから本事象の組合せは評価不要である。降水と積雪は同時に発生するとは考えられない、又は個々の影響より緩和されることから本事象の組合せは評価不要である。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">2 風(台風) +降水 +竜巻</td> <td>保管場所</td> <td>荷重の観点からは、風(台風)及び竜巻による影響が考えられるが、竜巻の評価に包絡される。 浸水の観点からは、Aの個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>風(台風)と竜巻の飛散物撤去作業が必要であり作業量が増加するが、風(台風)による飛散物は少ないと考えられること、竜巻による飛散物の影響範囲は限定的であると考えられることから、重機によるがれき撤去は可能である。 また、風(台風)及び竜巻による飛散物により排水路が閉塞し、降水によって冠水する可能性があるが、排水路については、大雨や台風の接近が予想される場合は事前の点検を実施し、必要に応じて清掃を行い、排水機能を維持することからA及び竜巻が重畳しても影響はない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">3 風(台風) +降水 +落雷</td> <td>保管場所</td> <td>A及び落雷の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>落雷はアクセス性に影響を与えないことから、Aの重畳評価と同様。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> </tbody> </table>	番号	評価		A 風(台風) +降水	保管場所	風(台風)及び降水の個別評価と変わらない。	屋外ルート	降水時に風(台風)による飛散物の撤去作業を行う必要があるため、作業効率が低下するもの、全く作業ができなくなることは考えにくい。 また、風(台風)による飛散物により排水路が閉塞し、降水によって冠水する可能性があるが、排水路については、大雨や台風の接近が予想される場合は事前の点検を実施し、必要に応じて清掃を行い、排水機能を維持することから風(台風)及び降水が重畳しても影響はない。	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	B 風(台風) +凍結 +積雪	保管場所	荷重の観点からは、風(台風)及び積雪による荷重が考えられるが、除雪を行うことにより対処可能なため風(台風)及び積雪の個別評価と変わらない。 その他については、凍結の個別評価と変わらない。	屋外ルート	除雪作業と風(台風)による飛散物の撤去作業を行う必要があるため、作業量が増加するが、風(台風)による飛散物は少ないと考えられるため、重機による除雪作業及びがれき撤去は可能である。また、凍結した場合でも、重機はキャタピラー駆動であることから、除雪作業及びがれき撤去可能である。	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	1 風(台風) +降水 +凍結 +積雪	保管場所	降水と凍結は個々の影響より緩和されることから本事象の組合せは評価不要である。降水と積雪は同時に発生するとは考えられない、又は個々の影響より緩和されることから本事象の組合せは評価不要である。	屋外ルート	同上	屋内ルート	同上	2 風(台風) +降水 +竜巻	保管場所	荷重の観点からは、風(台風)及び竜巻による影響が考えられるが、竜巻の評価に包絡される。 浸水の観点からは、Aの個別評価と変わらない。	屋外ルート	風(台風)と竜巻の飛散物撤去作業が必要であり作業量が増加するが、風(台風)による飛散物は少ないと考えられること、竜巻による飛散物の影響範囲は限定的であると考えられることから、重機によるがれき撤去は可能である。 また、風(台風)及び竜巻による飛散物により排水路が閉塞し、降水によって冠水する可能性があるが、排水路については、大雨や台風の接近が予想される場合は事前の点検を実施し、必要に応じて清掃を行い、排水機能を維持することからA及び竜巻が重畳しても影響はない。	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	3 風(台風) +降水 +落雷	保管場所	A及び落雷の個別評価と変わらない。	屋外ルート	落雷はアクセス性に影響を与えないことから、Aの重畳評価と同様。	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	<p>自然現象の組合せについて、設備の耐性、作業環境、屋外のアクセスルート（以下「屋外ルート」という。）、屋内のアクセスルート（以下「屋内ルート」という。）に対して、以下に基づき評価を実施した。</p> <p>1. 評価方針</p> <p>第1表に示す自然現象の組合せに対し、第2表の影響モードを網羅的に組み合わせ確認する。確認の結果、影響モードが単独の自然現象に比べ増長する可能性が高まる場合、以下項目についてその内容を記載する。</p> <p>2. 評価対象及び内容</p> <p>(1) 設備の耐性 保管場所にある重大事故等対処設備が重畳荷重等により機能喪失する可能性について記載する。</p> <p>(2) 作業環境 保管場所での各種作業や、除雪・除灰等の屋外作業を行う場合の環境について記載する。</p> <p>(3) 屋外ルート 屋外ルートについて、がれき撤去、除雪・除灰等の屋外作業を行う場合の環境について記載する。</p> <p>(4) 屋内ルート 屋内ルートへの荷重等による影響について記載する。</p> <p>3. 評価結果</p> <p>(A) 風（台風）×降水 設備の耐性：増長する影響モードなし。 作業環境：降水時に風（台風）による飛散物の撤去作業を行う必要があるため作業効率が低下するものの、対応は可能である。 屋外ルート：降水時に風（台風）による飛散物の撤去作業を行う必要があるため作業効率が低下するものの、対応は可能である。ルートは複数あるため、飛散物の少ないルートを選択する。 屋内ルート：増長する影響モードなし。</p> <p>(B) 風（台風）×凍結×積雪 設備の耐性：増長する影響モードなし。 作業環境：強風を避けて除雪作業を実施する必要がある。除雪作業と風（台風）による飛散物撤去作業が輻輳するため作業量が増加するものの、対応は可能である。（気象予報を踏まえ、凍結が想定される場合は、重機等を暖機運転する。）</p>	<p>(3) 組合せの評価</p> <p>第1表に示すA, B及び1から45までの自然現象の組合せについて、保管場所、屋外ルート、屋内ルートに対して第4表のとおり影響を評価した、自然現象を組合せたとしても重大事故等への対応は可能であることを確認した。</p> <p>なお、荷重の影響モードをもつ自然現象については、津波と地震、地震と積雪と風（台風）、津波と積雪と風（台風）及び火山の影響と風（台風）と積雪の組合せを考慮するが、これらについては、事象が重畳したとしても荷重による影響の程度が変化するのみである。</p> <p style="text-align: center;">第4表 自然現象の組合せによる影響評価 (1/7)</p> <table border="1" data-bbox="1780 695 2585 1587"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th colspan="2">評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">A 風(台風) +降水</td> <td>保管場所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>追迫【地震津波側審査の反映】 (大山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波側審査結果を受けて反映のため)</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">B 風(台風) +凍結 +積雪</td> <td>保管場所</td> <td>荷重の観点からは、風(台風)及び積雪による荷重が考えられるが、除雪を行うことにより対処可能なため風(台風)及び積雪の個別評価と変わらない。 その他については、凍結の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>除雪作業と風(台風)による飛散物の撤去作業を行う必要があるため、作業量が増加するが、風(台風)による飛散物は少ないと考えられるため、重機による除雪及びがれき撤去作業は可能である。 また、凍結した場合でも、凍結の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">1 風(台風) +降水 +凍結 +積雪</td> <td>保管場所</td> <td>降水と凍結は個々の影響より緩和されることから本事象の組合せは評価不要である。降水と積雪は同時に発生するとは考えられない、又は個々の影響より緩和されることから本事象の組合せは評価不要である。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">2 風(台風) +降水 +竜巻</td> <td>保管場所</td> <td>荷重の観点からは、風(台風)及び竜巻による影響が考えられるが、竜巻の評価に包絡される。 浸水の観点からは、Aの評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>風(台風)と竜巻の飛散物撤去作業が必要であり作業量が増加するが、風(台風)による飛散物は少ないと考えられること、竜巻による飛散物の影響範囲は限定的であると考えられることから、重機によるがれき撤去作業は可能である。 また、風(台風)及び竜巻による飛散物により排水路が閉塞し、降水によって冠水する可能性があるが、排水路については、大雨や台風の接近が予想される場合は事前の点検を実施し、必要に応じて清掃を行い、排水機能を維持することからA及び竜巻が重畳しても影響はない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">3 風(台風) +降水 +落雷</td> <td>保管場所</td> <td>A及び落雷の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>落雷はアクセスルートに影響を与えないことから、Aの評価と同様。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">4 風(台風) +降水 +地滑り</td> <td>保管場所</td> <td>A及び地滑りの個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>屋外アクセスルートは地滑りにより影響を受ける範囲にないため、影響を受けないことからAの評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> </tbody> </table>	番号	評価		A 風(台風) +降水	保管場所		屋外ルート	追迫【地震津波側審査の反映】 (大山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波側審査結果を受けて反映のため)	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	B 風(台風) +凍結 +積雪	保管場所	荷重の観点からは、風(台風)及び積雪による荷重が考えられるが、除雪を行うことにより対処可能なため風(台風)及び積雪の個別評価と変わらない。 その他については、凍結の個別評価と変わらない。	屋外ルート	除雪作業と風(台風)による飛散物の撤去作業を行う必要があるため、作業量が増加するが、風(台風)による飛散物は少ないと考えられるため、重機による除雪及びがれき撤去作業は可能である。 また、凍結した場合でも、凍結の個別評価と変わらない。	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	1 風(台風) +降水 +凍結 +積雪	保管場所	降水と凍結は個々の影響より緩和されることから本事象の組合せは評価不要である。降水と積雪は同時に発生するとは考えられない、又は個々の影響より緩和されることから本事象の組合せは評価不要である。	屋外ルート	同上	屋内ルート	同上	2 風(台風) +降水 +竜巻	保管場所	荷重の観点からは、風(台風)及び竜巻による影響が考えられるが、竜巻の評価に包絡される。 浸水の観点からは、Aの評価と変わらない。	屋外ルート	風(台風)と竜巻の飛散物撤去作業が必要であり作業量が増加するが、風(台風)による飛散物は少ないと考えられること、竜巻による飛散物の影響範囲は限定的であると考えられることから、重機によるがれき撤去作業は可能である。 また、風(台風)及び竜巻による飛散物により排水路が閉塞し、降水によって冠水する可能性があるが、排水路については、大雨や台風の接近が予想される場合は事前の点検を実施し、必要に応じて清掃を行い、排水機能を維持することからA及び竜巻が重畳しても影響はない。	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	3 風(台風) +降水 +落雷	保管場所	A及び落雷の個別評価と変わらない。	屋外ルート	落雷はアクセスルートに影響を与えないことから、Aの評価と同様。	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	4 風(台風) +降水 +地滑り	保管場所	A及び地滑りの個別評価と変わらない。	屋外ルート	屋外アクセスルートは地滑りにより影響を受ける範囲にないため、影響を受けないことからAの評価と変わらない。	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	<p>【女川及び島根】 記載内容の相違 ・外部事象の選定結果及び資料構成の相違</p>
番号	評価																																																																																					
A 風(台風) +降水	保管場所	風(台風)及び降水の個別評価と変わらない。																																																																																				
	屋外ルート	降水時に風(台風)による飛散物の撤去作業を行う必要があるため、作業効率が低下するもの、全く作業ができなくなることは考えにくい。 また、風(台風)による飛散物により排水路が閉塞し、降水によって冠水する可能性があるが、排水路については、大雨や台風の接近が予想される場合は事前の点検を実施し、必要に応じて清掃を行い、排水機能を維持することから風(台風)及び降水が重畳しても影響はない。																																																																																				
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																				
B 風(台風) +凍結 +積雪	保管場所	荷重の観点からは、風(台風)及び積雪による荷重が考えられるが、除雪を行うことにより対処可能なため風(台風)及び積雪の個別評価と変わらない。 その他については、凍結の個別評価と変わらない。																																																																																				
	屋外ルート	除雪作業と風(台風)による飛散物の撤去作業を行う必要があるため、作業量が増加するが、風(台風)による飛散物は少ないと考えられるため、重機による除雪作業及びがれき撤去は可能である。また、凍結した場合でも、重機はキャタピラー駆動であることから、除雪作業及びがれき撤去可能である。																																																																																				
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																				
1 風(台風) +降水 +凍結 +積雪	保管場所	降水と凍結は個々の影響より緩和されることから本事象の組合せは評価不要である。降水と積雪は同時に発生するとは考えられない、又は個々の影響より緩和されることから本事象の組合せは評価不要である。																																																																																				
	屋外ルート	同上																																																																																				
	屋内ルート	同上																																																																																				
2 風(台風) +降水 +竜巻	保管場所	荷重の観点からは、風(台風)及び竜巻による影響が考えられるが、竜巻の評価に包絡される。 浸水の観点からは、Aの個別評価と変わらない。																																																																																				
	屋外ルート	風(台風)と竜巻の飛散物撤去作業が必要であり作業量が増加するが、風(台風)による飛散物は少ないと考えられること、竜巻による飛散物の影響範囲は限定的であると考えられることから、重機によるがれき撤去は可能である。 また、風(台風)及び竜巻による飛散物により排水路が閉塞し、降水によって冠水する可能性があるが、排水路については、大雨や台風の接近が予想される場合は事前の点検を実施し、必要に応じて清掃を行い、排水機能を維持することからA及び竜巻が重畳しても影響はない。																																																																																				
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																				
3 風(台風) +降水 +落雷	保管場所	A及び落雷の個別評価と変わらない。																																																																																				
	屋外ルート	落雷はアクセス性に影響を与えないことから、Aの重畳評価と同様。																																																																																				
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																				
番号	評価																																																																																					
A 風(台風) +降水	保管場所																																																																																					
	屋外ルート	追迫【地震津波側審査の反映】 (大山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波側審査結果を受けて反映のため)																																																																																				
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																				
B 風(台風) +凍結 +積雪	保管場所	荷重の観点からは、風(台風)及び積雪による荷重が考えられるが、除雪を行うことにより対処可能なため風(台風)及び積雪の個別評価と変わらない。 その他については、凍結の個別評価と変わらない。																																																																																				
	屋外ルート	除雪作業と風(台風)による飛散物の撤去作業を行う必要があるため、作業量が増加するが、風(台風)による飛散物は少ないと考えられるため、重機による除雪及びがれき撤去作業は可能である。 また、凍結した場合でも、凍結の個別評価と変わらない。																																																																																				
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																				
1 風(台風) +降水 +凍結 +積雪	保管場所	降水と凍結は個々の影響より緩和されることから本事象の組合せは評価不要である。降水と積雪は同時に発生するとは考えられない、又は個々の影響より緩和されることから本事象の組合せは評価不要である。																																																																																				
	屋外ルート	同上																																																																																				
	屋内ルート	同上																																																																																				
2 風(台風) +降水 +竜巻	保管場所	荷重の観点からは、風(台風)及び竜巻による影響が考えられるが、竜巻の評価に包絡される。 浸水の観点からは、Aの評価と変わらない。																																																																																				
	屋外ルート	風(台風)と竜巻の飛散物撤去作業が必要であり作業量が増加するが、風(台風)による飛散物は少ないと考えられること、竜巻による飛散物の影響範囲は限定的であると考えられることから、重機によるがれき撤去作業は可能である。 また、風(台風)及び竜巻による飛散物により排水路が閉塞し、降水によって冠水する可能性があるが、排水路については、大雨や台風の接近が予想される場合は事前の点検を実施し、必要に応じて清掃を行い、排水機能を維持することからA及び竜巻が重畳しても影響はない。																																																																																				
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																				
3 風(台風) +降水 +落雷	保管場所	A及び落雷の個別評価と変わらない。																																																																																				
	屋外ルート	落雷はアクセスルートに影響を与えないことから、Aの評価と同様。																																																																																				
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																				
4 風(台風) +降水 +地滑り	保管場所	A及び地滑りの個別評価と変わらない。																																																																																				
	屋外ルート	屋外アクセスルートは地滑りにより影響を受ける範囲にないため、影響を受けないことからAの評価と変わらない。																																																																																				
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																				



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

第4表 自然現象の組合せによる影響評価

番号	評 価	
4 風(台風) +降水 +火山の 影響	保管場所	荷重の観点からは、風(台風)及び降下火砕物による荷重、また、降水による湿分吸着による荷重増大が考えられるが、除灰を行うことにより対応が可能であるため影響がない。 その他はA及び火山の影響の個別評価と変わらない。
	屋外ルート	除灰作業と風(台風)による飛散物の撤去作業を行う必要があるため、作業量が増加するが、風(台風)による飛散物は少ないと考えられること、火山の影響による降下火砕物の堆積は時間的余裕があることから重機によるがれき撤去及び除灰作業は可能である。 また、風(台風)飛散物により排水路が閉塞し、降水によって冠水する可能性があるが、排水路については、大雨や台風の接近が予想される場合は事前の点検を実施し、必要に応じて清掃を行い、排水機能を維持すること及び火山の影響による降下火砕物の粒径は小さく、排水路が閉塞することは考えられないことから風(台風)、降水及び火山の影響が重畳しても影響はない。
5 風(台風) +降水 +生物学 的現象	屋内ルート	建屋内のため影響なし。
	保管場所	A及び生物学的現象の個別評価と変わらない。
6 風(台風) +降水 +森林火 災	屋外ルート	生物学的現象はアクセス性に影響を与えないことから、Aの評価と同様。
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。
7 風(台風) +降水 +地震	保管場所	A及び森林火災の個別評価と変わらない。
	屋外ルート	風(台風)による飛散物の撤去作業を森林火災発生中に対応する必要があるが、アクセスルートは防火帯内に設定しており、森林火災発生時においても作業可能なことは確認していることから、重機によるがれき撤去作業は可能である。 防火帯内植生による火災については、自衛消防隊がアクセスルート周辺の消火活動を行うことにより対応が可能である。 なお、降水を考慮した場合は森林火災を緩和する方向のため考慮しない。
8 風(台風) +降水 +津波	屋内ルート	森林火災の個別評価と変わらない。
	保管場所	荷重の観点からは地震の加振力と風荷重が同時に作用した場合が考えられるが、ともに最大荷重の継続時間が短く、同時に発生する確率が低いため、重量は考慮しない。 その他はA及び地震の個別評価と変わらない。
9 風(台風) +降水 +津波	屋外ルート	風(台風)による飛散物及び地震によるがれきを撤去する必要があるが、風(台風)による飛散物は少ないと考えられること、地震によるがれき撤去の成立性は確認済みであることから重機によるがれき撤去は可能である。 また、風(台風)による飛散物により排水路が閉塞し、降水によって冠水する可能性があるが、排水路については、大雨や台風の接近が予想される場合は事前の点検を実施し、必要に応じて清掃を行い、排水機能を維持することから風(台風)、降水及び地震が重畳しても影響はない。
	屋内ルート	地震の個別評価と変わらない。
10 風(台風) +降水 +津波	保管場所	荷重の観点からは風(台風)及び津波の影響が考えられるが、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから、風(台風)及び津波の個別評価と変わらない。 浸水の観点からは津波及び降水の影響が考えられるが、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから、降水及び津波の個別評価と変わらない。
	屋外ルート	排水路による降水の排水が津波によって不可能となり、冠水する可能性があるが、津波の継続時間は短く、津波後に排水路により排水されることによりアクセス性に影響は与えない。
11 風(台風) +降水 +津波	屋内ルート	Aに対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達することはないことから影響なし。

島根原子力発電所2号炉

屋外ルート：強風を避けて除雪作業を実施する必要がある。除雪作業と風(台風)による飛散物撤去作業が輻輳するため作業量が増加するものの、複数ルートのうち、飛散物の影響が少ないルートを選択して除雪することにより対応は可能である。(気象予報を踏まえ、凍結が想定される場合は、重機等を暖機運転する。)  
 屋内ルート：積雪荷重と風荷重が加わることによる荷重の増加が考えられるが、設計上考慮する荷重として積雪荷重と風荷重を考慮していることから、影響なし。

(1) 風(台風)×降水×凍結×積雪  
 凍結と降水、降水と積雪は同時に発生することは考えられない又は与える影響が自然現象を重ね合わせることで個々の自然現象が与える影響より緩和されることから、上記「(A)風(台風)×降水」又は「(B)風(台風)×凍結×積雪」における評価に包含される。

(2) 風(台風)×降水×竜巻  
 設備の耐性：増長する影響モードなし。  
 作業環境：風(台風)と竜巻による飛散物撤去作業が輻輳するため作業量が増加するものの、対応は可能である。

また、降水中に飛散物の撤去作業を行う必要があるため作業効率が低下するものの、対応は可能である。  
 屋外ルート：風(台風)と竜巻による飛散物撤去作業が輻輳するため作業量が増加するものの、対応は可能である。  
 また、降水中に飛散物の撤去作業を行う必要があるため作業効率が低下するものの、対応は可能である。  
 ルートは複数あるため、飛散物の少ないルートを選択する。  
 屋内ルート：増長する影響モードなし。

(3) 風(台風)×降水×落雷  
 設備の耐性：増長する影響モードなし。  
 作業環境：降水時に風(台風)による飛散物の撤去作業を行う必要があるため作業効率が低下し、落雷を避けて作業を実施する必要があるが、対応は可能である。  
 屋外ルート：降水時に風(台風)による飛散物の撤去作業を行う必要があるため作業効率が低下し、落雷を避けて作業を実施する必要があるが、ルートは複数あるため、飛散物の影響が少ないルートを選択する。  
 屋内ルート：増長する影響モードなし。

(4) 風(台風)×降水×地滑り・土石流  
 設備の耐性：増長する影響モードなし。  
 作業環境：風(台風)による飛散物撤去作業と堆積土砂の撤去作業が輻輳するため作業量が増加し、降水時に作業を行う必要があるため作業効率が低下するものの、

泊発電所3号炉

第4表 自然現象の組合せによる影響評価 (2/7)

番号	評 価	
5 風(台風) +降水 +火山の 影響	保管場所	追而【地震津波側審査の反映】 【火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波側審査結果を受けて反映のため】
	屋外ルート	
6 風(台風) +降水 +生物学 的現象	屋内ルート	建屋内のため影響なし。
	保管場所	A及び生物学的現象の個別評価と変わらない。
7 風(台風) +降水 +森林火 災	屋外ルート	生物学的現象はアクセスルートに影響を与えないことから、Aの評価と同様。
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。
8 風(台風) +降水 +地震	保管場所	A及び森林火災の個別評価と変わらない。
	屋外ルート	風(台風)による飛散物の撤去作業を森林火災発生中に対応する必要があるが、アクセスルートは防火帯内に設定しており、森林火災発生時においても熱影響を受けないルートにより通行が可能であることを確認していることから、重機によるがれき撤去作業は可能である。 防火帯内植生による火災については、消火要員がアクセスルート周辺の消火活動を行うことにより対応が可能である。 なお、降水を考慮した場合は森林火災を緩和する方向のため考慮しない。
9 風(台風) +降水 +津波	屋内ルート	森林火災の個別評価と変わらない。
	保管場所	荷重の観点からは地震の加振力と風荷重が同時に作用した場合が考えられるが、ともに最大荷重の継続時間が短く、同時に発生する確率が低いため、重量は考慮しない。 その他はA及び地震の個別評価と変わらない。
10 風(台風) +降水 +津波	屋外ルート	風(台風)による飛散物及び地震によるがれきを撤去する必要があるが、風(台風)による飛散物は少ないと考えられること、地震による復旧作業の成立性は確認済みであることから重機による復旧作業は可能である。 また、風(台風)による飛散物により排水路が閉塞し、降水によって冠水する可能性があるが、排水路については、大雨や台風の接近が予想される場合は事前の点検を実施し、必要に応じて清掃を行い、排水機能を維持することから風(台風)、降水及び地震が重畳しても影響はない。
	屋内ルート	地震の個別評価と変わらない。
11 風(台風) +降水 +津波	保管場所	荷重の観点からは風(台風)及び津波の影響が考えられるが、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから、風(台風)及び津波の個別評価と変わらない。 浸水の観点からは津波及び降水の影響が考えられるが、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから、降水及び津波の個別評価と変わらない。
	屋外ルート	排水路による降水の排水が津波によって不可能となり、冠水する可能性があるが、津波の継続時間は短く、津波後に排水路により排水されることによりアクセス性に影響は与えない。
12 風(台風) +降水 +津波	屋内ルート	Aに対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達することはないことから影響なし。

相違理由  
 【女川及び島根】  
 記載内容の相違  
 ・外部事象の選定結果及び資料構成の相違



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

第4表 自然現象の組合せによる影響評価

番号	評価
9 風(台風) +凍結 +積雪 +竜巻	保管場所 荷重の観点からは、風(台風)、竜巻及び積雪による荷重が考えられるが、竜巻による荷重の影響に包含される。 その他は、B及び竜巻の個別評価と変わらない。
	屋外ルート 風(台風)と竜巻の飛散物撤去作業及び除雪作業が必要であり作業量が増加するが、風(台風)による飛散物は少ないと考えられること、竜巻による飛散物の影響範囲は限定的であると考えられること、積雪は予測可能であり事前に対応可能であることから、重機によるがれき撤去及び除雪作業は可能である。 また、凍結した場合でも、重機はキャタピラー駆動であることから、がれき撤去作業及び除雪作業は可能である。
	屋内ルート 建屋内のため影響なし。
10 風(台風) +凍結 +積雪 +落雷	保管場所 B及び落雷の個別評価と変わらない。
	屋外ルート 落雷はアクセス性に影響を与えないことから、Bの個別評価と変わらない。
	屋内ルート 建屋内のため影響なし。
11 風(台風) +凍結 +積雪 +火山の影響	保管場所 荷重の観点からは、風(台風)、積雪及び降下火砕物による荷重が考えられるが、除雪、除灰を行うことにより対応可能なためB及び火山の影響の個別評価と変わらない。 その他は、B及び火山の影響の個別評価と変わらない。
	屋外ルート 除灰作業、除雪作業及び風(台風)による飛散物の撤去作業を行う必要があるため、作業量が増加するが、風(台風)による飛散物は少ないと考えられること、火山の影響による降下火砕物の堆積は時間的余裕があること、積雪は予測可能であり事前に対応可能であることから、重機によるがれき撤去、除灰作業及び除雪作業は可能である。 また、凍結した場合でも、重機はキャタピラー駆動であることから、がれき撤去、除灰作業及び除雪作業は可能である。
	屋内ルート 建屋内のため影響なし。
12 風(台風) +凍結 +積雪 +生物学的事象	保管場所 B及び生物学的事象の個別評価と変わらない。
	屋外ルート 生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、Bの個別評価と変わらない。
	屋内ルート 建屋内のため影響なし。
13 風(台風) +凍結 +積雪 +森林火災	保管場所 荷重の観点からは、風(台風)及び積雪による荷重が考えられるが、除雪を行うことにより対応可能なため風(台風)及び積雪の個別評価と変わらない。 その他については、B及び森林火災の個別評価と変わらない。
	屋外ルート 風(台風)による飛散物の撤去作業を森林火災発生時に対応する必要があるが、アクセスルートは防火帯内に設定しており、森林火災発生時においても作業可能なことは確認していることから、重機によるがれき撤去作業は可能である。 防火帯内積生による火災については、自衛消防隊がアクセスルート周辺の消火活動を行うことにより対応可能である。 また、凍結及び積雪を考慮した場合は森林火災を緩和する方向にある。
	屋内ルート 森林火災の個別評価と変わらない。
14 風(台風) +凍結 +積雪 +地震	保管場所 荷重の観点からは地震の加振力と風荷重が同時に作用した場合が考えられるが、ともに最大荷重の継続時間が短く、同時に発生する確率が低いため、重畳は考慮しない。また、積雪による荷重も考えられるが、除雪を行うことにより対応可能である。 その他は、B及び地震の個別評価と変わらない。
	屋外ルート 除雪作業及び地震によるがれきを撤去する必要があるが、積雪は予測可能であり事前に対応可能であること、地震によるがれき撤去成立性は確認済みであることから重機による除雪作業及びがれき撤去は可能である。 また、凍結した場合でも、重機はキャタピラー駆動であることから、がれき撤去、段差復旧作業及び除雪作業は可能である。
	屋内ルート 地震の個別評価と変わらない。

島根原子力発電所2号炉

対応は可能である。ただし、降水の影響が強い場合は地滑り・土石流の危険性があるため、降水の状況を見極めて対応する。

屋外ルート：風（台風）による飛散物撤去作業と堆積土砂の撤去作業が輻輳するため作業量が増加し、降水時に作業を行う必要があるため作業効率が低下するものの、対応は可能である。ただし、降水の影響が強い場合は地滑り・土石流の危険性があるため、降水の状況を見極めて対応する。ルートは複数あるため、飛散物及び堆積土砂の少ないルートを選択する。

屋内ルート：増長する影響モードなし。

(5) 風（台風）×降水×火山の影響

設備の耐性：降下火砕物が湿分を吸収することによる荷重増加が考えられるが、除灰することで影響を緩和可能。

作業環境：強風を避けて除灰を実施する必要があり、風（台風）による飛散物撤去作業と除灰作業が輻輳し、降下火砕物が湿分を吸収することによって、除灰の作業量が増加するものの、対応は可能である。降水時に作業を行う必要があるため作業効率が低下するものの、対応は可能である。また、降水により重大事故等対処設備上の降下火砕物の撤去等、重機を用いない除灰作業の負担が増加するものの、対応は可能である。

屋外ルート：強風を避けて除灰を実施する必要がある。風（台風）による飛散物撤去作業と除灰作業が輻輳し、降下火砕物が湿分を吸収することによって、除灰の作業量が増加する。降水時に作業を行う必要があるため作業効率が低下するものの、対応は可能である。ただし、降水の影響が強い場合は斜面で泥流のような状況になり得るため、降水の状況を見極めて対応する。ルートは複数あるため、飛散物の少ないルートの除灰作業を優先する。

屋内ルート：降下火砕物が湿分を吸収することによる荷重増加が考えられるが、設計上考慮する荷重として湿分を含んだ降下火砕物の堆積荷重を考慮していることから、影響なし。また、降下火砕物の堆積荷重に風荷重が加わることによる荷重の増加が考えられるが、設計上考慮する荷重として降下火砕物の荷重と風荷重を考慮していることから、影響なし。

(6) 風（台風）×降水×生物学的事象

風（台風）と生物学的事象、降水と生物学的事象は重畳により影響が増長することはないことから、上記「(A)風（台風）×降水」における評価に包含される。

泊発電所3号炉

第4表 自然現象の組合せによる影響評価 (3/7)

番号	評価
10 風(台風) +凍結 +積雪 +竜巻	保管場所 荷重の観点からは、風(台風)、竜巻及び積雪による荷重が考えられるが、竜巻による荷重の影響に包含される。 その他は、B及び竜巻の個別評価と変わらない。
	屋外ルート 風(台風)と竜巻の飛散物撤去作業及び除雪作業が必要であり作業量が増加するが、風(台風)による飛散物は少ないと考えられること、竜巻による飛散物の影響範囲は限定的であると考えられること、積雪は予測可能であり事前に対応可能であることから、重機によるがれき撤去及び除雪作業は可能である。 また、凍結した場合でも、凍結の個別評価と変わらない。
	屋内ルート 建屋内のため影響なし。
11 風(台風) +凍結 +積雪 +落雷	保管場所 B及び落雷の個別評価と変わらない。
	屋外ルート 落雷はアクセスルートに影響を与えないことから、Bの個別評価と変わらない。
	屋内ルート 建屋内のため影響なし。
12 風(台風) +凍結 +積雪 +地滑り	保管場所 荷重の観点からは、風(台風)、積雪及び地滑りによる荷重が考えられるが、地滑りは降水による地滑りを考慮しており、積雪と地滑りが同時に発生することは考えられないことから、風(台風)と積雪の組合せを考えているBの組合せ、もしくは風(台風)と地滑りの組合せを考えている4の評価に包含される。
	屋外ルート アクセスルートは地滑りにより影響を受ける範囲にないため、影響を受けないことからBの評価と変わらない。
	屋内ルート 建屋内のため影響なし。
13 風(台風) +凍結 +積雪 +火山の影響	保管場所 追而【地震津波調査の反映】 【火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため】
	屋外ルート アクセスルートは地滑りにより影響を受ける範囲にないため、影響を受けないことからBの評価と変わらない。
	屋内ルート 建屋内のため影響なし。
14 風(台風) +凍結 +積雪 +生物学的事象	保管場所 B及び生物学的事象の個別評価と変わらない。
	屋外ルート 生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことから、Bの個別評価と変わらない。
	屋内ルート 建屋内のため影響なし。
15 風(台風) +凍結 +積雪 +森林火災	保管場所 荷重の観点からは、風(台風)及び積雪による荷重が考えられるが、除雪を行うことにより対応可能なため風(台風)及び積雪の個別評価と変わらない。 その他については、B及び森林火災の個別評価と変わらない。
	屋外ルート 風(台風)による飛散物の撤去作業を森林火災発生時に対応する必要があるが、アクセスルートは防火帯内に設定しており、森林火災発生時においても熱影響を受けないルートにより通行が可能なことを確認していることから、重機によるがれき撤去作業は可能である。 防火帯内積生による火災については、消火要員がアクセスルート周辺の消火活動を行うことにより対応可能である。 また、凍結及び積雪を考慮した場合は森林火災を緩和する方向にある。
	屋内ルート 森林火災の個別評価と変わらない。

相違理由

【女川及び島根】  
 記載内容の相違  
 ・外部事象の選定結果及び資料構成の相違



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																															
<p align="center"><b>第4表 自然現象の組合せによる影響評価</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th colspan="2">評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">15 風(台風) +凍結 +積雪 +津波</td> <td>保管場所</td> <td>荷重の観点からは風(台風)、積雪及び津波の影響が考えられるが、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから、Bの個別評価と変わらない。 その他は、B及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、B及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>Bに対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">16 竜巻 +落雷</td> <td>保管場所</td> <td>竜巻及び落雷の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>落雷はアクセス性に影響を与えないことから、竜巻個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">17 竜巻 +火山の 影響</td> <td>保管場所</td> <td>荷重の観点からは、竜巻及び降下火砕物による荷重が考えられるが、各事象が重畳する頻度は十分低いことから考慮しない。 その他については、竜巻及び火山の影響の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>竜巻の飛散物撤去作業及び除灰作業が必要であり作業量が増加するが、竜巻による飛散物の影響範囲は限定的であると考えられること、火山の影響による降下火砕物の堆積は時間的余裕があることから、重機によるがれき撤去及び除灰作業は可能である。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">18 竜巻 +生物学的 事象</td> <td>保管場所</td> <td>竜巻及び生物学的影響の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、竜巻個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">19 竜巻 +森林火 災</td> <td>保管場所</td> <td>竜巻及び森林火災の個別評価と変わらない。(風速が上昇するものの、影響は限定的と考えられる。)</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>竜巻による飛散物の撤去作業を森林火災発生中に対応する必要があるが、アクセスルートは防火帯内に設定しており、森林火災発生時においても作業可能なことは確認していることから、重機によるがれき撤去作業は可能である。 防火帯内植生による火災については、自衛消防隊がアクセスルート周辺の消火活動を行うことにより対応が可能である。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>森林火災の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">20 竜巻 +地震</td> <td>保管場所</td> <td>竜巻と地震による荷重が考えられるが、両者は独立事象であるとともに、各事象が重畳する頻度は十分低いことから、組合せは考慮しない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>竜巻による飛散物撤去作業、地震によるがれき撤去作業を実施する必要があることから、作業量が増加するが、竜巻による飛散物の影響範囲は限定的であると考えられること、地震によるがれき撤去成立性は確認済みであることから重機によるがれき撤去は可能である。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>地震の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">21 竜巻 +津波</td> <td>保管場所</td> <td>竜巻と津波による荷重が考えられるが、両者は独立事象であるとともに、各事象が重畳する頻度は十分低いことから、組合せは考慮しない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、竜巻及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>竜巻に対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">22 落雷 +火山の 影響</td> <td>保管場所</td> <td>落雷及び火山の影響の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>落雷はアクセス性に影響を与えないことから、火山の影響の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> </tbody> </table>	番号	評価		15 風(台風) +凍結 +積雪 +津波	保管場所	荷重の観点からは風(台風)、積雪及び津波の影響が考えられるが、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから、Bの個別評価と変わらない。 その他は、B及び津波の個別評価と変わらない。	屋外ルート	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、B及び津波の個別評価と変わらない。	屋内ルート	Bに対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。	16 竜巻 +落雷	保管場所	竜巻及び落雷の個別評価と変わらない。	屋外ルート	落雷はアクセス性に影響を与えないことから、竜巻個別評価と変わらない。	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	17 竜巻 +火山の 影響	保管場所	荷重の観点からは、竜巻及び降下火砕物による荷重が考えられるが、各事象が重畳する頻度は十分低いことから考慮しない。 その他については、竜巻及び火山の影響の個別評価と変わらない。	屋外ルート	竜巻の飛散物撤去作業及び除灰作業が必要であり作業量が増加するが、竜巻による飛散物の影響範囲は限定的であると考えられること、火山の影響による降下火砕物の堆積は時間的余裕があることから、重機によるがれき撤去及び除灰作業は可能である。	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	18 竜巻 +生物学的 事象	保管場所	竜巻及び生物学的影響の個別評価と変わらない。	屋外ルート	生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、竜巻個別評価と変わらない。	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	19 竜巻 +森林火 災	保管場所	竜巻及び森林火災の個別評価と変わらない。(風速が上昇するものの、影響は限定的と考えられる。)	屋外ルート	竜巻による飛散物の撤去作業を森林火災発生中に対応する必要があるが、アクセスルートは防火帯内に設定しており、森林火災発生時においても作業可能なことは確認していることから、重機によるがれき撤去作業は可能である。 防火帯内植生による火災については、自衛消防隊がアクセスルート周辺の消火活動を行うことにより対応が可能である。	屋内ルート	森林火災の個別評価と変わらない。	20 竜巻 +地震	保管場所	竜巻と地震による荷重が考えられるが、両者は独立事象であるとともに、各事象が重畳する頻度は十分低いことから、組合せは考慮しない。	屋外ルート	竜巻による飛散物撤去作業、地震によるがれき撤去作業を実施する必要があることから、作業量が増加するが、竜巻による飛散物の影響範囲は限定的であると考えられること、地震によるがれき撤去成立性は確認済みであることから重機によるがれき撤去は可能である。	屋内ルート	地震の個別評価と変わらない。	21 竜巻 +津波	保管場所	竜巻と津波による荷重が考えられるが、両者は独立事象であるとともに、各事象が重畳する頻度は十分低いことから、組合せは考慮しない。	屋外ルート	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、竜巻及び津波の個別評価と変わらない。	屋内ルート	竜巻に対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。	22 落雷 +火山の 影響	保管場所	落雷及び火山の影響の個別評価と変わらない。	屋外ルート	落雷はアクセス性に影響を与えないことから、火山の影響の個別評価と変わらない。	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	<p>(7) 風(台風)×降水×森林火災</p> <p>降水と森林火災は与える影響が重畳することで個々の事象が与える影響より緩和されることから、風(台風)と森林火災による影響を想定する。風(台風)と降水の重畳による影響については、上記「(A)風(台風)×降水」を参照。</p> <p>設備の耐性：火線強度が増長する。防火帯は一定の裕度を有しているが、防火帯を越えて延焼する可能性がある。防火帯の設計想定以上の強風でかつ、森林火災が発生した場合には、重大事故等対処設備を移動する。</p> <p>作業環境：重大事故等対処設備への影響が想定される場合には、重大事故等対処設備を移動する。</p> <p>屋外ルート：防火帯を越えて延焼してきた場合でも、消火活動を踏まえて対応。また、複数ルートのうち、森林火災の影響が少ないルートを選択して風(台風)による飛散物の撤去作業を実施することにより対応は可能である。</p> <p>屋内ルート：建物まで林縁からの離隔があるため、影響なし。</p> <p>(8) 風(台風)×降水×地震</p> <p>風(台風)と降水と地震は重畳により影響が増長することはないことから、風(台風)と地震、降水と地震の重畳を想定する。なお、風(台風)と降水の重畳による影響については、上記「(A)風(台風)×降水」を参照。</p> <p>設備の耐性：地震の加振力と風圧が同時に作用した場合は横転の可能性はあるが、重畳が発生するとしても瞬時の事象であり、作用する力のベクトルも考慮に入れると発生頻度は極めて低い。</p> <p>作業環境：増長する影響モードなし。</p> <p>屋外ルート：同上。</p> <p>屋内ルート：地震荷重に風荷重が加わることによる荷重増加が考えられるが、設計上考慮する荷重として地震荷重と風荷重を考慮していることから、影響なし。排水設備が地震で損壊し、建物屋上に滞留水が生じてもすべての排水設備が詰まることは考えにくい。</p> <p>(9) 風(台風)×降水×津波</p> <p>風(台風)と津波、降水と津波は重畳により影響が増長することはないことから、上記「(A)風(台風)×降水」における評価に含まれる。</p> <p>(10) 風(台風)×凍結×積雪×竜巻</p> <p>設備の耐性：増長する影響モードなし。</p> <p>作業環境：強風を避けて除雪作業を実施する必要がある。風(台風)と竜巻による飛散物撤去作業及び除雪作業が輻輳するため作業量が増加するものの、対応は可能である。(気象予報を踏まえ、凍結が想定される場合は、</p>	<p align="center"><b>第4表 自然現象の組合せによる影響評価 (4/7)</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th colspan="2">評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">16 風(台風) +凍結 +積雪 +地震</td> <td>保管場所</td> <td>荷重の観点からは地震の加振力と風荷重が同時に作用した場合が考えられるが、ともに最大荷重の継続時間が短く、同時に発生する確率が低いため、重畳は考慮しない。 また、積雪による荷重も考えられるが、除雪を行うことにより対応可能である。 その他は、B及び地震の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>除雪作業及び地震によるがれきを撤去する必要があるが、積雪は予測可能であり事前に対応可能であること、地震による復旧作業の成立性は確認済みであることから重機による除雪及びがれき撤去は可能である。 また、凍結した場合でも、凍結の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>地震の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">17 風(台風) +凍結 +積雪 +津波</td> <td>保管場所</td> <td>荷重の観点からは風(台風)、積雪及び津波の影響が考えられるが、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから、Bの評価と変わらない。 その他は、B及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、B及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>Bに対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">18 竜巻 +落雷</td> <td>保管場所</td> <td>竜巻及び落雷の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>落雷はアクセスルートに影響を与えないことから、竜巻個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">19 竜巻 +地滑り</td> <td>保管場所</td> <td>竜巻及び地滑りの個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>アクセスルートは地滑りにより影響を受ける範囲にないため、影響を受けないことから竜巻の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">20 竜巻 +火山の 影響</td> <td>保管場所</td> <td align="center"><b>追而【地震津波側審査の反映】</b> <b>(火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波側審査結果を受けて反映のため)</b></td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td align="center"><b>追而【地震津波側審査の反映】</b> <b>(火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波側審査結果を受けて反映のため)</b></td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">21 竜巻 +生物学的 事象</td> <td>保管場所</td> <td>竜巻及び生物学的事象の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことから、竜巻の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">22 竜巻 +森林火 災</td> <td>保管場所</td> <td>竜巻及び森林火災の個別評価と変わらない。(風速が上昇するものの、影響は限定的と考えられる。)</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>竜巻による飛散物の撤去作業を森林火災発生中に対応する必要があるが、アクセスルートは防火帯内に設定しており、森林火災発生時においても熱影響を受けないルートにより通行が可能であることを確認していることから、重機によるがれき撤去作業は可能である。 防火帯内植生による火災については、消火要員がアクセスルート周辺の消火活動を行うことにより対応が可能である。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>森林火災の個別評価と変わらない。</td> </tr> </tbody> </table>	番号	評価		16 風(台風) +凍結 +積雪 +地震	保管場所	荷重の観点からは地震の加振力と風荷重が同時に作用した場合が考えられるが、ともに最大荷重の継続時間が短く、同時に発生する確率が低いため、重畳は考慮しない。 また、積雪による荷重も考えられるが、除雪を行うことにより対応可能である。 その他は、B及び地震の個別評価と変わらない。	屋外ルート	除雪作業及び地震によるがれきを撤去する必要があるが、積雪は予測可能であり事前に対応可能であること、地震による復旧作業の成立性は確認済みであることから重機による除雪及びがれき撤去は可能である。 また、凍結した場合でも、凍結の個別評価と変わらない。	屋内ルート	地震の個別評価と変わらない。	17 風(台風) +凍結 +積雪 +津波	保管場所	荷重の観点からは風(台風)、積雪及び津波の影響が考えられるが、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから、Bの評価と変わらない。 その他は、B及び津波の個別評価と変わらない。	屋外ルート	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、B及び津波の個別評価と変わらない。	屋内ルート	Bに対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。	18 竜巻 +落雷	保管場所	竜巻及び落雷の個別評価と変わらない。	屋外ルート	落雷はアクセスルートに影響を与えないことから、竜巻個別評価と変わらない。	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	19 竜巻 +地滑り	保管場所	竜巻及び地滑りの個別評価と変わらない。	屋外ルート	アクセスルートは地滑りにより影響を受ける範囲にないため、影響を受けないことから竜巻の個別評価と変わらない。	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	20 竜巻 +火山の 影響	保管場所	<b>追而【地震津波側審査の反映】</b> <b>(火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波側審査結果を受けて反映のため)</b>	屋外ルート	<b>追而【地震津波側審査の反映】</b> <b>(火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波側審査結果を受けて反映のため)</b>	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	21 竜巻 +生物学的 事象	保管場所	竜巻及び生物学的事象の個別評価と変わらない。	屋外ルート	生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことから、竜巻の個別評価と変わらない。	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	22 竜巻 +森林火 災	保管場所	竜巻及び森林火災の個別評価と変わらない。(風速が上昇するものの、影響は限定的と考えられる。)	屋外ルート	竜巻による飛散物の撤去作業を森林火災発生中に対応する必要があるが、アクセスルートは防火帯内に設定しており、森林火災発生時においても熱影響を受けないルートにより通行が可能であることを確認していることから、重機によるがれき撤去作業は可能である。 防火帯内植生による火災については、消火要員がアクセスルート周辺の消火活動を行うことにより対応が可能である。	屋内ルート	森林火災の個別評価と変わらない。	<p>【女川及び島根】      記載内容の相違      ・外部事象の選定結果及び資料構成の相違</p>
番号	評価																																																																																																																	
15 風(台風) +凍結 +積雪 +津波	保管場所	荷重の観点からは風(台風)、積雪及び津波の影響が考えられるが、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから、Bの個別評価と変わらない。 その他は、B及び津波の個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋外ルート	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、B及び津波の個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋内ルート	Bに対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。																																																																																																																
16 竜巻 +落雷	保管場所	竜巻及び落雷の個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋外ルート	落雷はアクセス性に影響を与えないことから、竜巻個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																																																
17 竜巻 +火山の 影響	保管場所	荷重の観点からは、竜巻及び降下火砕物による荷重が考えられるが、各事象が重畳する頻度は十分低いことから考慮しない。 その他については、竜巻及び火山の影響の個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋外ルート	竜巻の飛散物撤去作業及び除灰作業が必要であり作業量が増加するが、竜巻による飛散物の影響範囲は限定的であると考えられること、火山の影響による降下火砕物の堆積は時間的余裕があることから、重機によるがれき撤去及び除灰作業は可能である。																																																																																																																
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																																																
18 竜巻 +生物学的 事象	保管場所	竜巻及び生物学的影響の個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋外ルート	生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、竜巻個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																																																
19 竜巻 +森林火 災	保管場所	竜巻及び森林火災の個別評価と変わらない。(風速が上昇するものの、影響は限定的と考えられる。)																																																																																																																
	屋外ルート	竜巻による飛散物の撤去作業を森林火災発生中に対応する必要があるが、アクセスルートは防火帯内に設定しており、森林火災発生時においても作業可能なことは確認していることから、重機によるがれき撤去作業は可能である。 防火帯内植生による火災については、自衛消防隊がアクセスルート周辺の消火活動を行うことにより対応が可能である。																																																																																																																
	屋内ルート	森林火災の個別評価と変わらない。																																																																																																																
20 竜巻 +地震	保管場所	竜巻と地震による荷重が考えられるが、両者は独立事象であるとともに、各事象が重畳する頻度は十分低いことから、組合せは考慮しない。																																																																																																																
	屋外ルート	竜巻による飛散物撤去作業、地震によるがれき撤去作業を実施する必要があることから、作業量が増加するが、竜巻による飛散物の影響範囲は限定的であると考えられること、地震によるがれき撤去成立性は確認済みであることから重機によるがれき撤去は可能である。																																																																																																																
	屋内ルート	地震の個別評価と変わらない。																																																																																																																
21 竜巻 +津波	保管場所	竜巻と津波による荷重が考えられるが、両者は独立事象であるとともに、各事象が重畳する頻度は十分低いことから、組合せは考慮しない。																																																																																																																
	屋外ルート	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、竜巻及び津波の個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋内ルート	竜巻に対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。																																																																																																																
22 落雷 +火山の 影響	保管場所	落雷及び火山の影響の個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋外ルート	落雷はアクセス性に影響を与えないことから、火山の影響の個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																																																
番号	評価																																																																																																																	
16 風(台風) +凍結 +積雪 +地震	保管場所	荷重の観点からは地震の加振力と風荷重が同時に作用した場合が考えられるが、ともに最大荷重の継続時間が短く、同時に発生する確率が低いため、重畳は考慮しない。 また、積雪による荷重も考えられるが、除雪を行うことにより対応可能である。 その他は、B及び地震の個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋外ルート	除雪作業及び地震によるがれきを撤去する必要があるが、積雪は予測可能であり事前に対応可能であること、地震による復旧作業の成立性は確認済みであることから重機による除雪及びがれき撤去は可能である。 また、凍結した場合でも、凍結の個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋内ルート	地震の個別評価と変わらない。																																																																																																																
17 風(台風) +凍結 +積雪 +津波	保管場所	荷重の観点からは風(台風)、積雪及び津波の影響が考えられるが、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから、Bの評価と変わらない。 その他は、B及び津波の個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋外ルート	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、B及び津波の個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋内ルート	Bに対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。																																																																																																																
18 竜巻 +落雷	保管場所	竜巻及び落雷の個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋外ルート	落雷はアクセスルートに影響を与えないことから、竜巻個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																																																
19 竜巻 +地滑り	保管場所	竜巻及び地滑りの個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋外ルート	アクセスルートは地滑りにより影響を受ける範囲にないため、影響を受けないことから竜巻の個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																																																
20 竜巻 +火山の 影響	保管場所	<b>追而【地震津波側審査の反映】</b> <b>(火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波側審査結果を受けて反映のため)</b>																																																																																																																
	屋外ルート	<b>追而【地震津波側審査の反映】</b> <b>(火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波側審査結果を受けて反映のため)</b>																																																																																																																
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																																																
21 竜巻 +生物学的 事象	保管場所	竜巻及び生物学的事象の個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋外ルート	生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことから、竜巻の個別評価と変わらない。																																																																																																																
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																																																
22 竜巻 +森林火 災	保管場所	竜巻及び森林火災の個別評価と変わらない。(風速が上昇するものの、影響は限定的と考えられる。)																																																																																																																
	屋外ルート	竜巻による飛散物の撤去作業を森林火災発生中に対応する必要があるが、アクセスルートは防火帯内に設定しており、森林火災発生時においても熱影響を受けないルートにより通行が可能であることを確認していることから、重機によるがれき撤去作業は可能である。 防火帯内植生による火災については、消火要員がアクセスルート周辺の消火活動を行うことにより対応が可能である。																																																																																																																
	屋内ルート	森林火災の個別評価と変わらない。																																																																																																																



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																					
<p>第4表 自然現象の組合せによる影響評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th colspan="2">評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">23 落雷 +生物学的 事象</td> <td>保管場所</td> <td>落雷及び生物学的事象の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>落雷及び生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、アクセスルートが影響を受けることはない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">24 落雷 +森林火災</td> <td>保管場所</td> <td>落雷及び森林火災の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>落雷はアクセス性に影響を与えないことから、森林火災の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">25 落雷 +地震</td> <td>保管場所</td> <td>地震により避雷針が損傷することにより、落雷の影響が考えられるが、保管場所は位置的分散を図っていることから影響はない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>落雷はアクセス性に影響を与えないことから、地震の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">26 落雷 +津波</td> <td>保管場所</td> <td>落雷及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>落雷はアクセス性に影響を与えないことから、津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">27 火山の影 響 +生物学的 事象</td> <td>保管場所</td> <td>火山の影響及び生物学的事象の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、火山の影響の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">28 火山の影 響 +森林火災</td> <td>保管場所</td> <td>火山の影響及び森林火災の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>除灰作業を森林火災発生中に対応する必要があるが、アクセスルートは防火帯内に設定しており、森林火災発生時においても作業可能なことは確認していることから、重機による除灰作業は可能である。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">29 火山の影 響 +地震</td> <td>保管場所</td> <td>荷重の観点からは、地震及び降下火砕物による荷重が考えられるが、両者は独立事象であるとともに、各事象が重畳する頻度は十分低いことから、荷重の組合せは考慮しない。その他は、火山の影響及び地震の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>除灰作業及び地震によるがれき撤去作業を実施することから、作業物量が増加するが、火山の影響による降下火砕物の堆積は時間的余裕があること、地震によるがれき撤去成立性は確認済みであることから重機による除灰作業及びがれき撤去は可能である。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">30 火山の影 響 +津波</td> <td>保管場所</td> <td>荷重の観点からは、津波及び降下火砕物による荷重が考えられるが、両者は独立事象であるとともに、各事象が重畳する頻度は十分低いことから、荷重の組合せは考慮しない。その他は、火山の影響及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、火山の影響と津波を組み合わせたとしても、それぞれの個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">31 生物学的 事象 +森林火災</td> <td>保管場所</td> <td>生物学的事象及び森林火災の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、生物学的事象及び森林火災の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">32 生物学的 事象 +地震</td> <td>保管場所</td> <td>生物学的事象及び地震の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、生物学的事象及び地震の個別評価と変わらない。</td> </tr> </tbody> </table>	番号	評価		23 落雷 +生物学的 事象	保管場所	落雷及び生物学的事象の個別評価と変わらない。	屋外ルート	落雷及び生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、アクセスルートが影響を受けることはない。	24 落雷 +森林火災	保管場所	落雷及び森林火災の個別評価と変わらない。	屋外ルート	落雷はアクセス性に影響を与えないことから、森林火災の個別評価と変わらない。	25 落雷 +地震	保管場所	地震により避雷針が損傷することにより、落雷の影響が考えられるが、保管場所は位置的分散を図っていることから影響はない。	屋外ルート	落雷はアクセス性に影響を与えないことから、地震の個別評価と変わらない。	26 落雷 +津波	保管場所	落雷及び津波の個別評価と変わらない。	屋外ルート	落雷はアクセス性に影響を与えないことから、津波の個別評価と変わらない。	27 火山の影 響 +生物学的 事象	保管場所	火山の影響及び生物学的事象の個別評価と変わらない。	屋外ルート	生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、火山の影響の個別評価と変わらない。	28 火山の影 響 +森林火災	保管場所	火山の影響及び森林火災の個別評価と変わらない。	屋外ルート	除灰作業を森林火災発生中に対応する必要があるが、アクセスルートは防火帯内に設定しており、森林火災発生時においても作業可能なことは確認していることから、重機による除灰作業は可能である。	29 火山の影 響 +地震	保管場所	荷重の観点からは、地震及び降下火砕物による荷重が考えられるが、両者は独立事象であるとともに、各事象が重畳する頻度は十分低いことから、荷重の組合せは考慮しない。その他は、火山の影響及び地震の個別評価と変わらない。	屋外ルート	除灰作業及び地震によるがれき撤去作業を実施することから、作業物量が増加するが、火山の影響による降下火砕物の堆積は時間的余裕があること、地震によるがれき撤去成立性は確認済みであることから重機による除灰作業及びがれき撤去は可能である。	30 火山の影 響 +津波	保管場所	荷重の観点からは、津波及び降下火砕物による荷重が考えられるが、両者は独立事象であるとともに、各事象が重畳する頻度は十分低いことから、荷重の組合せは考慮しない。その他は、火山の影響及び津波の個別評価と変わらない。	屋外ルート	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、火山の影響と津波を組み合わせたとしても、それぞれの個別評価と変わらない。	31 生物学的 事象 +森林火災	保管場所	生物学的事象及び森林火災の個別評価と変わらない。	屋外ルート	生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、生物学的事象及び森林火災の個別評価と変わらない。	32 生物学的 事象 +地震	保管場所	生物学的事象及び地震の個別評価と変わらない。	屋外ルート	生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、生物学的事象及び地震の個別評価と変わらない。	<p>重機等を暖機運転する。）</p> <p>屋外ルート：強風を避けて除雪作業を実施する必要がある。風（台風）と竜巻による飛散物撤去作業及び除雪作業が輻輳するため作業量が増加するものの、複数ルートのうち、飛散物の影響が少ないルートを選択して除雪することにより対応は可能である。（気象予報を踏まえ、凍結が想定される場合は、重機等を暖機運転する。）</p> <p>屋内ルート：増長する影響モードなし。</p> <p>(11) 風（台風）×凍結×積雪×落雷              設備の耐性：増長する影響モードなし。              作業環境：強風及び落雷を避けて除雪作業を実施する必要がある。除雪作業と風（台風）による飛散物撤去作業が輻輳するため作業量が増加するものの、対応は可能である。（気象予報を踏まえ、凍結が想定される場合は、落雷警報等を踏まえて重大事故等対処設備を暖機運転する。）</p> <p>屋外ルート：強風及び落雷を避けて除雪作業を実施する必要がある。除雪作業と風（台風）による飛散物撤去作業が輻輳するため作業量が増加するものの、複数ルートのうち、飛散物の影響が少ないルートを選択して除雪することにより対応は可能である。（気象予報を踏まえ、凍結が想定される場合は、落雷警報等を踏まえて重大事故等対処設備を暖機運転する。）</p> <p>屋内ルート：増長する影響モードなし。</p> <p>(12) 風（台風）×凍結×積雪×地滑り・土石流              設備の耐性：増長する影響モードなし。              作業環境：強風を避けて除雪作業及び堆積土砂の撤去作業を実施する必要がある。風（台風）による飛散物撤去作業と堆積土砂の撤去作業が輻輳するため作業量が増加するものの、対応は可能である。（気象予報を踏まえ、凍結が想定される場合は、重機等を暖機運転する。）</p> <p>屋外ルート：強風を避けて除雪作業及び堆積土砂の撤去作業を実施する必要がある。風（台風）による飛散物撤去作業と堆積土砂の撤去作業が輻輳するため作業量が増加するものの、複数ルートのうち堆積土砂の影響が少ないルートを選択して飛散物撤去作業をすることにより対応は可能である。（気象予報を踏まえ、凍結が想定される場合は、重機等を暖機運転する。）</p> <p>屋内ルート：増長する影響モードなし。</p> <p>(13) 風（台風）×凍結×積雪×火山の影響              設備の耐性：積雪荷重に降下火砕物の堆積荷重が加わることに</p>	<p>第4表 自然現象の組合せによる影響評価 (5/7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th colspan="2">評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">23 竜巻 +地震</td> <td>保管場所</td> <td>竜巻と地震による荷重が考えられるが、両者は独立事象であるとともに、各事象が重畳する頻度は十分低いことから、組合せは考慮しない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>竜巻による飛散物撤去作業、地震によるがれき撤去作業を実施することから、作業物量が増加するが、竜巻による飛散物の影響範囲は限定的であると考えられること、地震による復旧作業の成立性は確認済みであることから重機によるがれき撤去及び復旧作業は可能である。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">24 竜巻 +津波</td> <td>保管場所</td> <td>竜巻と津波による荷重が考えられるが、両者は独立事象であるとともに、各事象が重畳する頻度は十分低いことから、組合せは考慮しない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、竜巻及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">25 落雷 +地滑り</td> <td>保管場所</td> <td>落雷及び地滑りの個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>落雷及び地滑りの個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">26 落雷 +火山の影 響</td> <td>保管場所</td> <td>落雷及び火山の影響の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>落雷はアクセスルートに影響を与えないことからアクセスルートに影響を受けることはない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">27 落雷 +生物学的 事象</td> <td>保管場所</td> <td>落雷及び生物学的事象の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>落雷及び生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことからアクセスルートに影響を受けることはない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">28 落雷 +森林火災</td> <td>保管場所</td> <td>落雷及び森林火災の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>落雷はアクセスルートに影響を与えないことから森林火災の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">29 落雷 +地震</td> <td>保管場所</td> <td>地震により避雷針が損傷することにより、落雷の影響が考えられるが、保管場所は位置的分散を図っていることから影響はない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>落雷はアクセスルートに影響を与えないことから、地震の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">30 落雷 +津波</td> <td>保管場所</td> <td>落雷及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>落雷はアクセスルートに影響を与えないことから、津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">31 地滑り +火山の影 響</td> <td>保管場所</td> <td>地滑り及び火山の影響の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>地滑り及び火山の影響の個別評価と変わらない。</td> </tr> </tbody> </table>	番号	評価		23 竜巻 +地震	保管場所	竜巻と地震による荷重が考えられるが、両者は独立事象であるとともに、各事象が重畳する頻度は十分低いことから、組合せは考慮しない。	屋外ルート	竜巻による飛散物撤去作業、地震によるがれき撤去作業を実施することから、作業物量が増加するが、竜巻による飛散物の影響範囲は限定的であると考えられること、地震による復旧作業の成立性は確認済みであることから重機によるがれき撤去及び復旧作業は可能である。	24 竜巻 +津波	保管場所	竜巻と津波による荷重が考えられるが、両者は独立事象であるとともに、各事象が重畳する頻度は十分低いことから、組合せは考慮しない。	屋外ルート	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、竜巻及び津波の個別評価と変わらない。	25 落雷 +地滑り	保管場所	落雷及び地滑りの個別評価と変わらない。	屋外ルート	落雷及び地滑りの個別評価と変わらない。	26 落雷 +火山の影 響	保管場所	落雷及び火山の影響の個別評価と変わらない。	屋外ルート	落雷はアクセスルートに影響を与えないことからアクセスルートに影響を受けることはない。	27 落雷 +生物学的 事象	保管場所	落雷及び生物学的事象の個別評価と変わらない。	屋外ルート	落雷及び生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことからアクセスルートに影響を受けることはない。	28 落雷 +森林火災	保管場所	落雷及び森林火災の個別評価と変わらない。	屋外ルート	落雷はアクセスルートに影響を与えないことから森林火災の個別評価と変わらない。	29 落雷 +地震	保管場所	地震により避雷針が損傷することにより、落雷の影響が考えられるが、保管場所は位置的分散を図っていることから影響はない。	屋外ルート	落雷はアクセスルートに影響を与えないことから、地震の個別評価と変わらない。	30 落雷 +津波	保管場所	落雷及び津波の個別評価と変わらない。	屋外ルート	落雷はアクセスルートに影響を与えないことから、津波の個別評価と変わらない。	31 地滑り +火山の影 響	保管場所	地滑り及び火山の影響の個別評価と変わらない。	屋外ルート	地滑り及び火山の影響の個別評価と変わらない。	<p>【女川及び島根】              記載内容の相違              ・外部事象の選定結果及び資料構成の相違</p>
番号	評価																																																																																																							
23 落雷 +生物学的 事象	保管場所	落雷及び生物学的事象の個別評価と変わらない。																																																																																																						
	屋外ルート	落雷及び生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、アクセスルートが影響を受けることはない。																																																																																																						
24 落雷 +森林火災	保管場所	落雷及び森林火災の個別評価と変わらない。																																																																																																						
	屋外ルート	落雷はアクセス性に影響を与えないことから、森林火災の個別評価と変わらない。																																																																																																						
25 落雷 +地震	保管場所	地震により避雷針が損傷することにより、落雷の影響が考えられるが、保管場所は位置的分散を図っていることから影響はない。																																																																																																						
	屋外ルート	落雷はアクセス性に影響を与えないことから、地震の個別評価と変わらない。																																																																																																						
26 落雷 +津波	保管場所	落雷及び津波の個別評価と変わらない。																																																																																																						
	屋外ルート	落雷はアクセス性に影響を与えないことから、津波の個別評価と変わらない。																																																																																																						
27 火山の影 響 +生物学的 事象	保管場所	火山の影響及び生物学的事象の個別評価と変わらない。																																																																																																						
	屋外ルート	生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、火山の影響の個別評価と変わらない。																																																																																																						
28 火山の影 響 +森林火災	保管場所	火山の影響及び森林火災の個別評価と変わらない。																																																																																																						
	屋外ルート	除灰作業を森林火災発生中に対応する必要があるが、アクセスルートは防火帯内に設定しており、森林火災発生時においても作業可能なことは確認していることから、重機による除灰作業は可能である。																																																																																																						
29 火山の影 響 +地震	保管場所	荷重の観点からは、地震及び降下火砕物による荷重が考えられるが、両者は独立事象であるとともに、各事象が重畳する頻度は十分低いことから、荷重の組合せは考慮しない。その他は、火山の影響及び地震の個別評価と変わらない。																																																																																																						
	屋外ルート	除灰作業及び地震によるがれき撤去作業を実施することから、作業物量が増加するが、火山の影響による降下火砕物の堆積は時間的余裕があること、地震によるがれき撤去成立性は確認済みであることから重機による除灰作業及びがれき撤去は可能である。																																																																																																						
30 火山の影 響 +津波	保管場所	荷重の観点からは、津波及び降下火砕物による荷重が考えられるが、両者は独立事象であるとともに、各事象が重畳する頻度は十分低いことから、荷重の組合せは考慮しない。その他は、火山の影響及び津波の個別評価と変わらない。																																																																																																						
	屋外ルート	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、火山の影響と津波を組み合わせたとしても、それぞれの個別評価と変わらない。																																																																																																						
31 生物学的 事象 +森林火災	保管場所	生物学的事象及び森林火災の個別評価と変わらない。																																																																																																						
	屋外ルート	生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、生物学的事象及び森林火災の個別評価と変わらない。																																																																																																						
32 生物学的 事象 +地震	保管場所	生物学的事象及び地震の個別評価と変わらない。																																																																																																						
	屋外ルート	生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、生物学的事象及び地震の個別評価と変わらない。																																																																																																						
番号	評価																																																																																																							
23 竜巻 +地震	保管場所	竜巻と地震による荷重が考えられるが、両者は独立事象であるとともに、各事象が重畳する頻度は十分低いことから、組合せは考慮しない。																																																																																																						
	屋外ルート	竜巻による飛散物撤去作業、地震によるがれき撤去作業を実施することから、作業物量が増加するが、竜巻による飛散物の影響範囲は限定的であると考えられること、地震による復旧作業の成立性は確認済みであることから重機によるがれき撤去及び復旧作業は可能である。																																																																																																						
24 竜巻 +津波	保管場所	竜巻と津波による荷重が考えられるが、両者は独立事象であるとともに、各事象が重畳する頻度は十分低いことから、組合せは考慮しない。																																																																																																						
	屋外ルート	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、竜巻及び津波の個別評価と変わらない。																																																																																																						
25 落雷 +地滑り	保管場所	落雷及び地滑りの個別評価と変わらない。																																																																																																						
	屋外ルート	落雷及び地滑りの個別評価と変わらない。																																																																																																						
26 落雷 +火山の影 響	保管場所	落雷及び火山の影響の個別評価と変わらない。																																																																																																						
	屋外ルート	落雷はアクセスルートに影響を与えないことからアクセスルートに影響を受けることはない。																																																																																																						
27 落雷 +生物学的 事象	保管場所	落雷及び生物学的事象の個別評価と変わらない。																																																																																																						
	屋外ルート	落雷及び生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことからアクセスルートに影響を受けることはない。																																																																																																						
28 落雷 +森林火災	保管場所	落雷及び森林火災の個別評価と変わらない。																																																																																																						
	屋外ルート	落雷はアクセスルートに影響を与えないことから森林火災の個別評価と変わらない。																																																																																																						
29 落雷 +地震	保管場所	地震により避雷針が損傷することにより、落雷の影響が考えられるが、保管場所は位置的分散を図っていることから影響はない。																																																																																																						
	屋外ルート	落雷はアクセスルートに影響を与えないことから、地震の個別評価と変わらない。																																																																																																						
30 落雷 +津波	保管場所	落雷及び津波の個別評価と変わらない。																																																																																																						
	屋外ルート	落雷はアクセスルートに影響を与えないことから、津波の個別評価と変わらない。																																																																																																						
31 地滑り +火山の影 響	保管場所	地滑り及び火山の影響の個別評価と変わらない。																																																																																																						
	屋外ルート	地滑り及び火山の影響の個別評価と変わらない。																																																																																																						



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																										
<p>第4表 自然現象の組合せによる影響評価</p> <table border="1" data-bbox="100 264 899 806"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th colspan="2">評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">33 生物学的 事象 +津波</td> <td>保管場所</td> <td>生物学的事象及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、生物学的事象及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>生物学的事象に対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">34 森林火災 +地震</td> <td>保管場所</td> <td>地震により防火帯が崩壊する可能性があるが、初期消火要員による消火活動を実施することにより対応可能である。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>地震により防火帯が崩壊する可能性があるが、森林火災が発電所に到達するまでに予防散水等の対応が可能である。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>地震の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">35 森林火災 +津波</td> <td>保管場所</td> <td>森林火災及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、森林火災及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>森林火災に対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">36 地震 +津波</td> <td>保管場所</td> <td>津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、地震及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、地震及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>地震の個別評価と変わらない。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。</td> </tr> </tbody> </table>	番号	評価		33 生物学的 事象 +津波	保管場所	生物学的事象及び津波の個別評価と変わらない。	屋外ルート	生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、生物学的事象及び津波の個別評価と変わらない。	屋内ルート	生物学的事象に対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。	34 森林火災 +地震	保管場所	地震により防火帯が崩壊する可能性があるが、初期消火要員による消火活動を実施することにより対応可能である。	屋外ルート	地震により防火帯が崩壊する可能性があるが、森林火災が発電所に到達するまでに予防散水等の対応が可能である。	屋内ルート	地震の個別評価と変わらない。	35 森林火災 +津波	保管場所	森林火災及び津波の個別評価と変わらない。	屋外ルート	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、森林火災及び津波の個別評価と変わらない。	屋内ルート	森林火災に対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。	36 地震 +津波	保管場所	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、地震及び津波の個別評価と変わらない。	屋外ルート	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、地震及び津波の個別評価と変わらない。	屋内ルート	地震の個別評価と変わらない。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。	<p>る荷重増加が考えられるが、除雪及び除灰することで影響を緩和可能。除雪作業及び除灰作業が輻輳するため作業量が増加するものの、対応は可能である。</p> <p><b>作業環境</b>：強風を避けて除雪作業及び除灰作業を実施する必要がある。風（台風）による飛散物撤去作業、除雪作業及び除灰作業が輻輳するため作業量が増加するものの、対応は可能である。（気象予報を踏まえ、重大事故等対処設備を暖機運転する。）</p> <p><b>屋外ルート</b>：強風を避けて除雪作業及び除灰作業を実施する必要がある。風（台風）による飛散物撤去作業、除雪作業及び除灰作業が輻輳するため作業量が増加するものの、複数ルートのうち飛散物の影響が少ないルートを選択して除雪及び除灰をすることにより対応は可能である。（気象予報を踏まえ、重大事故等対処設備を暖機運転する。）</p> <p><b>屋内ルート</b>：積雪荷重と降下火砕物の堆積荷重が加わることによる荷重増加が考えられるが、設計上考慮する荷重として積雪荷重と降下火砕物の堆積荷重を考慮していることから、影響なし。</p> <p>(14) 風（台風）×凍結×積雪×生物学的事象  <b>設備の耐性</b>：増長する影響モードなし。  <b>作業環境</b>：強風を避けて除雪作業を実施する必要がある。除雪作業と風（台風）による飛散物撤去作業が輻輳するため作業量が増加するものの、対応は可能である。（気象予報を踏まえ、凍結が想定される場合は、重機等を暖機運転する。）  <b>屋外ルート</b>：強風を避けて除雪作業を実施する必要がある。除雪作業と風（台風）による飛散物撤去作業が輻輳するため作業量が増加するものの、複数ルートのうち、飛散物の影響が少ないルートを選択して除雪することにより対応は可能である。（気象予報を踏まえ、凍結が想定される場合は、重機等を暖機運転する。）  <b>屋内ルート</b>：増長する影響モードなし。</p> <p>(15) 風（台風）×凍結×積雪×森林火災  <b>設備の耐性</b>：火線強度が増長する。防火帯は一定の裕度を有しているが、防火帯を越えて延焼する可能性がある。防火帯の設計想定以上の強風でかつ、森林火災が発生した場合には、重大事故等対処設備を移動する。  <b>作業環境</b>：重大事故等対処設備への影響が想定される場合には、重大事故等対処設備を移動する。強風を避けて除雪作業を実施する必要がある。除雪作業と風（台風）による飛散物撤去作業が輻輳するため作業量が増加するものの、対応は可能である。（気象予報を踏まえ、凍結が想定される場合は、重機等を暖機運転する。）</p>	<p>第4表 自然現象の組合せによる影響評価 (6/7)</p> <table border="1" data-bbox="1780 235 2585 1314"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th colspan="2">評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">32 地滑り +生物学的 影響</td> <td>保管場所</td> <td>地滑り及び生物学的影響の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことから、地滑りの個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">33 地滑り +森林火災</td> <td>保管場所</td> <td>荷重の観点からは、地滑りによる荷重が考えられるが、保管場所は地滑りの影響を受ける範囲にないため、森林火災の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>アクセスルートは地滑りにより影響を受ける範囲にないため、影響を受けないことから森林火災の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>森林火災の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">34 地滑り +地震</td> <td>保管場所</td> <td>荷重の観点からは、地滑り及び地震による荷重が考えられるが、保管場所は地滑りの影響を受ける範囲にないため、地震の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>アクセスルートは地滑りによる影響を受ける範囲にないため、地震の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">35 地滑り +津波</td> <td>保管場所</td> <td>荷重の観点からは、地滑り及び津波による荷重が考えられるが、保管場所は地滑りの影響を受ける範囲にないため、津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>アクセスルートは地滑りによる影響を受ける範囲にないため、津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">36 火山の影響 +生物学的 事象</td> <td>保管場所</td> <td>追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>建屋内のため影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">37 火山の影響 +森林火災</td> <td>保管場所</td> <td>追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>森林火災の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">38 火山の影響 +地震</td> <td>保管場所</td> <td>追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>地震の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">39 火山の影響 +津波</td> <td>保管場所</td> <td>追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>火山の影響に対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。</td> </tr> </tbody> </table>	番号	評価		32 地滑り +生物学的 影響	保管場所	地滑り及び生物学的影響の個別評価と変わらない。	屋外ルート	生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことから、地滑りの個別評価と変わらない。	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	33 地滑り +森林火災	保管場所	荷重の観点からは、地滑りによる荷重が考えられるが、保管場所は地滑りの影響を受ける範囲にないため、森林火災の個別評価と変わらない。	屋外ルート	アクセスルートは地滑りにより影響を受ける範囲にないため、影響を受けないことから森林火災の個別評価と変わらない。	屋内ルート	森林火災の個別評価と変わらない。	34 地滑り +地震	保管場所	荷重の観点からは、地滑り及び地震による荷重が考えられるが、保管場所は地滑りの影響を受ける範囲にないため、地震の個別評価と変わらない。	屋外ルート	アクセスルートは地滑りによる影響を受ける範囲にないため、地震の個別評価と変わらない。	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	35 地滑り +津波	保管場所	荷重の観点からは、地滑り及び津波による荷重が考えられるが、保管場所は地滑りの影響を受ける範囲にないため、津波の個別評価と変わらない。	屋外ルート	アクセスルートは地滑りによる影響を受ける範囲にないため、津波の個別評価と変わらない。	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	36 火山の影響 +生物学的 事象	保管場所	追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)	屋外ルート	追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)	屋内ルート	建屋内のため影響なし。	37 火山の影響 +森林火災	保管場所	追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)	屋外ルート	追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)	屋内ルート	森林火災の個別評価と変わらない。	38 火山の影響 +地震	保管場所	追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)	屋外ルート	追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)	屋内ルート	地震の個別評価と変わらない。	39 火山の影響 +津波	保管場所	追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)	屋外ルート	追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)	屋内ルート	火山の影響に対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。	<p>【女川及び島根】          記載内容の相違          ・外部事象の選定結果及び資料構成の相違</p>
番号	評価																																																																																												
33 生物学的 事象 +津波	保管場所	生物学的事象及び津波の個別評価と変わらない。																																																																																											
	屋外ルート	生物学的事象はアクセス性に影響を与えないことから、生物学的事象及び津波の個別評価と変わらない。																																																																																											
	屋内ルート	生物学的事象に対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。																																																																																											
34 森林火災 +地震	保管場所	地震により防火帯が崩壊する可能性があるが、初期消火要員による消火活動を実施することにより対応可能である。																																																																																											
	屋外ルート	地震により防火帯が崩壊する可能性があるが、森林火災が発電所に到達するまでに予防散水等の対応が可能である。																																																																																											
	屋内ルート	地震の個別評価と変わらない。																																																																																											
35 森林火災 +津波	保管場所	森林火災及び津波の個別評価と変わらない。																																																																																											
	屋外ルート	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、森林火災及び津波の個別評価と変わらない。																																																																																											
	屋内ルート	森林火災に対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。																																																																																											
36 地震 +津波	保管場所	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、地震及び津波の個別評価と変わらない。																																																																																											
	屋外ルート	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、地震及び津波の個別評価と変わらない。																																																																																											
	屋内ルート	地震の個別評価と変わらない。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。																																																																																											
番号	評価																																																																																												
32 地滑り +生物学的 影響	保管場所	地滑り及び生物学的影響の個別評価と変わらない。																																																																																											
	屋外ルート	生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことから、地滑りの個別評価と変わらない。																																																																																											
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																											
33 地滑り +森林火災	保管場所	荷重の観点からは、地滑りによる荷重が考えられるが、保管場所は地滑りの影響を受ける範囲にないため、森林火災の個別評価と変わらない。																																																																																											
	屋外ルート	アクセスルートは地滑りにより影響を受ける範囲にないため、影響を受けないことから森林火災の個別評価と変わらない。																																																																																											
	屋内ルート	森林火災の個別評価と変わらない。																																																																																											
34 地滑り +地震	保管場所	荷重の観点からは、地滑り及び地震による荷重が考えられるが、保管場所は地滑りの影響を受ける範囲にないため、地震の個別評価と変わらない。																																																																																											
	屋外ルート	アクセスルートは地滑りによる影響を受ける範囲にないため、地震の個別評価と変わらない。																																																																																											
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																											
35 地滑り +津波	保管場所	荷重の観点からは、地滑り及び津波による荷重が考えられるが、保管場所は地滑りの影響を受ける範囲にないため、津波の個別評価と変わらない。																																																																																											
	屋外ルート	アクセスルートは地滑りによる影響を受ける範囲にないため、津波の個別評価と変わらない。																																																																																											
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																											
36 火山の影響 +生物学的 事象	保管場所	追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)																																																																																											
	屋外ルート	追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)																																																																																											
	屋内ルート	建屋内のため影響なし。																																																																																											
37 火山の影響 +森林火災	保管場所	追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)																																																																																											
	屋外ルート	追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)																																																																																											
	屋内ルート	森林火災の個別評価と変わらない。																																																																																											
38 火山の影響 +地震	保管場所	追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)																																																																																											
	屋外ルート	追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)																																																																																											
	屋内ルート	地震の個別評価と変わらない。																																																																																											
39 火山の影響 +津波	保管場所	追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)																																																																																											
	屋外ルート	追記【地震津波調査の反映】 (火山灰の層厚、密度、降灰除去時間について、地震津波調査結果を受けて反映のため)																																																																																											
	屋内ルート	火山の影響に対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。																																																																																											



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																													
	<p>屋外ルート：防火帯を越えて延焼してきた場合でも、消火活動を踏まえて対応。強風を避けて除雪作業を実施する必要がある。除雪作業、風（台風）による飛散物撤去作業及び消火活動が輻輳するため作業量が増加するものの、複数ルートのうち、森林火災の影響が少ないルートを選択して除雪作業及び風（台風）による飛散物の撤去作業を実施することにより対応は可能である。（気象予報を踏まえ、凍結が想定される場合は、重機等を暖機運転する。）</p> <p>屋内ルート：建物まで林縁からの離隔があるため、影響なし。</p> <p>(16) 風（台風）×凍結×積雪×地震                      凍結と地震は重畳により影響が増長することはないことから、風（台風）と地震、積雪と地震の重畳を想定する。なお、風（台風）と凍結と積雪の重畳による影響については、上記「(B)風（台風）×凍結×積雪」を参照。                      設備の耐性：地震の加振力と風圧が同時に作用した場合は横転の可能性があるが、重畳が発生するとしても瞬時の事象であり、作用する力のベクトルも考慮に入ると発生頻度は極めて低い。積雪荷重に地震荷重が加わることによる荷重増加が考えられるが、除雪することで影響を緩和可能。                      作業環境：増長する影響モードなし。                      屋外ルート：同上。                      屋内ルート：地震荷重に積雪荷重又は風荷重が加わることによる荷重増加が考えられるが、設計上考慮する荷重として地震荷重と積雪荷重又は風荷重の組合せを考慮していることから、影響なし。</p> <p>(17) 風（台風）×凍結×積雪×津波                      風（台風）と津波、凍結と津波、積雪と津波は重畳により影響が増長することはないことから、上記「(B)風（台風）×凍結×積雪」における評価に包含される。</p> <p>(18) 竜巻×落雷                      設備の耐性：増長する影響モードなし。                      作業環境：竜巻による飛散物を撤去する場合は落雷を避けて作業を実施する必要があるが、対応は可能である。                      屋外ルート：竜巻による飛散物を撤去する場合は落雷を避けて作業を実施する必要があるが、複数ルートのうち、飛散物の影響が少ないルートを選択して作業することにより対応は可能である。                      屋内ルート：増長する影響モードなし。</p> <p>(19) 竜巻×地滑り・土石流                      設備の耐性：増長する影響モードなし。</p>	<p>第4表 自然現象の組合せによる影響評価 (7/7)</p> <table border="1" data-bbox="1780 231 2582 1008"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th colspan="2">評 価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">40 生物学的 事象 +森林火災</td> <td>保管場所</td> <td>生物学的事象及び森林火災の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことから、生物学的事象及び森林火災の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>森林火災の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">41 生物学的 事象 +地震</td> <td>保管場所</td> <td>生物学的事象及び地震の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことから、生物学的事象及び地震の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>地震の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">42 生物学的 事象 +津波</td> <td>保管場所</td> <td>生物学的事象及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことから、生物学的事象及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>生物学的事象に対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">43 森林火災 +地震</td> <td>保管場所</td> <td>地震により防火帯が崩壊する可能性があるが、消火要員による消火活動を実施することにより対応可能である。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>地震により防火帯が崩壊する可能性があるが、森林火災が発電所に到達するまでに予防散水等の対応が可能である。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>地震の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">44 森林火災 +津波</td> <td>保管場所</td> <td>森林火災及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、森林火災及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>森林火災に対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">45 地震 +津波</td> <td>保管場所</td> <td>津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、地震及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋外ルート</td> <td>津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、地震及び津波の個別評価と変わらない。</td> </tr> <tr> <td>屋内ルート</td> <td>地震の個別評価と変わらない。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。</td> </tr> </tbody> </table>	番号	評 価		40 生物学的 事象 +森林火災	保管場所	生物学的事象及び森林火災の個別評価と変わらない。	屋外ルート	生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことから、生物学的事象及び森林火災の個別評価と変わらない。	屋内ルート	森林火災の個別評価と変わらない。	41 生物学的 事象 +地震	保管場所	生物学的事象及び地震の個別評価と変わらない。	屋外ルート	生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことから、生物学的事象及び地震の個別評価と変わらない。	屋内ルート	地震の個別評価と変わらない。	42 生物学的 事象 +津波	保管場所	生物学的事象及び津波の個別評価と変わらない。	屋外ルート	生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことから、生物学的事象及び津波の個別評価と変わらない。	屋内ルート	生物学的事象に対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。	43 森林火災 +地震	保管場所	地震により防火帯が崩壊する可能性があるが、消火要員による消火活動を実施することにより対応可能である。	屋外ルート	地震により防火帯が崩壊する可能性があるが、森林火災が発電所に到達するまでに予防散水等の対応が可能である。	屋内ルート	地震の個別評価と変わらない。	44 森林火災 +津波	保管場所	森林火災及び津波の個別評価と変わらない。	屋外ルート	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、森林火災及び津波の個別評価と変わらない。	屋内ルート	森林火災に対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。	45 地震 +津波	保管場所	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、地震及び津波の個別評価と変わらない。	屋外ルート	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、地震及び津波の個別評価と変わらない。	屋内ルート	地震の個別評価と変わらない。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。	<p>【島根】記載内容の相違                      ・外部事象の選定結果及び資料構成の相違</p>
番号	評 価																																															
40 生物学的 事象 +森林火災	保管場所	生物学的事象及び森林火災の個別評価と変わらない。																																														
	屋外ルート	生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことから、生物学的事象及び森林火災の個別評価と変わらない。																																														
	屋内ルート	森林火災の個別評価と変わらない。																																														
41 生物学的 事象 +地震	保管場所	生物学的事象及び地震の個別評価と変わらない。																																														
	屋外ルート	生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことから、生物学的事象及び地震の個別評価と変わらない。																																														
	屋内ルート	地震の個別評価と変わらない。																																														
42 生物学的 事象 +津波	保管場所	生物学的事象及び津波の個別評価と変わらない。																																														
	屋外ルート	生物学的事象はアクセスルートに影響を与えないことから、生物学的事象及び津波の個別評価と変わらない。																																														
	屋内ルート	生物学的事象に対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。																																														
43 森林火災 +地震	保管場所	地震により防火帯が崩壊する可能性があるが、消火要員による消火活動を実施することにより対応可能である。																																														
	屋外ルート	地震により防火帯が崩壊する可能性があるが、森林火災が発電所に到達するまでに予防散水等の対応が可能である。																																														
	屋内ルート	地震の個別評価と変わらない。																																														
44 森林火災 +津波	保管場所	森林火災及び津波の個別評価と変わらない。																																														
	屋外ルート	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、森林火災及び津波の個別評価と変わらない。																																														
	屋内ルート	森林火災に対しては建屋内にあるため影響なし。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。																																														
45 地震 +津波	保管場所	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、地震及び津波の個別評価と変わらない。																																														
	屋外ルート	津波防護施設及び浸水防止設備により敷地内に到達しないことから、地震及び津波の個別評価と変わらない。																																														
	屋内ルート	地震の個別評価と変わらない。 津波に対しては、津波防護施設及び浸水防止設備により津波が敷地内に到達しないことから影響なし。																																														

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>作業環境：竜巻による飛散物の撤去作業と堆積土砂の撤去作業が輻輳するため作業量が増加するものの、対応は可能である。</p> <p>屋外ルート：同上。</p> <p>屋内ルート：増長する影響モードなし。</p> <p>(20) 竜巻×火山の影響                      設備の耐性：竜巻と火山の影響は独立事象であり、各々の発生頻度が小さく同時に発生する確率は極めて低いことから、重畳を考慮しない。</p> <p>作業環境：同上。</p> <p>屋外ルート：同上。</p> <p>屋内ルート：同上。</p> <p>(21) 竜巻×生物学的事象                      設備の耐性：増長する影響モードなし。</p> <p>作業環境：同上。</p> <p>屋外ルート：同上。</p> <p>屋内ルート：同上。</p> <p>(22) 竜巻×森林火災                      設備の耐性：竜巻により、森林火災の輻射熱が大きくなることが想定されるが、竜巻の継続時間は短く、風向は一定でないことから、輻射熱による影響は限定的である。また、予防散水を行うことで影響を緩和可能である。（竜巻襲来が予測される場合は、予防散水を一時的に中止する。）</p> <p>作業環境：同上。</p> <p>屋外ルート：竜巻により、森林火災の輻射熱が大きくなることが想定されるが、竜巻の継続時間は短く、風向は一定でないことから、輻射熱による影響は限定的である。また、予防散水を行うことで影響を緩和可能である。（竜巻襲来が予測される場合は、予防散水を一時的に中止する。）森林火災の影響が少ないルートを選択して竜巻による飛散物の撤去作業を実施することにより対応は可能である。</p> <p>屋内ルート：増長する影響モードなし。</p> <p>(23) 竜巻×地震                      設備の耐性：地震と竜巻は独立事象であり、各々の発生頻度が小さく同時に発生する確率は極めて低いことから、重畳を考慮しない。</p> <p>作業環境：同上。</p> <p>屋外ルート：同上。</p> <p>屋内ルート：同上。</p>		<p>【島根】記載内容の相違                      ・外部事象の選定結果及び資料構成の相違</p>



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(24) 竜巻×津波                      設備の耐性：津波と竜巻は独立事象であり、各々の発生頻度が小さく同時に発生する確率は極めて低いことから、重量を考慮しない。                      作業環境：同上。                      屋外ルート：同上。                      屋内ルート：同上。</p> <p>(25) 落雷×地滑り・土石流                      設備の耐性：増長する影響モードなし。                      作業環境：落雷を避けて堆積土砂の撤去作業を実施する必要があるが、対応は可能である。                      屋外ルート：同上。                      屋内ルート：増長する影響モードなし。</p> <p>(26) 落雷×火山の影響                      設備の耐性：増長する影響モードなし。                      作業環境：落雷を避けて除灰作業を実施する必要があるが、対応は可能である。                      屋外ルート：同上。                      屋内ルート：増長する影響モードなし。</p> <p>(27) 落雷×生物学的事象                      設備の耐性：増長する影響モードなし。                      作業環境：同上。                      屋外ルート：同上。                      屋内ルート：同上。</p> <p>(28) 落雷×森林火災                      設備の耐性：増長する影響モードなし。                      作業環境：同上。                      屋外ルート：同上。                      屋内ルート：同上。</p> <p>(29) 落雷×地震                      設備の耐性：増長する影響モードなし。                      作業環境：同上。                      屋外ルート：同上。                      屋内ルート：同上。</p> <p>(30) 落雷×津波                      設備の耐性：増長する影響モードなし。                      作業環境：同上。                      屋外ルート：同上。                      屋内ルート：同上。</p>		<p>【島根】記載内容の相違                      ・外部事象の選定結果及び資料構成の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(31) 地滑り・土石流×火山の影響                      設備の耐性：増長する影響モードなし。                      作業環境：堆積土砂の撤去作業と除灰が輻輳するため作業量が増加するものの、対応は可能である。                      屋外ルート：堆積土砂の撤去作業と除灰が輻輳するため作業量が増加するものの、堆積土砂の影響が少ないルートを選択して除灰することにより対応は可能である。                      屋内ルート：増長する影響モードなし。</p> <p>(32) 地滑り・土石流×生物学的事象                      設備の耐性：増長する影響モードなし。                      作業環境：同上。                      屋外ルート：同上。                      屋内ルート：同上。</p> <p>(33) 地滑り・土石流×森林火災                      設備の耐性：増長する影響モードなし。                      作業環境：同上。                      屋外ルート：同上。                      屋内ルート：同上。</p> <p>(34) 地滑り・土石流×地震                      設備の耐性：増長する影響モードなし。                      作業環境：同上。                      屋外ルート：同上。                      屋内ルート：同上。</p> <p>(35) 地滑り・土石流×津波                      設備の耐性：増長する影響モードなし。                      作業環境：同上。                      屋外ルート：同上。                      屋内ルート：同上。</p> <p>(36) 火山の影響×生物学的事象                      設備の耐性：増長する影響モードなし。                      作業環境：同上。                      屋外ルート：同上。                      屋内ルート：同上。</p> <p>(37) 火山の影響×森林火災                      設備の耐性：増長する影響モードなし。                      作業環境：同上。                      屋外ルート：同上。                      屋内ルート：同上。</p> <p>(38) 火山の影響×地震</p>		<p>【島根】記載内容の相違                      ・外部事象の選定結果及び資料構成の相違</p>



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>設備の耐性：地震と火山の影響は独立事象であり、各々の発生頻度が小さく同時に発生する確率は極めて低いことから、重量を考慮しない。</p> <p>作業環境：同上。</p> <p>屋外ルート：同上。</p> <p>屋内ルート：同上。</p> <p>(39) 火山の影響×津波</p> <p>設備の耐性：津波と火山の影響は独立事象であり、各々の発生頻度が小さく同時に発生する確率は極めて低いことから、重量を考慮しない。</p> <p>作業環境：同上。</p> <p>屋外ルート：同上。</p> <p>屋内ルート：同上。</p> <p>(40) 生物学的事象×森林火災</p> <p>設備の耐性：増長する影響モードなし。</p> <p>作業環境：同上。</p> <p>屋外ルート：同上。</p> <p>屋内ルート：同上。</p> <p>(41) 生物学的事象×地震</p> <p>設備の耐性：増長する影響モードなし。</p> <p>作業環境：同上。</p> <p>屋外ルート：同上。</p> <p>屋内ルート：同上。</p> <p>(42) 生物学的事象×津波</p> <p>設備の耐性：増長する影響モードなし。</p> <p>作業環境：同上。</p> <p>屋外ルート：同上。</p> <p>屋内ルート：同上。</p> <p>(43) 森林火災×地震</p> <p>設備の耐性：増長する影響モードなし。</p> <p>作業環境：同上。</p> <p>屋外ルート：同上。</p> <p>屋内ルート：同上。</p> <p>(44) 森林火災×津波</p> <p>設備の耐性：増長する影響モードなし。</p> <p>作業環境：同上。</p> <p>屋外ルート：同上。</p> <p>屋内ルート：同上。</p> <p>(45) 地震×津波</p>		<p>【島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部事象の選定結果及び資料構成の相違</li> </ul>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

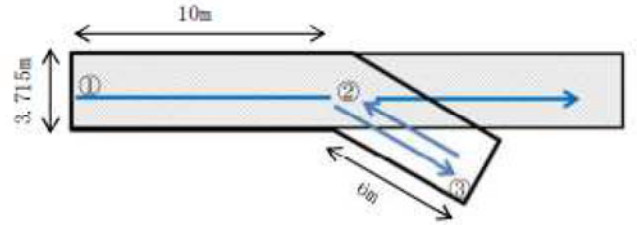
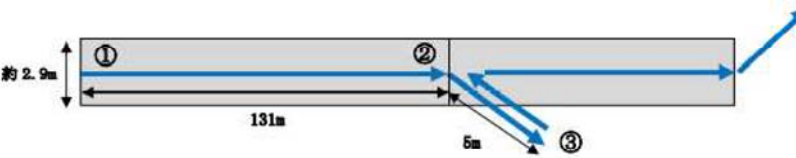
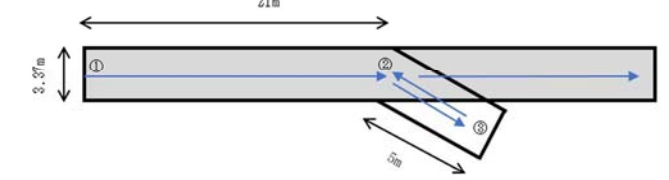
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>設備の耐性：増長する影響モードなし。                      作業環境：同上。                      屋外ルート：同上。                      屋内ルート：同上。</p>		<p>【島根】記載内容の相違                      ・外部事象の選定結果及び資料構成の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>別紙(5)</p> <p>アクセスルート降灰・降雪除去時間評価について</p> <p>1. ブルドーザの仕様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ブレード幅：約3.7m</li> <li>○最大押し出し可能重量：9.12t (土砂撤去実証実験より9.12t以上押し出せることを確認済)</li> <li>○走行速度(1速)：前進3.3km/h、後進4.4km/h</li> <li>○移動速度(3速)：前進10.0km/h</li> </ul> <p>2. 降灰除去速度の算出</p> <p>&lt;降灰条件&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○厚さ：15cm(設計基準)</li> <li>○単位体積重量：1.5t/m<sup>3</sup></li> </ul> <p>&lt;除去方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセスルートに降り積もった降灰をブルドーザで道路脇へ押し出し除去する。</li> <li>・一回の押し出し可能量を9.12tとし、9.12tの火山灰を集積し、道路脇へ押し出す作業を1サイクルとして繰り返す。</li> <li>・一回の集積で進める距離X  <math>= 9.12t \div (\text{火山灰厚さ} 0.15m \times \text{幅} 3.715m \times 1.5t/m^3)</math>  <math>= 10.9m \div 10m</math></li> <li>・1サイクル当たりの作業時間は、1速の走行速度(前進3.3km/h、後進4.4km/h)で作業すると仮定して                      A：押し出し(①→②→③)：(10m+6m) ÷ 3.3km/h = 0.30分                      B：ギア切り替え：0.10分                      C：後進(③→②)：6m ÷ 4.4km/h = 0.09分                      1サイクル当たりの作業時間(A+B+C) = 0.30分 + 0.10分 + 0.09分 = 0.49分</li> </ul>  <p>&lt;降灰除去速度&gt;</p> <p>1サイクル当たりの除去延長 ÷ 1サイクル当たりの除去時間  <math>= 10m \div 0.49分 = 20.40m/分 = 1.22km/h = 1.2km/h</math></p>	<p>別紙(23)</p> <p>屋外のアクセスルート 除雪時間評価</p> <p>1. ホイールローダ仕様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○最大けん引力：16t</li> <li>○バケット全幅：292cm</li> <li>○走行速度(1速)：前進0~6.6km/h、後進0~7.1km/h</li> </ul> <p>2. 除雪速度の算出</p> <p>&lt;降雪条件&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○積雪量：20cm (アクセスルート(車両)は10cmで除雪作業開始としていることから、保守的に20cmとして設定)</li> <li>○単位体積重量：積雪量1cmあたり20N/m<sup>2</sup>(2.1kg/m<sup>2</sup>)                      積雪密度：2.1kg/m<sup>2</sup> ÷ 0.01m = 210kg/m<sup>3</sup>(0.21t/m<sup>3</sup>) (松江市建築基準法施行細則)</li> </ul> <p>&lt;除雪方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセスルート上に降り積もった雪を、ホイールローダで道路脇へ5m押し出し除去する。</li> <li>・1回の押し出し可能量を16tとし、16tの雪を集積し、道路脇へ押し出す作業を1サイクルとして繰り返す。</li> <li>・1回の集積で進める距離X = <math>16t \div (\text{積雪厚さ} 0.2m \times \text{幅} 2.9m \times 0.21t/m^3) = 131.3m \div 131m</math></li> <li>・1サイクル当たりの作業時間は、1速の走行速度(前進0~6.6、後進0~7.1km/h)の平均3.3km/h(前進)、3.5km/h(後進)で作業を実施すると仮定して                      A：押し出し(①→②→③)：(131m+5m) ÷ 3.3km/h = 148.3秒 ÷ 149秒                      B：ギア切替え：3秒                      C：後進(③→②)：5m ÷ 3.5km/h = 5.1秒 ÷ 6秒                      D：ギア切替え：3秒                      1サイクル当たりの作業時間(A+B+C+D) = 149秒 + 3秒 + 6秒 + 3秒 = 161秒</li> </ul>  <p>&lt;除雪速度&gt;</p> <p>1サイクル当たりの除雪延長 ÷ 1サイクル当たりの除雪時間  <math>= 131m \div 161秒 = 2.92km/h \div 2.9km/h</math></p>	<p>別紙(5)</p> <p>屋外のアクセスルート除雪・除灰時間評価について</p> <p>1. ホイールローダ仕様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○最大押し出し可能重量：4.5t (がれき撤去試験より4.5t押し出せることを確認済み)</li> <li>○バケット全幅：337cm</li> <li>○走行速度(1速)：前進11.6km/h、後進11.6km/h</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>追而【走行速度検証結果の反映】</b>          (ホイールローダの走行速度の検証について、実施結果を受けて反映のため)     </p> <p>2. 除雪速度の算出</p> <p>&lt;降雪条件&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○積雪量：20cm (アクセスルート(車両)は10cmで除雪作業開始としていることから、保守的に20cmとして設定)</li> <li>○単位体積重量：積雪量1cmあたり30N/m<sup>2</sup>(3.1kg/m<sup>2</sup>)                      積雪密度：3.1kg/m<sup>2</sup> ÷ 0.01m = 310kg/m<sup>3</sup>(0.31t/m<sup>3</sup>) (北海道建築基準法施行細則)</li> </ul> <p>&lt;除雪方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセスルート上に降り積もった雪を、ホイールローダで道路脇へ5m押し出し除去する。</li> <li>・1回の押し出し可能重量を4.5tとし、4.5tの雪を集積し、道路脇へ押し出す作業を1サイクルとして繰り返す。</li> <li>・1回の集積で進める距離X = <math>4.5t \div (\text{積雪厚さ} 0.2m \times \text{幅} 3.37m \times 0.31t/m^3) = 21.5m \div 21m</math></li> <li>・1サイクル当たりの作業時間は、1速の走行速度(前進11.6km/h、後進11.6km/h)の平均5.8km/h(前進)、5.8km/h(後進)で作業を実施すると仮定して                      A：押し出し(①→②→③)：(21m+5m) ÷ 5.8km/h = 16.1秒 ÷ 17秒                      B：ギア切替え：3秒                      C：後進(③→②)：5m ÷ 5.8km/h = 3.1秒 ÷ 4秒                      D：ギア切替え：3秒                      1サイクル当たりの作業時間(A+B+C+D) = 17秒 + 3秒 + 4秒 + 3秒 = 27秒</li> </ul>  <p>&lt;除雪速度&gt;</p> <p>1サイクル当たりの除雪延長 ÷ 1サイクル当たりの除雪時間  <math>= 21m \div 27秒 = 2.80km/h \div 2.8km/h</math></p>	<p>相違理由</p> <p>【女川及び島根】 記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】 記載内容の相違 ・復旧用重機の相違</p> <p>【女川】記載箇所の相違 ・泊は除灰速度の算出について、本項目内「4. 除灰速度の算出」に記載</p> <p>【島根】記載内容の相違 ・除雪条件の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

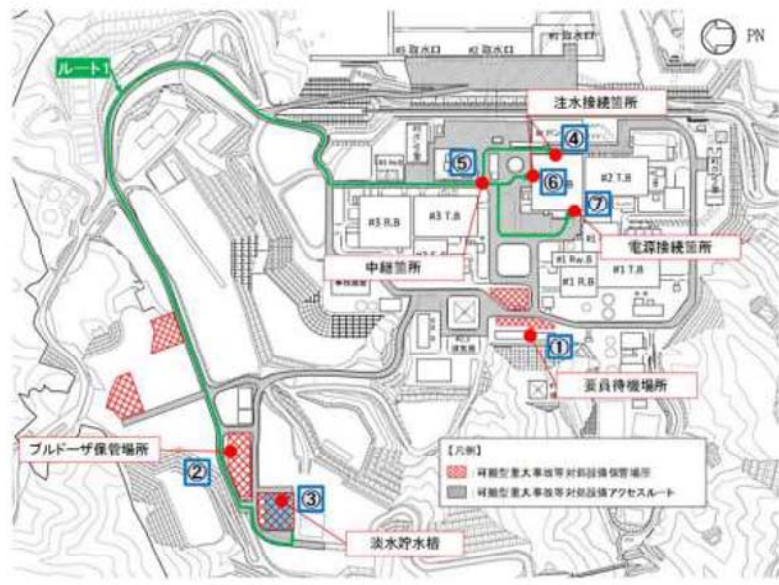
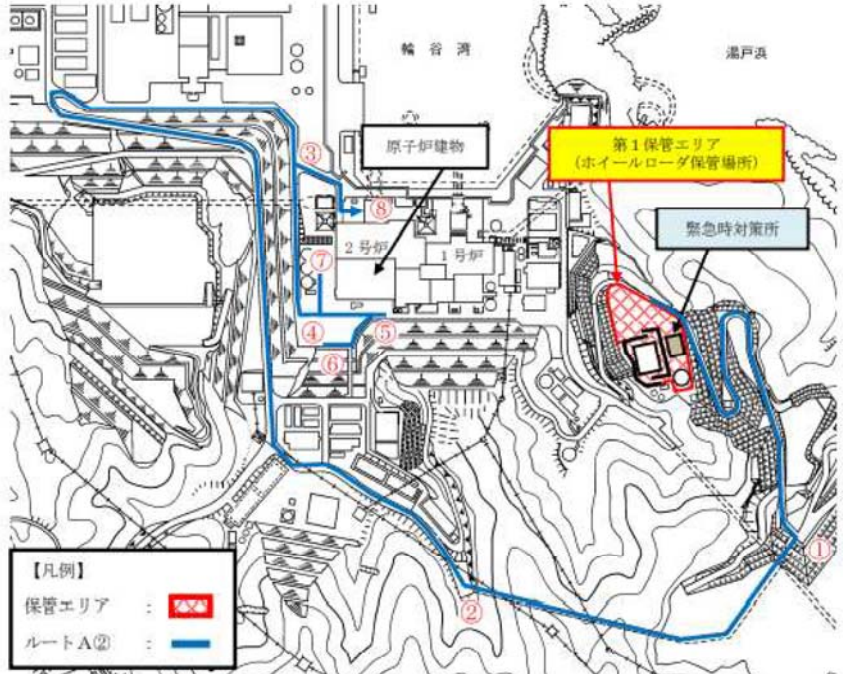
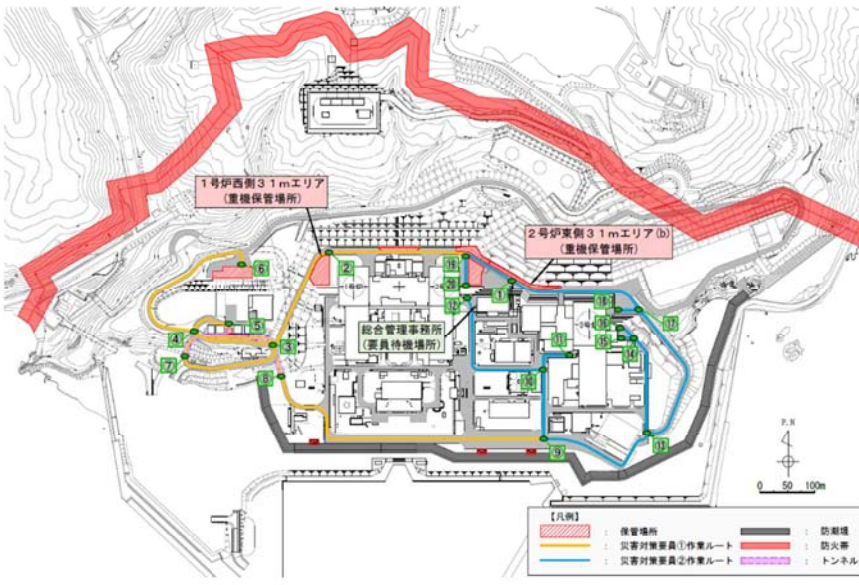
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3. 降雪除去速度の算出</p> <p>&lt;降雪条件&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○厚さ：43cm（石巻 既往最大積雪量）</li> <li>○単位体積重量：0.35t/m<sup>3</sup>（道路橋示方書・同解説）</li> </ul> <p>&lt;除去方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセスルートに降り積もった雪をブルドーザで道路脇へ押し出し除去する。</li> <li>・一回の押し出し可能量を9.12tとし、9.12tの雪を集積し、道路脇へ押し出す作業を1サイクルとして繰り返す。</li> <li>・一回の集積で進める距離X  <math>= 9.12t \div (\text{積雪厚さ } 0.43m \times \text{幅 } 3.715m \times 0.35t/m^3)</math>  <math>= 16.3m \approx 16m</math></li> <li>・1サイクル当たりの作業時間は、1速の走行速度（前進3.3km/h、後進4.4km/h）で作業すると仮定して                      A：押し出し（①→②→③）：<math>(16m+6m) \div 3.3km/h = 0.40</math>分                      B：ギア切り替え：0.10分                      C：後進（③→②）：<math>6m \div 4.4km/h = 0.09</math>分                      1サイクル当たりの作業時間(A+B+C) = 0.40分 + 0.10分 + 0.09分 = 0.59分</li> </ul> <p>&lt;降雪除去速度&gt;</p> <p>1サイクル当たりの除去延長 ÷ 1サイクル当たりの除去時間  <math>= 16m \div 0.59分 = 27.11m/分 = 1.62km/h = 1.6km/h</math></p>			<p>【女川】記載箇所の相違                      ・泊は降雪速度の算出について、本項目内「2. 降雪速度の算出」に記載</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																					
<p>4. 降灰除去・降雪除去の時間評価</p> <p>(1) 降灰除去時間評価（地震時のアクセスルートで時間評価）</p> <p>【ルート1】</p>  <table border="1" data-bbox="133 1039 875 1449"> <thead> <tr> <th>区間</th> <th>距離(約m)</th> <th>時間評価項目</th> <th>所要時間(分)</th> <th>累積(分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>-</td><td>-</td><td>状況確認・準備</td><td>15</td><td>15</td></tr> <tr><td>-</td><td>-</td><td>ルート確認・判断</td><td>40</td><td>55</td></tr> <tr><td>①→②</td><td>-</td><td>徒歩移動</td><td>15</td><td>70</td></tr> <tr><td>②→③</td><td>230</td><td>降灰除去</td><td>12</td><td>82</td></tr> <tr><td>③→②</td><td>230</td><td>重機移動</td><td>2</td><td>84</td></tr> <tr><td>②→④</td><td>1380</td><td>降灰除去</td><td>69</td><td>153</td></tr> <tr><td>④→⑤</td><td>160</td><td>重機移動</td><td>1</td><td>154</td></tr> <tr><td>⑤→⑥</td><td>80</td><td>降灰除去</td><td>4</td><td>158</td></tr> <tr><td>⑥→⑤</td><td>80</td><td>重機移動</td><td>1</td><td>159</td></tr> <tr><td>⑤→⑦</td><td>240</td><td>降灰除去</td><td>12</td><td>171</td></tr> </tbody> </table>	区間	距離(約m)	時間評価項目	所要時間(分)	累積(分)	-	-	状況確認・準備	15	15	-	-	ルート確認・判断	40	55	①→②	-	徒歩移動	15	70	②→③	230	降灰除去	12	82	③→②	230	重機移動	2	84	②→④	1380	降灰除去	69	153	④→⑤	160	重機移動	1	154	⑤→⑥	80	降灰除去	4	158	⑥→⑤	80	重機移動	1	159	⑤→⑦	240	降灰除去	12	171	<p>3. まとめ</p> <p>降雪の除雪速度について、2.9km/hとする。緊急時対策所及び保管場所から可搬型設備が通行する水源（輪谷貯水槽（西1/西2）、非常用取水設備）、接続先、送水先までのルートの除雪に要する時間評価を第1図～第3図及び第1表～第3表に示す。</p> <p>(1) 第1保管エリアからのルート</p>  <p>※：図に記載のある除雪ルートは、仮復旧時間が最も長いルートを記載している。</p> <p>第1図 第1保管エリアからの除雪ルート（ルートA②）</p> <p>第1表 第1保管エリアからの仮復旧時間（ルートA②）</p> <table border="1" data-bbox="949 1344 1736 1764"> <thead> <tr> <th>区間</th> <th>距離(約m)</th> <th>時間評価項目</th> <th>速度(km/h)</th> <th>所要時間(分)</th> <th>累積(分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>緊急時対策所→①</td><td>750</td><td>除雪</td><td>2.9</td><td>16</td><td>16</td></tr> <tr><td>①→②</td><td>600</td><td>移動</td><td>10</td><td>4</td><td>20</td></tr> <tr><td>②→③</td><td>1610</td><td>除雪</td><td>2.9</td><td>34</td><td>54</td></tr> <tr><td>③→④</td><td>240</td><td>除雪</td><td>2.9</td><td>5</td><td>59</td></tr> <tr><td>④→⑤</td><td>130</td><td>除雪</td><td>2.9</td><td>3</td><td>62</td></tr> <tr><td>⑤→⑥</td><td>120</td><td>除雪</td><td>2.9</td><td>3</td><td>65</td></tr> <tr><td>⑥→⑤</td><td>120</td><td>移動</td><td>10</td><td>1</td><td>66</td></tr> <tr><td>⑤→④</td><td>130</td><td>移動</td><td>10</td><td>1</td><td>67</td></tr> <tr><td>④→⑦</td><td>110</td><td>除雪</td><td>2.9</td><td>3</td><td>70</td></tr> <tr><td>⑦→④</td><td>110</td><td>移動</td><td>10</td><td>1</td><td>71</td></tr> <tr><td>④→③</td><td>240</td><td>移動</td><td>10</td><td>2</td><td>73</td></tr> <tr><td>③→⑧</td><td>150</td><td>除雪</td><td>2.9</td><td>4</td><td>77</td></tr> </tbody> </table>	区間	距離(約m)	時間評価項目	速度(km/h)	所要時間(分)	累積(分)	緊急時対策所→①	750	除雪	2.9	16	16	①→②	600	移動	10	4	20	②→③	1610	除雪	2.9	34	54	③→④	240	除雪	2.9	5	59	④→⑤	130	除雪	2.9	3	62	⑤→⑥	120	除雪	2.9	3	65	⑥→⑤	120	移動	10	1	66	⑤→④	130	移動	10	1	67	④→⑦	110	除雪	2.9	3	70	⑦→④	110	移動	10	1	71	④→③	240	移動	10	2	73	③→⑧	150	除雪	2.9	4	77	<p>3. 除雪時間評価</p> <p>降雪の除雪速度について、2.8km/hとする。除雪箇所は、可搬型設備が通行するアクセスルート全域とし、災害対策要員2名が別々のルートを並行して除雪する。除雪に要する時間評価を第1図、第1表及び第2表に示す。</p>  <p>第1図 除雪ルート</p> <p>第1表 災害対策要員①による除雪時間評価</p> <p>追而【走行速度検証結果の反映】          (ホイールローダの走行速度の検証について、実施結果を受けて反映のため)</p> <p>第2表 災害対策要員②による除雪時間評価</p> <p>追而【走行速度検証結果の反映】          (ホイールローダの走行速度の検証について、実施結果を受けて反映のため)</p>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>【島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・除雪速度の相違</li> <li>【女川】記載箇所の相違</li> <li>・泊は本項目内「5. 除灰時間評価」に記載</li> <li>【女川及び島根】対応方針の相違</li> <li>・泊は、可搬型設備が通行するアクセスルート全域の除雪時間を評価</li> <li>・泊は、要員2名（重機2台）での復旧時間を評価</li> </ul> <p>【島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価条件の相違に伴う評価結果の相違</li> </ul>
区間	距離(約m)	時間評価項目	所要時間(分)	累積(分)																																																																																																																																				
-	-	状況確認・準備	15	15																																																																																																																																				
-	-	ルート確認・判断	40	55																																																																																																																																				
①→②	-	徒歩移動	15	70																																																																																																																																				
②→③	230	降灰除去	12	82																																																																																																																																				
③→②	230	重機移動	2	84																																																																																																																																				
②→④	1380	降灰除去	69	153																																																																																																																																				
④→⑤	160	重機移動	1	154																																																																																																																																				
⑤→⑥	80	降灰除去	4	158																																																																																																																																				
⑥→⑤	80	重機移動	1	159																																																																																																																																				
⑤→⑦	240	降灰除去	12	171																																																																																																																																				
区間	距離(約m)	時間評価項目	速度(km/h)	所要時間(分)	累積(分)																																																																																																																																			
緊急時対策所→①	750	除雪	2.9	16	16																																																																																																																																			
①→②	600	移動	10	4	20																																																																																																																																			
②→③	1610	除雪	2.9	34	54																																																																																																																																			
③→④	240	除雪	2.9	5	59																																																																																																																																			
④→⑤	130	除雪	2.9	3	62																																																																																																																																			
⑤→⑥	120	除雪	2.9	3	65																																																																																																																																			
⑥→⑤	120	移動	10	1	66																																																																																																																																			
⑤→④	130	移動	10	1	67																																																																																																																																			
④→⑦	110	除雪	2.9	3	70																																																																																																																																			
⑦→④	110	移動	10	1	71																																																																																																																																			
④→③	240	移動	10	2	73																																																																																																																																			
③→⑧	150	除雪	2.9	4	77																																																																																																																																			

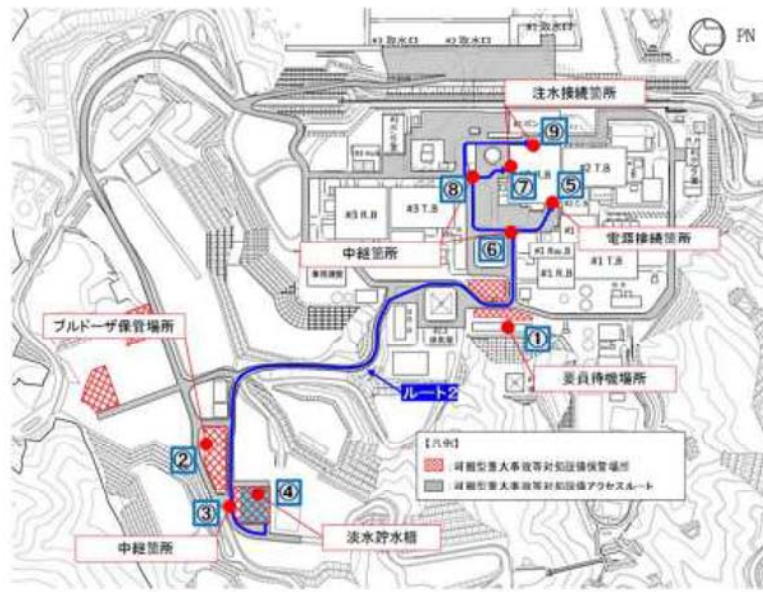


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

【ルート2】



区間	距離(約m)	時間評価項目	所要時間(分)	累積(分)
-	-	状況確認・準備	15	15
-	-	ルート確認・判断	40	55
①→②	-	徒歩移動	15	70
②→④	230	降灰除去	12	82
④→③	120	重機移動	1	83
③→⑤	870	降灰除去	44	127
⑤→⑥	90	重機移動	1	128
⑥→⑦	210	降灰除去	11	139
⑦→⑧	60	重機移動	1	140
⑧→⑩	160	降灰除去	8	148

島根原子力発電所2号炉

(2) 第4保管エリアからのルート



※：図に記載のある除雪ルートは、仮復旧時間が最も長いルートを記載している。

第2図 第4保管エリアからの除雪ルート（ルートB②）

第2表 第4保管エリアからの仮復旧時間（ルートB②）

区間	距離(約m)	時間評価項目	速度(km/h)	所要時間(分)	累積(分)
緊急時対策所 → 第4保管エリア	2,710	要員移動	4.0	41	41
第4保管エリア →①	250	除雪	2.9	6	47
①→②	240	除雪	2.9	5	52
②→③	110	除雪	2.9	3	55
③→②	110	移動	10	1	56
②→④	130	除雪	2.9	3	59
④→⑤	120	除雪	2.9	3	62
⑤→④	120	移動	10	1	63
④→②	130	移動	10	1	64
②→①	240	移動	10	2	66
①→⑥	150	除雪	2.9	4	70

泊発電所3号炉

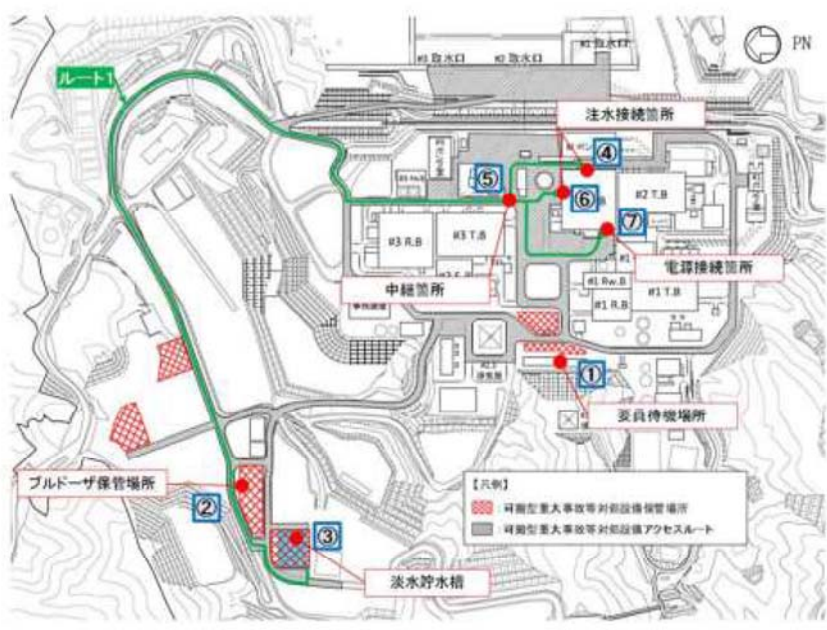
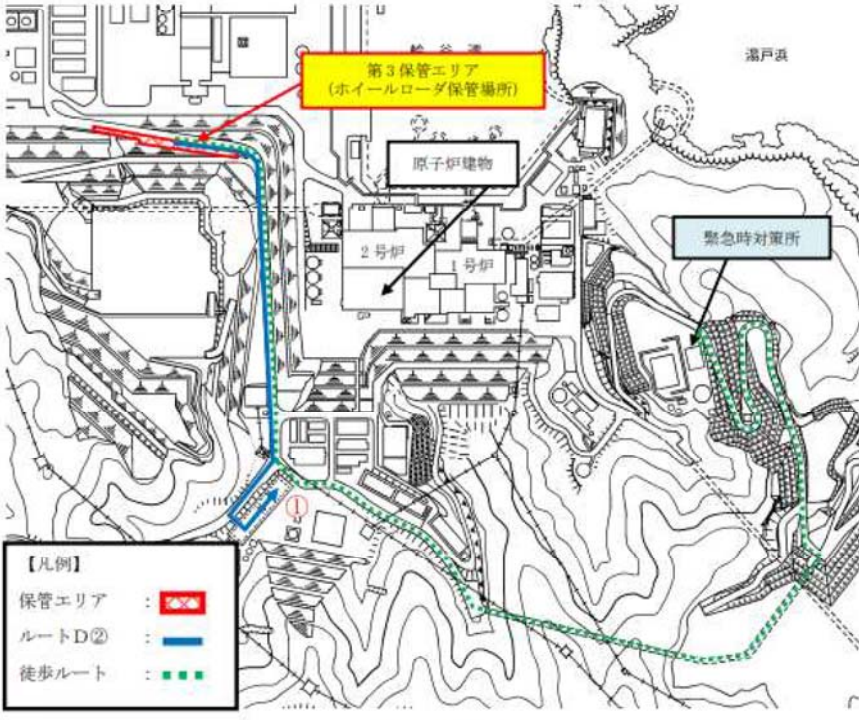
相違理由

【女川】記載箇所の相違  
 ・泊は本項目内「5. 除灰  
 時間評価」に記載  
 【島根】記載内容の相違  
 ・評価条件の相違に伴う  
 評価結果の相違



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																														
<p>(2) 降雪除去時間評価（地震時のアクセスルートで時間評価） 【ルート1】</p>  <table border="1" data-bbox="118 882 905 1365"> <thead> <tr> <th>区間</th> <th>距離（約m）</th> <th>時間評価項目</th> <th>所要時間（分）</th> <th>累積（分）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>状況確認・準備</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>ルート確認・判断</td> <td>40</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>①→②</td> <td>-</td> <td>徒歩移動</td> <td>15</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>暖機運転</td> <td>5</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>②→③</td> <td>230</td> <td>降雪除去</td> <td>9</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>③→②</td> <td>230</td> <td>重機移動</td> <td>2</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>②→④</td> <td>1380</td> <td>降雪除去</td> <td>52</td> <td>138</td> </tr> <tr> <td>④→⑤</td> <td>160</td> <td>重機移動</td> <td>1</td> <td>139</td> </tr> <tr> <td>⑤→⑥</td> <td>80</td> <td>降雪除去</td> <td>3</td> <td>142</td> </tr> <tr> <td>⑥→⑤</td> <td>80</td> <td>重機移動</td> <td>1</td> <td>143</td> </tr> <tr> <td>⑤→⑦</td> <td>240</td> <td>降雪除去</td> <td>9</td> <td>152</td> </tr> </tbody> </table>	区間	距離（約m）	時間評価項目	所要時間（分）	累積（分）	-	-	状況確認・準備	15	15	-	-	ルート確認・判断	40	55	①→②	-	徒歩移動	15	70	-	-	暖機運転	5	75	②→③	230	降雪除去	9	84	③→②	230	重機移動	2	86	②→④	1380	降雪除去	52	138	④→⑤	160	重機移動	1	139	⑤→⑥	80	降雪除去	3	142	⑥→⑤	80	重機移動	1	143	⑤→⑦	240	降雪除去	9	152	<p>(3) 第3保管エリアからのルート</p>  <p>※：図に記載のある除雪ルートは、仮復旧時間が最も長いルートを記載している。</p> <p>第3図 第3保管エリアからの除雪ルート（ルートD②）</p> <p>第3表 第3保管エリアからの仮復旧時間（ルートD②）</p> <table border="1" data-bbox="949 1092 1751 1260"> <thead> <tr> <th>区間</th> <th>距離（約m）</th> <th>時間評価項目</th> <th>速度（km/h）</th> <th>所要時間（分）</th> <th>累積（分）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緊急時対策所→第3保管エリア</td> <td>2,310</td> <td>要員移動</td> <td>4.0</td> <td>35</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>第3保管エリア→①</td> <td>820</td> <td>除雪</td> <td>2.9</td> <td>17</td> <td>52</td> </tr> </tbody> </table>	区間	距離（約m）	時間評価項目	速度（km/h）	所要時間（分）	累積（分）	緊急時対策所→第3保管エリア	2,310	要員移動	4.0	35	35	第3保管エリア→①	820	除雪	2.9	17	52		<p>【女川及び島根】 記載内容の相違 ・評価条件の相違に伴う 評価結果の相違</p>
区間	距離（約m）	時間評価項目	所要時間（分）	累積（分）																																																																													
-	-	状況確認・準備	15	15																																																																													
-	-	ルート確認・判断	40	55																																																																													
①→②	-	徒歩移動	15	70																																																																													
-	-	暖機運転	5	75																																																																													
②→③	230	降雪除去	9	84																																																																													
③→②	230	重機移動	2	86																																																																													
②→④	1380	降雪除去	52	138																																																																													
④→⑤	160	重機移動	1	139																																																																													
⑤→⑥	80	降雪除去	3	142																																																																													
⑥→⑤	80	重機移動	1	143																																																																													
⑤→⑦	240	降雪除去	9	152																																																																													
区間	距離（約m）	時間評価項目	速度（km/h）	所要時間（分）	累積（分）																																																																												
緊急時対策所→第3保管エリア	2,310	要員移動	4.0	35	35																																																																												
第3保管エリア→①	820	除雪	2.9	17	52																																																																												

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

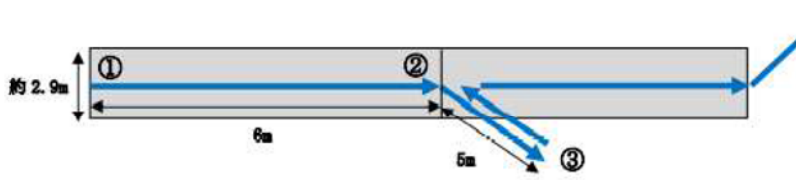
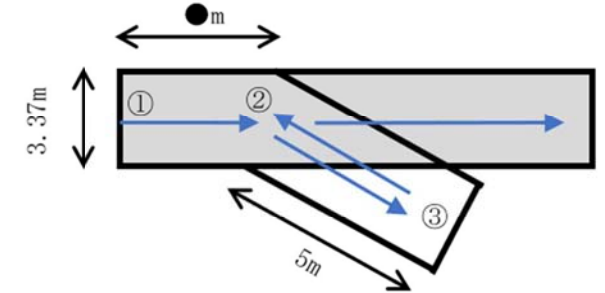
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																												
<p>【ルート2】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区間</th> <th>距離(約m)</th> <th>時間評価項目</th> <th>所要時間(分)</th> <th>累積(分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>状況確認・準備</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>ルート確認・判断</td> <td>40</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>①→②</td> <td>—</td> <td>徒歩移動</td> <td>15</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>暖機運転</td> <td>5</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>②→④</td> <td>230</td> <td>降雪除去</td> <td>9</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>④→③</td> <td>120</td> <td>重機移動</td> <td>1</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>③→⑤</td> <td>870</td> <td>降雪除去</td> <td>33</td> <td>118</td> </tr> <tr> <td>⑤→⑥</td> <td>90</td> <td>重機移動</td> <td>1</td> <td>119</td> </tr> <tr> <td>⑥→⑦</td> <td>210</td> <td>降雪除去</td> <td>8</td> <td>127</td> </tr> <tr> <td>⑦→⑧</td> <td>60</td> <td>重機移動</td> <td>1</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td>⑧→⑨</td> <td>160</td> <td>降雪除去</td> <td>6</td> <td>134</td> </tr> </tbody> </table>	区間	距離(約m)	時間評価項目	所要時間(分)	累積(分)	—	—	状況確認・準備	15	15	—	—	ルート確認・判断	40	55	①→②	—	徒歩移動	15	70	—	—	暖機運転	5	75	②→④	230	降雪除去	9	84	④→③	120	重機移動	1	85	③→⑤	870	降雪除去	33	118	⑤→⑥	90	重機移動	1	119	⑥→⑦	210	降雪除去	8	127	⑦→⑧	60	重機移動	1	128	⑧→⑨	160	降雪除去	6	134			<p>【女川】記載内容の相違                      ・評価条件の相違に伴う                      評価結果の相違</p>
区間	距離(約m)	時間評価項目	所要時間(分)	累積(分)																																																											
—	—	状況確認・準備	15	15																																																											
—	—	ルート確認・判断	40	55																																																											
①→②	—	徒歩移動	15	70																																																											
—	—	暖機運転	5	75																																																											
②→④	230	降雪除去	9	84																																																											
④→③	120	重機移動	1	85																																																											
③→⑤	870	降雪除去	33	118																																																											
⑤→⑥	90	重機移動	1	119																																																											
⑥→⑦	210	降雪除去	8	127																																																											
⑦→⑧	60	重機移動	1	128																																																											
⑧→⑨	160	降雪除去	6	134																																																											



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">別紙 (24)</p> <p style="text-align: center;">屋外のアクセスルート 除灰時間評価</p> <p>1. ホイールローダ仕様                  ○最大けん引力：16 t                  ○バケット全幅：292cm                  ○走行速度（1速）：前進 0～6.6km/h，後進 0～7.1km/h</p> <p>2. 除灰速度の算出                  &lt;降灰条件&gt;                  ○厚さ：56cm（設計基準）                  ○単位体積重量：1.5t/m<sup>3</sup>（宇井忠秀編「火山噴火と災害」東京大学出版）</p> <p>&lt;除灰方法&gt;                  ・アクセスルート上に降り積もった火山灰を，ホイールローダで道路脇へ5m押し出し除去する。                  ・1回の押し出し可能量を16tとし，16tの火山灰を集積し，道路脇へ押し出す作業を1サイクルとして繰り返す。                  ・1回の集積で進める距離 <math>X = 16t \div (\text{火山灰厚さ } 0.56m \times \text{幅 } 2.9m \times 1.5t/m^3) = 6.56m \div 6m</math>                  ・1サイクル当りの作業時間は，1速の走行速度（前進 0～6.6，後進 0～7.1km/h）の平均 3.3km/h（前進），3.5km/h（後進）で作業を実施すると仮定して                  A：押し出し（①→②→③）：<math>(6m + 5m) \div 3.3km/h = 12</math> 秒                  B：ギア切替え：3 秒                  C：後進（③→②）：<math>5m \div 3.5km/h = 5.1</math> 秒 <math>\div 6</math> 秒                  D：ギア切替え：3 秒                  1サイクル当りの作業時間（A+B+C+D）                  = 12 秒 + 3 秒 + 6 秒 + 3 秒 = 24 秒</p>  <p>&lt;除灰速度&gt;                  1サイクル当りの除灰延長 <math>\div</math> 1サイクル当りの除灰時間                  = <math>6m \div 24</math> 秒 = 0.9km/h</p>	<p>4. 除灰速度の算出                  &lt;降灰条件&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">追而【地震津波側審査の反映】                      （火山灰の層厚，密度，降灰除去時間について，地震津波側審査結果を受けて反映のため）</p> </div> <p>&lt;除灰方法&gt;                  ・アクセスルート上に降り積もった火山灰を，ホイールローダで道路脇へ5m押し出し除去する。                  ・1回の押し出し可能重量を4.5tとし，4.5tの火山灰を集積し，道路脇へ押し出す作業を1サイクルとして繰り返す。                  ・1回の集積で進める距離 <math>X = 4.5t \div (\text{火山灰厚さ } \bullet m \times \text{幅 } 3.37m \times \bullet t/m^3) = \bullet m \div \bullet m</math>                  ・1サイクル当りの作業時間は，1速の走行速度（前進 11.6 km/h，後進 11.6km/h）の平均 5.8km/h（前進），5.8km/h（後進）で作業を実施すると仮定して                  A：押し出し（①→②→③）：<math>(\bullet m + 5m) \div 5.8km/h = \bullet</math> 秒 <math>\div \bullet</math> 秒                  B：ギア切替え：3 秒                  C：後進（③→②）：<math>5m \div 5.8km/h = 3.1</math> 秒 <math>\div 4</math> 秒                  D：ギア切替え：3 秒                  1サイクル当りの作業時間（A+B+C+D）                  = <math>\bullet</math> 秒 + 3 秒 + 4 秒 + 3 秒 = <math>\bullet</math> 秒</p>  <p>&lt;除灰速度&gt;                  1サイクル当りの除灰延長 <math>\div</math> 1サイクル当りの除灰時間                  = <math>\bullet m \div \bullet</math> 秒 = <math>\bullet</math> km/h <math>\div \bullet</math> m/h</p>	<p>【女川】記載箇所の相違                  ・女川は本項目内1.及び2.に記載</p> <p>【島根】記載箇所の相違                  ・泊は本項目内1.に記載</p> <p>【島根】記載内容の相違                  ・除灰条件の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>3. まとめ</p> <p>火山灰の除灰速度について、0.9km/hとする。緊急時対策所及び保管場所から可搬型設備が通行する水源（輪谷貯水槽（西1/西2）、非常用取水設備）、接続先、送水先までのルートの除灰に要する時間評価を第1図～第3図及び第1表～第3表に示す。</p>	<p>5. 除灰速度の評価</p> <p>火山灰の除灰速度について、● m/hとする。除灰箇所は、アクセスルート（車両）全体とし、災害対策要員2名が別々のルートを並行して除灰する。除灰に要する時間評価を第2図、第3表及び第4表に示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>追而【地震津波側審査の反映】                      （火山灰の層厚，密度，降灰除去時間について，地震津波側審査結果を受けて反映のため）</p> </div>	<p>【島根】記載表現の相違                      【島根】記載内容の相違                      ・除雪速度の相違                      【女川】記載箇所の相違                      ・女川は本項目内「4. 降灰除去・降雪除去の時間評価」に記載                      【女川及び島根】対応方針の相違                      ・泊は、可搬型設備が通行するアクセスルート全域の除雪時間を評価                      ・泊は、要員2名（重機2台）での復旧時間を評価</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

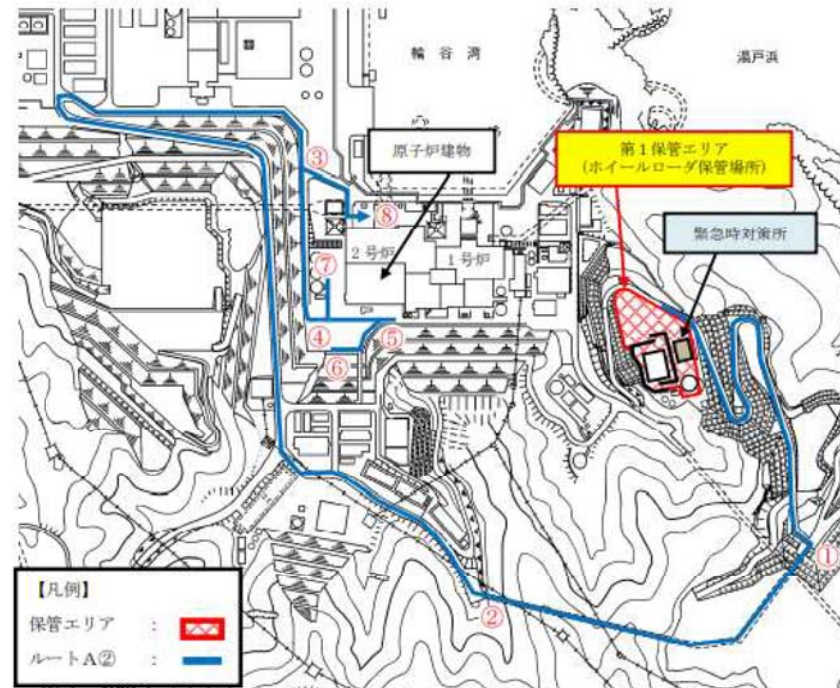
女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

(1) 第1保管エリアからのルート

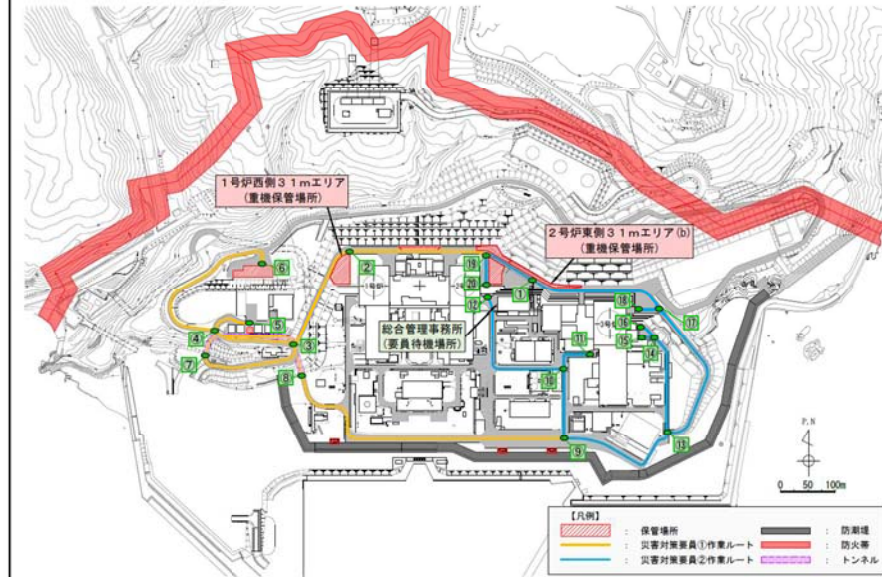


※：図に記載のある除灰ルートは、仮復旧時間が最も長いルートに記載している。

第1図 第1保管エリアからの除灰ルート（ルートA②）

第1表 第1保管エリアからの仮復旧時間（ルートA②）

区間	距離 (約 m)	時間評価項目	速度 (km/h)	所要時間 (分)	累積 (分)
緊急時対策所 →①	750	除灰	0.9	50	50
①→②	600	移動	10	4	54
②→③	1610	除灰	0.9	108	162
③→④	240	除灰	0.9	16	178
④→⑤	130	除灰	0.9	9	187
⑤→⑥	120	除灰	0.9	8	195
⑥→⑤	120	移動	10	1	196
⑤→④	130	移動	10	1	197
④→⑦	110	除灰	0.9	8	205
⑦→④	110	移動	10	1	206
④→③	240	移動	10	2	208
③→⑧	150	除灰	0.9	10	218



第2図 除灰ルート

第3表 災害対策要員①による除灰時間評価

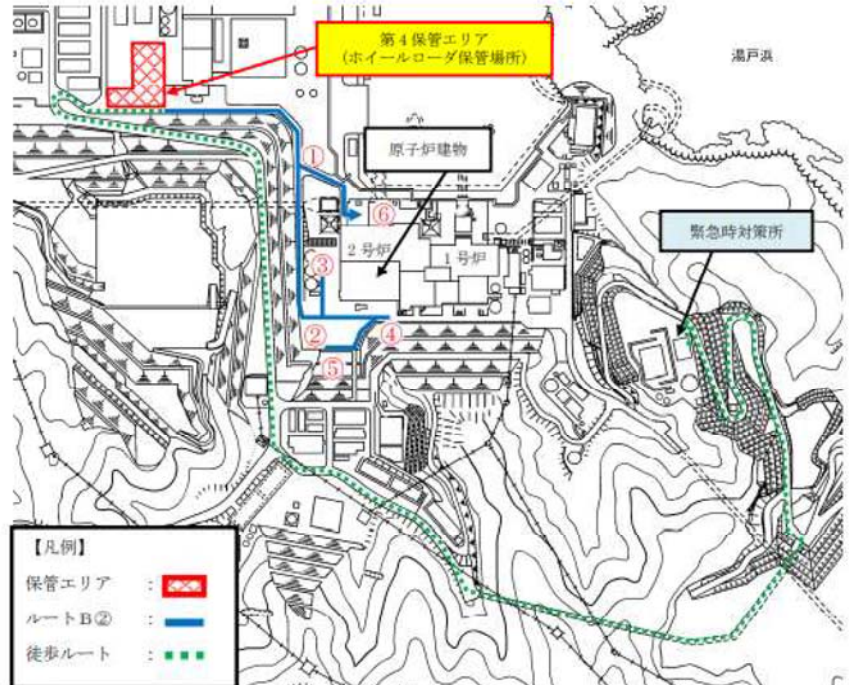
追而【地震津波側審査の反映】  
 (火山灰の層厚, 密度, 降灰除去時間について, 地震津波側審査結果を受けて反映のため)

第4表 災害対策要員②による除灰時間評価

追而【地震津波側審査の反映】  
 (火山灰の層厚, 密度, 降灰除去時間について, 地震津波側審査結果を受けて反映のため)

【島根】記載内容の相違  
 ・評価条件の相違に伴う  
 評価結果の相違

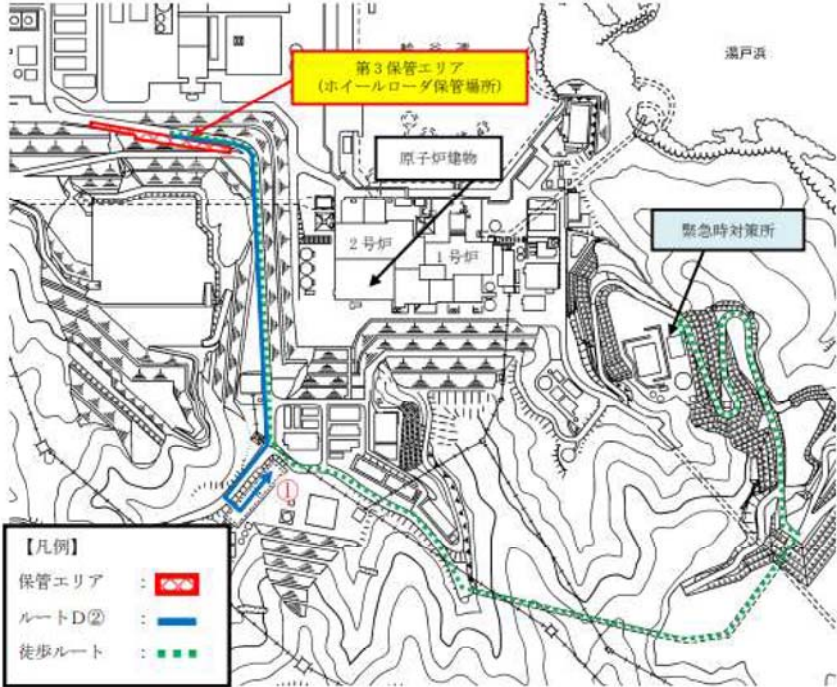
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																								
	<p>(2) 第4保管エリアからのルート</p>  <p>※：図に記載のある除灰ルートは、仮復旧時間が最も長いルートを記載している。</p> <p>第2図 第4保管エリアからの除灰ルート（ルートB②）</p> <p>第2表 第4保管エリアからの仮復旧時間（ルートB②）</p> <table border="1" data-bbox="952 1123 1745 1579"> <thead> <tr> <th>区間</th> <th>距離（約 m）</th> <th>時間評価項目</th> <th>速度（km/h）</th> <th>所要時間（分）</th> <th>累積（分）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緊急時対策所 → 第4保管エリア</td> <td>2,710</td> <td>要員移動</td> <td>4.0</td> <td>41</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>第4保管エリア→ ①</td> <td>250</td> <td>除灰</td> <td>0.9</td> <td>17</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>①→②</td> <td>240</td> <td>除灰</td> <td>0.9</td> <td>16</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td>②→③</td> <td>110</td> <td>除灰</td> <td>0.9</td> <td>8</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>③→②</td> <td>110</td> <td>移動</td> <td>10</td> <td>1</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>②→④</td> <td>130</td> <td>除灰</td> <td>0.9</td> <td>9</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>④→⑤</td> <td>120</td> <td>除灰</td> <td>0.9</td> <td>8</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>⑤→④</td> <td>120</td> <td>移動</td> <td>10</td> <td>1</td> <td>101</td> </tr> <tr> <td>④→②</td> <td>130</td> <td>移動</td> <td>10</td> <td>1</td> <td>102</td> </tr> <tr> <td>②→①</td> <td>240</td> <td>移動</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>①→⑥</td> <td>150</td> <td>除灰</td> <td>0.9</td> <td>10</td> <td>114</td> </tr> </tbody> </table>	区間	距離（約 m）	時間評価項目	速度（km/h）	所要時間（分）	累積（分）	緊急時対策所 → 第4保管エリア	2,710	要員移動	4.0	41	41	第4保管エリア→ ①	250	除灰	0.9	17	58	①→②	240	除灰	0.9	16	74	②→③	110	除灰	0.9	8	82	③→②	110	移動	10	1	83	②→④	130	除灰	0.9	9	92	④→⑤	120	除灰	0.9	8	100	⑤→④	120	移動	10	1	101	④→②	130	移動	10	1	102	②→①	240	移動	10	2	104	①→⑥	150	除灰	0.9	10	114		<p>【島根】記載内容の相違                  ・評価条件の相違に伴う                  評価結果の相違</p>
区間	距離（約 m）	時間評価項目	速度（km/h）	所要時間（分）	累積（分）																																																																						
緊急時対策所 → 第4保管エリア	2,710	要員移動	4.0	41	41																																																																						
第4保管エリア→ ①	250	除灰	0.9	17	58																																																																						
①→②	240	除灰	0.9	16	74																																																																						
②→③	110	除灰	0.9	8	82																																																																						
③→②	110	移動	10	1	83																																																																						
②→④	130	除灰	0.9	9	92																																																																						
④→⑤	120	除灰	0.9	8	100																																																																						
⑤→④	120	移動	10	1	101																																																																						
④→②	130	移動	10	1	102																																																																						
②→①	240	移動	10	2	104																																																																						
①→⑥	150	除灰	0.9	10	114																																																																						



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																		
	<p>(3) 第3保管エリアからのルート</p>  <p>※：図に記載のある除灰ルートは、仮復旧時間が最も長いルートを記載している。</p> <p>第3図 第3保管エリアからの除灰ルート（ルートD②）</p> <p>第3表 第3保管エリアからの仮復旧時間（ルートD②）</p> <table border="1" data-bbox="955 1102 1748 1297"> <thead> <tr> <th>区間</th> <th>距離（約m）</th> <th>時間評価項目</th> <th>速度（km/h）</th> <th>所要時間（分）</th> <th>累積（分）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緊急時対策所 → 第3保管エリア</td> <td>2,310</td> <td>要員移動</td> <td>4.0</td> <td>35</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>第3保管エリア → ①</td> <td>820</td> <td>除灰</td> <td>0.9</td> <td>55</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table>	区間	距離（約m）	時間評価項目	速度（km/h）	所要時間（分）	累積（分）	緊急時対策所 → 第3保管エリア	2,310	要員移動	4.0	35	35	第3保管エリア → ①	820	除灰	0.9	55	90		<p>【島根】記載内容の相違                  ・評価条件の相違に伴う                  評価結果の相違</p>
区間	距離（約m）	時間評価項目	速度（km/h）	所要時間（分）	累積（分）																
緊急時対策所 → 第3保管エリア	2,310	要員移動	4.0	35	35																
第3保管エリア → ①	820	除灰	0.9	55	90																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

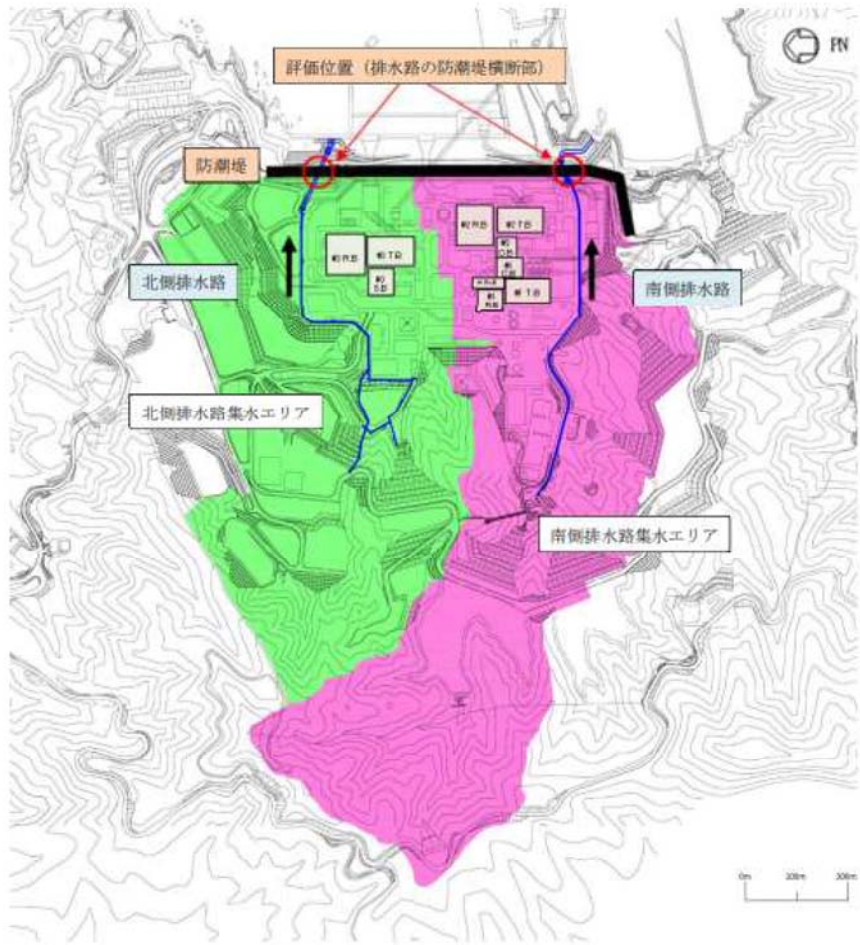
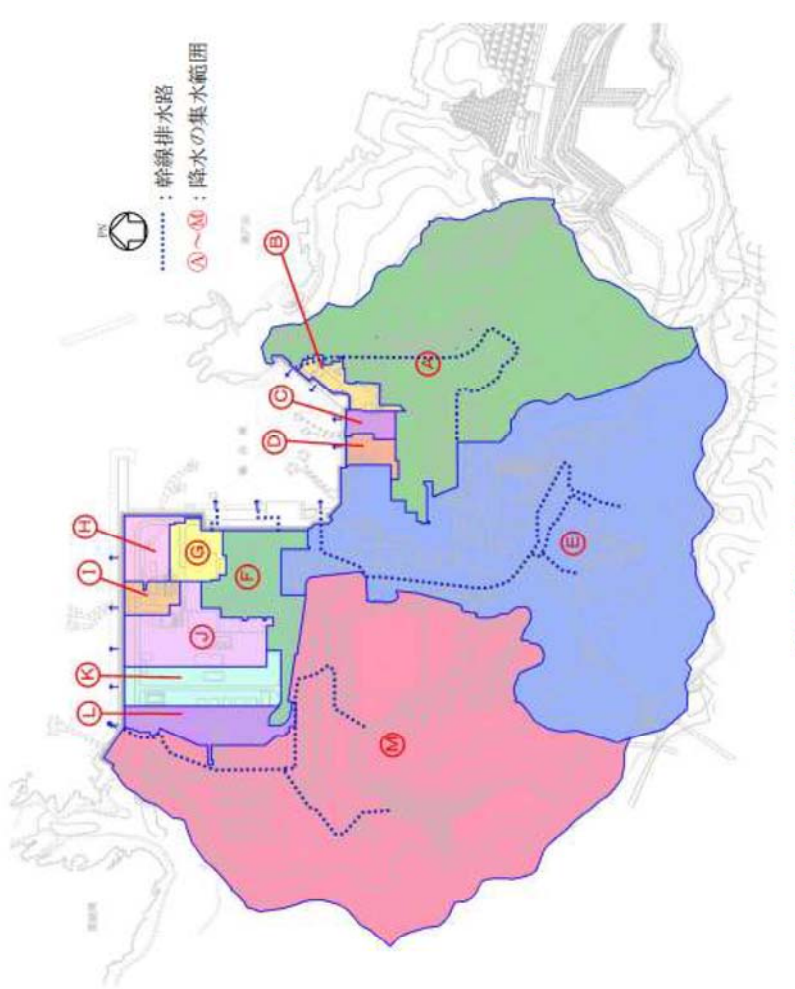
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙(6)</p> <p style="text-align: center;">降水に対する影響評価について</p> <p>1. はじめに 女川原子力発電所2号炉において、降雨が継続した場合の屋外アクセスルートへの影響について評価を実施する。</p> <p>2. 評価概要</p> <p>(1) 降雨強度 本評価については、石巻特別地域気象観測所（観測期間 1937 年～2017 年）において平成 26 年 9 月 11 日に観測された日最大 1 時間降水量の既往最大値である 91.0mm/h の降雨が発生した際、女川原子力発電所における雨水の流入量と排水能力を比較し、降雨の影響を評価する。</p> <p>(2) 雨水流入量 女川原子力発電所周辺の雨水は、第 1 図のように敷地内に配置された北側及び南側の各排水路に集水され、海域に排水される。</p> <p>評価に当たっては、防潮堤横断部における各排水路の集水面積を算定した上で、91.0mm/h 降雨時の雨水流入量を算出する。 その際、「森林法に基づく林地開発許可申請の手引き（平成 26 年 2 月宮城県）」に基づき以下の合理式を用い、流出係数については、林地：0.5、その他箇所（裸地）：0.9 とする。</p> <p><math>Q=1/360 \cdot f \cdot r \cdot A</math>                      Q：雨水流入量 (m³/s)                      f：流出係数                      r：降雨強度 (mm/h)                      A：集水面積 (ha)</p>	<p style="text-align: right;">別紙(26)</p> <p style="text-align: center;">降水に対する影響評価結果について</p> <p>1. はじめに 島根原子力発電所において、降雨が継続した場合の屋外アクセスルートへの影響について評価する。</p> <p>2. 評価概要 島根原子力発電所における雨水流出量と排水量を比較し、降雨の影響を評価する。</p> <p>(1) 降雨強度 外部事象の考慮において、松江市の観測記録の極値に基づき設計基準を設定していることから、松江地方気象台の観測記録（1941 年～2018 年）における既往最大時間降雨量（77.9mm/h）を用いて評価する。</p> <p>(2) 雨水流出量 島根原子力発電所の雨水は、集水範囲ごとに設置される排水路を通じて海域に排水する。</p> <p>雨水流出量の評価にあたっては、集水範囲ごとに集水面積を積算した上で、77.9mm/h 降雨時の第 1 図及び第 2 図に示す排水路流末への雨水流出量を算出する。 雨水流出量 Q の算出には、「林地開発許可申請の手引き」（平成 12 年 4 月島根県農林水産部森林整備課）を参照して、以下の合理式を用いる。</p> <p><math>Q=1/360 \times f \times I \times A</math>                      ここで、Q：雨水流出量 (m³/s)                      f：流出係数                      I：降雨強度 (mm/h)                      A：流域面積 (ha)</p> <p>(3) 排水量 排水路流末における排水量 Q' は「林地開発許可申請の手引き」（平成 12 年 4 月島根県農林水産部森林整備課）を参照して、以下の Manning 式に基づき評価する。</p> <p><math>V=1/n \times R^{2/3} \times i^{1/2}</math>  <math>Q'=A \cdot V</math>                      ここで、V：流速 (m/s)                      n：粗度係数                      R：径深 (m) = A/P                      A：通水断面面積 (m²)                      P：潤辺 (m)                      i：水路勾配                      Q'：排水量 (m³/s)</p>	<p style="text-align: right;">別紙(6)</p> <p style="text-align: center;">降水に対する影響評価について</p> <p>1. はじめに 泊発電所において、降雨が継続した場合の屋外アクセスルートへの影響について評価を実施する。</p> <p>2. 評価概要 泊発電所における雨水流出量と排水量を比較し、降雨の影響を評価する。</p> <p>(1) 降雨強度 本評価については、寿都特別地域気象観測所（旧寿都測候所）観測記録（1938～2015 年）において観測された日最大 1 時間降水量である 57.5 mm/h の降雨が発生した際、泊発電所における雨水流出量と発電所構内の排水設備の排水量を比較し、降雨の影響を評価する。</p> <p>(2) 雨水流入量 泊発電所周辺の雨水は、第 1 図のように敷地内に配置された構内排水路および 3 箇所の防潮堤下排水設備に集水され、海域に排水される。</p> <p>評価にあたっては、防潮堤下排水設備の集水面積を算定した上で、設計基準降水量（57.5 mm/h）降水時の雨水流入量を算出する。 雨水流入量は、「森林法に基づく林地開発許可申請の手引き（令和 3 年 4 月北海道）」に基づき、以下の合理式により算出する。流出係数については、草地：0.8、建物・舗装部：1.0 とする。</p> <p><math>Q=1/360 \cdot f \cdot r \cdot A</math>                      Q：雨水流入量 (m³/s)                      f：流出係数                      r：降雨強度 (mm/h)                      A：集水区域面積 (ha)</p>	<p style="text-align: center;">相違理由</p> <p>【女川及び島根】 記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】 設計方針の相違 ・プラント立地箇所の相違による観測記録又は規格・基準値の相違（六条に示す雨水流出量より引用）</p> <p>【女川及び島根】 記載表現の相違 【島根】記載箇所の相違 ・同項目内に記載しており、同等の内容を記載。</p>

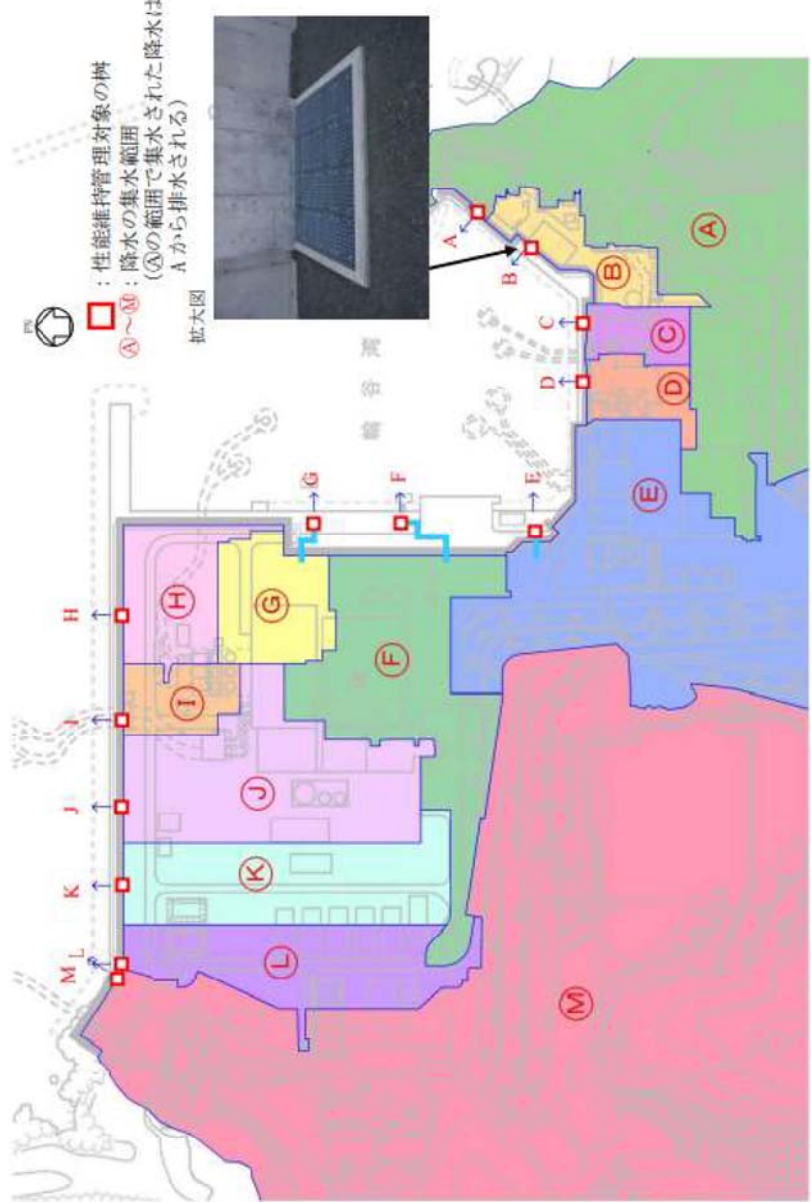


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p data-bbox="341 1218 676 1249">第1図 排水路の配置概要図</p>	 <p data-bbox="1706 609 1751 903">第1図 降水の集水範囲</p>	<div data-bbox="1780 252 2582 1176" style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p data-bbox="1914 651 2433 787">追而【他条文の審査状況の反映】                      (構内排水設備の設計については、                      第6条「外部からの衝撃による損傷の防止」                      の審査状況を踏まえて反映するため)</p> </div> <p data-bbox="1973 1218 2389 1249">第1図 構内排水設備の配置概要図</p>	<p data-bbox="2626 304 2864 451">【女川及び島根】                      設計の相違                      ・プラントの相違による                      図の内容の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>第2図 性能維持管理対象の棟の設置場所</p>		



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																													
<p>(3) 排水可能流量                      各排水路の排水可能流量は、「森林法に基づく林地開発許可申請の手引き」に基づき、以下のマニング式により算定した。                      マニングの粗度係数については、各排水路の仕様に応じて北側排水路は<math>0.023m^{-1/3} \cdot s^{*1}</math>、南側排水路は<math>0.010m^{-1/3} \cdot s^{*2}</math>を使用している。                      ※1 建設省河川砂防技術基準(案)同解説設計編 [I]:(社)日本河川協会, H9.10                      ※2 道路土工要綱:(社)日本道路協会, H21.6</p> $V=1/n \cdot R^{2/3} \cdot I^{1/2}$ $Q=V \cdot A$ <p>Q:排水可能流量 (m<sup>3</sup>/s)                      V:平均流速 (m/s)                      n:マニングの粗度係数 (m<sup>-1/3</sup>・s)                      R:径深=A/S (m)                      A:流水断面積 (m<sup>2</sup>)                      S:潤辺 (m)                      I:排水路の勾配</p> <p>3. 評価結果                      北側及び南側の各排水路における雨水流入量と排水可能流量の比較結果を第1表に示す。                      各排水路ともに防潮堤横断部における排水可能流量は雨水流入量を上回り、豪雨時においても雨水排水が可能であると評価される。</p> <p>第1表 既往最大 91.0mm/h 降水時の雨水流入量と排水可能量との比較</p> <table border="1" data-bbox="112 1276 908 1549"> <thead> <tr> <th>排水路名</th> <th>仕様</th> <th>集水面積<sup>※</sup> [ha]</th> <th>91.0mm/h 降水時の 雨水流入量 [m<sup>3</sup>/s] a</th> <th>排水可能流量<sup>※</sup> [m<sup>3</sup>/s] b</th> <th>雨水流入量に対する 排水可能流量の比 b/a</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北側排水路</td> <td>ボックスカルバート B3500, H2500</td> <td>林地: 11.47 裸地: 35.14</td> <td>9.4</td> <td>51.16</td> <td>5.4 (排水可能)</td> </tr> <tr> <td>南側排水路</td> <td>ダブルプレスト管 Φ1000×3</td> <td>林地: 28.25 裸地: 25.98</td> <td>9.5</td> <td>16.23</td> <td>1.7 (排水可能)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 林地開発許可申請書記載値(平成30年2月)</p> <p>なお、地表を流下する雨水についても、敷地傾斜に従い流下し、防潮堤横断部における各排水路より速やかに排水されること、屋外アクセスルート及びその周辺には雨水が滞留するようなくぼ地はないことから、屋外アクセスルートのアクセス性に支障はない。</p>	排水路名	仕様	集水面積 <sup>※</sup> [ha]	91.0mm/h 降水時の 雨水流入量 [m <sup>3</sup> /s] a	排水可能流量 <sup>※</sup> [m <sup>3</sup> /s] b	雨水流入量に対する 排水可能流量の比 b/a	北側排水路	ボックスカルバート B3500, H2500	林地: 11.47 裸地: 35.14	9.4	51.16	5.4 (排水可能)	南側排水路	ダブルプレスト管 Φ1000×3	林地: 28.25 裸地: 25.98	9.5	16.23	1.7 (排水可能)	<p>3. 評価結果                      雨水流出量と排水路流末の排水量の比較結果を第1表に示す。                      すべての排水路流末の排水量が雨水流出量を上回り、既存の排水路から雨水を海域に排水することが可能であることから、屋外のアクセスルートのアクセス性に支障はない。</p> <p>第1表 雨水流出量と排水路流末の排水量の比較結果</p> <table border="1" data-bbox="952 1266 1715 1919"> <thead> <tr> <th>流域</th> <th>雨水流出量 Q (m<sup>3</sup>/s)</th> <th>排水設備</th> <th>排水路流末 排水量 Q' (m<sup>3</sup>/s)</th> <th>安全率 (Q'/Q)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ⓐ</td> <td>5.40</td> <td>ヒューム管 φ1500 VS 側溝 B=1000, H=700</td> <td>8.07</td> <td>1.49</td> </tr> <tr> <td>Ⓑ</td> <td>0.22</td> <td>ヒューム管 φ800</td> <td>2.41</td> <td>10.95</td> </tr> <tr> <td>Ⓒ</td> <td>0.12</td> <td>ヒューム管 φ800</td> <td>2.41</td> <td>20.08</td> </tr> <tr> <td>Ⓓ</td> <td>0.15</td> <td>ヒューム管 φ800</td> <td>2.41</td> <td>16.07</td> </tr> <tr> <td>Ⓔ</td> <td>7.55</td> <td>BOX2000×2000</td> <td>16.44</td> <td>2.18</td> </tr> <tr> <td>Ⓕ</td> <td>0.90</td> <td>ヒューム管 φ800</td> <td>1.87</td> <td>2.08</td> </tr> <tr> <td>Ⓖ</td> <td>0.32</td> <td>ヒューム管 φ800</td> <td>2.29</td> <td>7.16</td> </tr> <tr> <td>Ⓗ</td> <td>0.34</td> <td>ヒューム管 φ1500</td> <td>8.51</td> <td>25.03</td> </tr> <tr> <td>Ⓘ</td> <td>0.17</td> <td>ヒューム管 φ1500</td> <td>8.51</td> <td>50.06</td> </tr> <tr> <td>Ⓙ</td> <td>0.82</td> <td>ヒューム管 φ1500</td> <td>8.51</td> <td>10.38</td> </tr> <tr> <td>Ⓚ</td> <td>0.64</td> <td>ヒューム管 φ1500</td> <td>8.51</td> <td>13.30</td> </tr> <tr> <td>Ⓛ</td> <td>0.54</td> <td>ヒューム管 φ1500</td> <td>8.51</td> <td>15.76</td> </tr> <tr> <td>Ⓜ</td> <td>8.36</td> <td>ヒューム管 φ2000</td> <td>15.22</td> <td>1.82</td> </tr> </tbody> </table>	流域	雨水流出量 Q (m <sup>3</sup> /s)	排水設備	排水路流末 排水量 Q' (m <sup>3</sup> /s)	安全率 (Q'/Q)	Ⓐ	5.40	ヒューム管 φ1500 VS 側溝 B=1000, H=700	8.07	1.49	Ⓑ	0.22	ヒューム管 φ800	2.41	10.95	Ⓒ	0.12	ヒューム管 φ800	2.41	20.08	Ⓓ	0.15	ヒューム管 φ800	2.41	16.07	Ⓔ	7.55	BOX2000×2000	16.44	2.18	Ⓕ	0.90	ヒューム管 φ800	1.87	2.08	Ⓖ	0.32	ヒューム管 φ800	2.29	7.16	Ⓗ	0.34	ヒューム管 φ1500	8.51	25.03	Ⓘ	0.17	ヒューム管 φ1500	8.51	50.06	Ⓙ	0.82	ヒューム管 φ1500	8.51	10.38	Ⓚ	0.64	ヒューム管 φ1500	8.51	13.30	Ⓛ	0.54	ヒューム管 φ1500	8.51	15.76	Ⓜ	8.36	ヒューム管 φ2000	15.22	1.82	<p>(3) 排水可能流量                      防潮堤下排水設備の排水可能流量は、「森林法に基づく林地開発許可申請の手引き(令和3年4月北海道)」に基づくマニング式により算出する。</p> $V=1/n \cdot R^{2/3} \cdot I^{1/2}$ <p>V:流速 (m/s)                      n:粗度係数                      R:径深 (m)</p> <p>I:水面勾配</p> <p>3. 評価結果</p> <div data-bbox="1789 982 2599 1167" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>追而【他条文の審査状況の反映】                      (構内排水設備の設計については、                      第6条「外部からの衝撃による損傷の防止」                      の審査状況を踏まえて反映するため)</p> </div> <p>第1表 57.5 mm /h 降水時の雨水流入量と排水可能流量との比較</p> <table border="1" data-bbox="1783 1262 2594 1335"> <thead> <tr> <th></th> <th>集水面積<sup>※</sup> (ha)</th> <th>雨水流出量 a (m<sup>3</sup>/s)</th> <th>排水可能流量 b (m<sup>3</sup>/s)</th> <th>安全率 b/a</th> </tr> </thead> </table> <div data-bbox="1789 1335 2599 1671" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>追而【他条文の審査状況の反映】                      (構内排水設備の設計については、                      第6条「外部からの衝撃による損傷の防止」                      の審査状況を踏まえて反映するため)</p> </div>		集水面積 <sup>※</sup> (ha)	雨水流出量 a (m <sup>3</sup> /s)	排水可能流量 b (m <sup>3</sup> /s)	安全率 b/a	<p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】記載表現の相違</p>
排水路名	仕様	集水面積 <sup>※</sup> [ha]	91.0mm/h 降水時の 雨水流入量 [m <sup>3</sup> /s] a	排水可能流量 <sup>※</sup> [m <sup>3</sup> /s] b	雨水流入量に対する 排水可能流量の比 b/a																																																																																											
北側排水路	ボックスカルバート B3500, H2500	林地: 11.47 裸地: 35.14	9.4	51.16	5.4 (排水可能)																																																																																											
南側排水路	ダブルプレスト管 Φ1000×3	林地: 28.25 裸地: 25.98	9.5	16.23	1.7 (排水可能)																																																																																											
流域	雨水流出量 Q (m <sup>3</sup> /s)	排水設備	排水路流末 排水量 Q' (m <sup>3</sup> /s)	安全率 (Q'/Q)																																																																																												
Ⓐ	5.40	ヒューム管 φ1500 VS 側溝 B=1000, H=700	8.07	1.49																																																																																												
Ⓑ	0.22	ヒューム管 φ800	2.41	10.95																																																																																												
Ⓒ	0.12	ヒューム管 φ800	2.41	20.08																																																																																												
Ⓓ	0.15	ヒューム管 φ800	2.41	16.07																																																																																												
Ⓔ	7.55	BOX2000×2000	16.44	2.18																																																																																												
Ⓕ	0.90	ヒューム管 φ800	1.87	2.08																																																																																												
Ⓖ	0.32	ヒューム管 φ800	2.29	7.16																																																																																												
Ⓗ	0.34	ヒューム管 φ1500	8.51	25.03																																																																																												
Ⓘ	0.17	ヒューム管 φ1500	8.51	50.06																																																																																												
Ⓙ	0.82	ヒューム管 φ1500	8.51	10.38																																																																																												
Ⓚ	0.64	ヒューム管 φ1500	8.51	13.30																																																																																												
Ⓛ	0.54	ヒューム管 φ1500	8.51	15.76																																																																																												
Ⓜ	8.36	ヒューム管 φ2000	15.22	1.82																																																																																												
	集水面積 <sup>※</sup> (ha)	雨水流出量 a (m <sup>3</sup> /s)	排水可能流量 b (m <sup>3</sup> /s)	安全率 b/a																																																																																												

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>4. 排水設備の性能維持に係る運用管理について</p> <p>(1) 性能維持管理対象について</p> <p>排水設備の手前、複数の管路が合流する箇所等には樹が設けられている。排水設備の排水能力を維持する上では、排水設備の手前にある樹の性能が直接的に寄与することから、当該樹を性能維持管理の対象とする。性能維持管理対象とする樹の設置場所は第2図のとおり。</p> <p>なお、排水設備は敷地内の低所に設けられており、仮に当該樹に至るまでの排水路の性能が低下している場合においても道路等を伝っての流下が期待できることから、これらの排水路は維持管理対象外とする。</p> <p>(2) 運用管理について</p> <p>性能維持管理の対象である樹及び当該樹からの排水路は、外観点検を1回/年実施し、フラップゲートは、外観点検及び動作確認を実施することにより、排水能力を維持する。</p> <p>また、上記点検に併せて、樹及び当該樹からの排水路の清掃を実施する。</p>		<p>【島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>島根は排水設備の性能維持管理対象とする樹についての運用管理を記載している。</li> </ul>




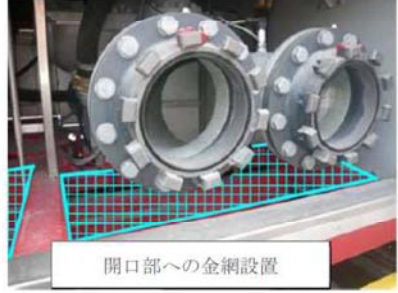














赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																
<p>別紙(7)</p> <p>可搬型設備の小動物対策について</p> <p>屋外保管場所に保管している可搬型設備については、小動物が開口部等から設備内部に侵入し、設備の機能に影響を及ぼす可能性があることから、可搬型設備に開口部がある場合には、侵入防止対策を実施する。</p> <p>以下に可搬型設備の開口部へ対策例を示す。</p>	<p>別紙(27)</p> <p>可搬型設備の小動物対策について</p> <p>屋外保管場所に保管している可搬型設備については、小動物が開口部から設備内部に侵入し、設備の機能に影響を及ぼす可能性があることから、可搬型設備に開口部がある場合には、侵入防止対策を実施する。</p> <p>以下に現状の可搬型設備の開口部有無と対策内容を示す。</p> <p>1. 可搬型設備の開口部確認結果例</p> <table border="1" data-bbox="949 651 1745 1348"> <thead> <tr> <th>可搬型設備名</th> <th>開口部有無</th> <th>対策内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高圧発電機車</td> <td>有</td> <td>貫通部パッキン処理 貫通部シール処理</td> </tr> <tr> <td>大量送水車</td> <td>有</td> <td>貫通部シール処理</td> </tr> <tr> <td>移動式代替熱交換設備</td> <td>有</td> <td>閉止板設置</td> </tr> <tr> <td>可搬式窒素供給装置</td> <td>有</td> <td>貫通部シール処理</td> </tr> <tr> <td>大型送水ポンプ車</td> <td>有</td> <td>金網設置</td> </tr> <tr> <td>第1ベントフィルタ 出口水素濃度</td> <td>有</td> <td>貫通部キャップ取付 貫通部シール処理</td> </tr> <tr> <td>タンクローリ</td> <td>無</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>ホイールローダ</td> <td>無</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	可搬型設備名	開口部有無	対策内容	高圧発電機車	有	貫通部パッキン処理 貫通部シール処理	大量送水車	有	貫通部シール処理	移動式代替熱交換設備	有	閉止板設置	可搬式窒素供給装置	有	貫通部シール処理	大型送水ポンプ車	有	金網設置	第1ベントフィルタ 出口水素濃度	有	貫通部キャップ取付 貫通部シール処理	タンクローリ	無	—	ホイールローダ	無	—	<p>別紙(7)</p> <p>可搬型設備の小動物対策について</p> <p>屋外保管場所に保管している可搬型設備については、小動物が開口部から設備内部に侵入し、設備の機能に影響を及ぼす可能性があることから、可搬型設備に開口部がある場合には、侵入防止対策を実施する。</p> <p>以下に現状の可搬型設備の開口部有無と対策内容を示す。</p> <p>1. 可搬型設備の開口部確認結果例</p> <table border="1" data-bbox="1789 646 2585 1285"> <thead> <tr> <th>可搬型設備名</th> <th>開口部有無</th> <th>対策内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可搬型大容量 海水送水ポンプ車</td> <td>有</td> <td>金網設置</td> </tr> <tr> <td>可搬型大型送水ポンプ車</td> <td>有</td> <td>貫通部シール処理</td> </tr> <tr> <td>可搬型代替電源車</td> <td>有</td> <td>貫通部シール処理</td> </tr> <tr> <td>可搬型タンクローリ</td> <td>無</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>ホイールローダ</td> <td>無</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>バックハウ</td> <td>無</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	可搬型設備名	開口部有無	対策内容	可搬型大容量 海水送水ポンプ車	有	金網設置	可搬型大型送水ポンプ車	有	貫通部シール処理	可搬型代替電源車	有	貫通部シール処理	可搬型タンクローリ	無	—	ホイールローダ	無	—	バックハウ	無	—	<p>相違理由</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載内容の相違              ・泊は開口部有無の明確化</p> <p>【島根】記載内容の相違              ・可搬型設備の相違による対策内容の相違</p>
可搬型設備名	開口部有無	対策内容																																																	
高圧発電機車	有	貫通部パッキン処理 貫通部シール処理																																																	
大量送水車	有	貫通部シール処理																																																	
移動式代替熱交換設備	有	閉止板設置																																																	
可搬式窒素供給装置	有	貫通部シール処理																																																	
大型送水ポンプ車	有	金網設置																																																	
第1ベントフィルタ 出口水素濃度	有	貫通部キャップ取付 貫通部シール処理																																																	
タンクローリ	無	—																																																	
ホイールローダ	無	—																																																	
可搬型設備名	開口部有無	対策内容																																																	
可搬型大容量 海水送水ポンプ車	有	金網設置																																																	
可搬型大型送水ポンプ車	有	貫通部シール処理																																																	
可搬型代替電源車	有	貫通部シール処理																																																	
可搬型タンクローリ	無	—																																																	
ホイールローダ	無	—																																																	
バックハウ	無	—																																																	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>①大容量送水ポンプ</p>   <p>開口部への金網設置</p> <p>②電源車</p>   <p>ケーブル貫通部へのシール処理</p>	<p>2. 可搬型設備の対策実施例</p> <p>(1) 大量送水車</p>   <p>ケーブル貫通部</p> <p>シール処理</p>   <p>ケーブル貫通部</p> <p>シール処理</p> <p>(2) 可搬式窒素供給装置</p>   <p>ケーブル貫通部</p> <p>シール処理</p>	<p>2. 可搬型設備の対策実施例</p> <p>(1) 可搬型大容量海水送水ポンプ車</p>   <p>開口部への金網設置</p> <p>(2) 可搬型人型送水ポンプ車</p>   <p>ケーブル貫通部へのシール処理</p> <p>(3) 可搬型代替電源車</p>   <p>ケーブル貫通部へのシール処理</p>	<p><b>相違理由</b></p> <p>【女川及び島根】          記載内容の相違          ・可搬型設備の相違による対策内容の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

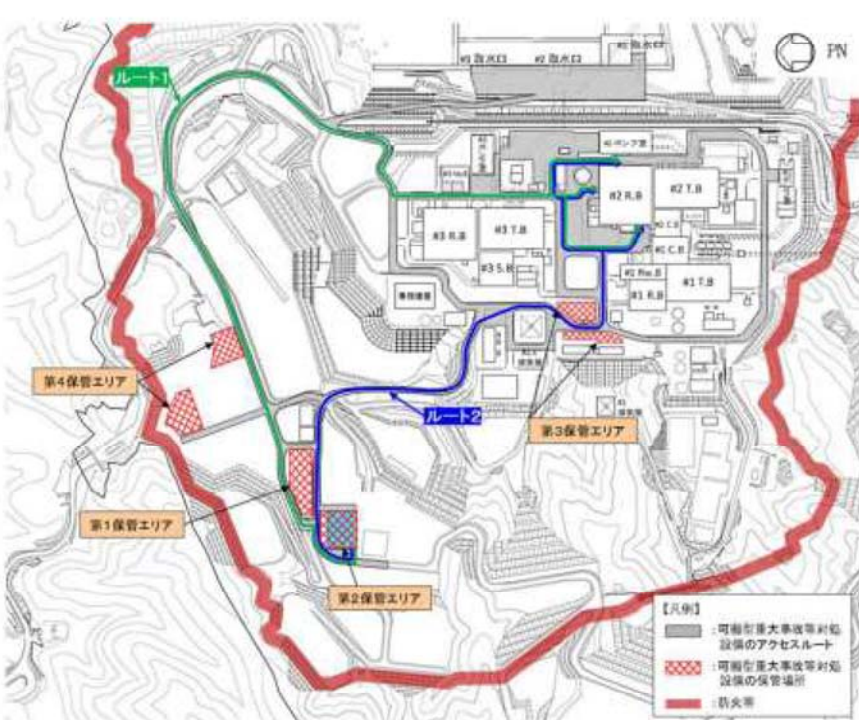
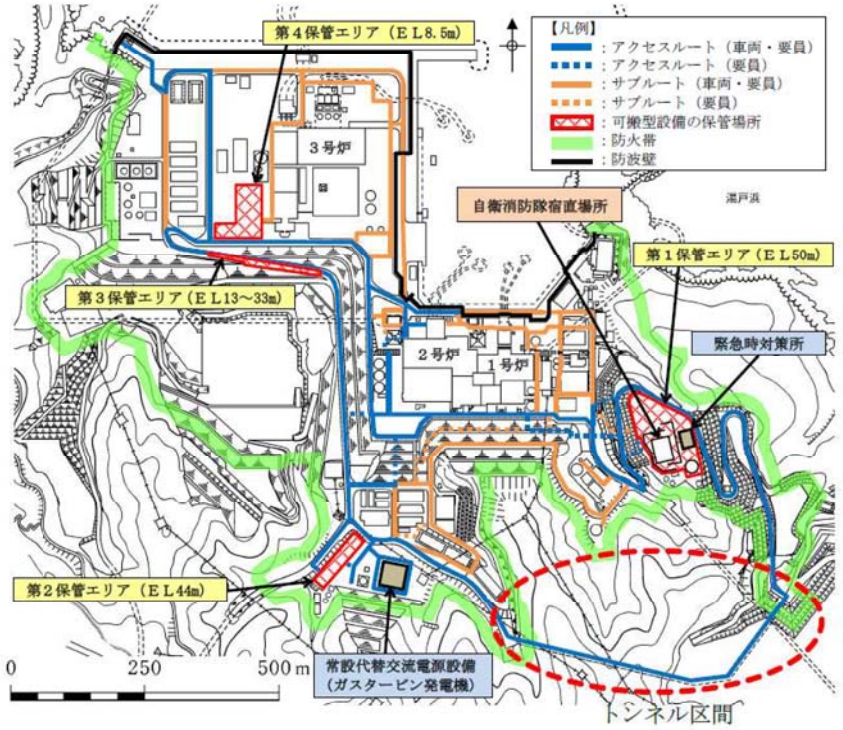
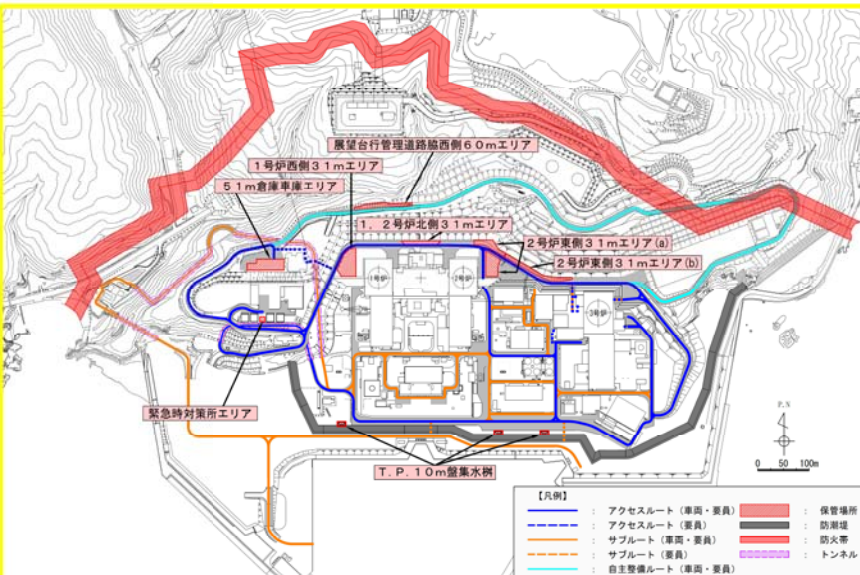
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙(8)</p> <p style="text-align: center;">森林火災に対する影響評価について</p> <p>1. 保管場所及びアクセスルートと防火帯の位置について                      原子力発電所敷地外で発生する森林火災が発電所に迫った場合においても、原子炉施設（安全機能を有する構築物、系統及び機器）に影響を及ぼさないよう防火帯を設定している。                      重大事故等対処設備については、外部火災における防護対象設備（クラス1，2）を防護することにより、外部火災による重大事故の発生に至ることはないが、炉心損傷防止等の原子炉の安全性に係る対策に大きな影響を与えるおそれがあることから、防火帯の内側に配備する。                      また、可搬型設備のアクセスルートについても防火帯の内側とする。</p>	<p style="text-align: right;">別紙(25)</p> <p style="text-align: center;">森林火災発生時における屋外のアクセスルートの影響</p> <p>森林火災が発生し発電所構内へ延焼するおそれがある場合は、構内道路の一部を防火帯として機能させる。その際には、防火帯内の車両を規制し、防火帯内から車両がない状態を確立する。                      森林火災発生時のアクセスルートは第1図のとおりである。アクセスルートが防火帯に近接している箇所についても、空地を確保しているため、森林火災時の放射影響を評価したところ、最大でも1.6kW/m<sup>2</sup>*1程度であり、車両等の通行に影響を及ぼすことはないことを確認している。                      よって、森林火災が発生した場合においても、アクセスルートは通行が可能である。                      保管場所及びアクセスルートの位置関係を第1図に示す。</p> <p>アクセスルートとして設定している第二輪谷トンネル内は、防火帯の外側に位置するが、地上部ではなくトンネル区間となっている。火災による熱の影響は、地中深くなるにしたがって温度は低下するため、トンネル区間が位置するところでは、森林火災による熱的影響を受けるおそれはない。なお、トンネル区間の出入口部*2は、防火帯の内側に設置しており、森林火災による熱的影響を受けるおそれはない。トンネル区間の概要図を第2図に示す。</p> <p>また、飛び火の影響については、防火帯を設置することで森林火災による飛び火が保管場所へ延焼するおそれはないが、森林火災の状況に応じて防火帯付近に予防散水を行い、万一の飛び火による影響を防止する。予防散水は、消火栓、防火水槽等から化学消防自動車等を用いて実施する。                      第3図に敷地内の屋外消火栓及び防火水槽の配置を示す。</p> <p>※1：「石油コンビナートの防災アセスメント指針」（別紙(6)参照）                      ※2：第二輪谷トンネルの出入口における斜面の安定性評価については、アクセスルート周辺斜面の安定性評価において説明する。</p>	<p style="text-align: right;">別紙(8)</p> <p style="text-align: center;">森林火災に対する影響評価について</p> <p>1. 保管場所及びアクセスルートと防火帯の位置について                      原子力発電所敷地外で発生する森林火災が発電所に迫った場合においても、原子炉施設（安全機能を有する構築物、系統及び機器）に影響を及ぼさないよう防火帯を設定している。                      重大事故等対処設備については、外部火災における防護対象設備（クラス1，2）を防護することにより、外部火災による重大事故の発生に至ることはないが、炉心損傷防止等の原子炉の安全性に係る対策に大きな影響を与えるおそれがあることから、防火帯の内側に配備する。                      また、可搬型設備のアクセスルートについても防火帯の内側とする。                      保管場所及びアクセスルートの位置関係を第1図に示す。</p> <p>なお、飛び火の影響については、防火帯を設置することで森林火災による飛び火が保管場所へ延焼するおそれはないが、森林火災の状況に応じて防火帯付近に予防散水を行い、万一の飛び火による影響を防止する。予防散水は、消火栓、防火水槽等から化学消防自動車等を用いて実施する。                      第2図に敷地内の屋外消火栓及び防火水槽の配置を示す。</p>	<p>相違理由</p> <p>【島根】資料構成の相違                      ・森林火災による保管場所及びアクセスルートへの影響は、女川と同様に、2.以降で評価している</p> <p>【島根】設備の相違                      ・島根はアクセスルートの一部であるトンネル区間が防火帯外に位置する。</p> <p>【女川】記載内容の相違                      ・泊は島根と同様に飛び火の影響について記載している。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

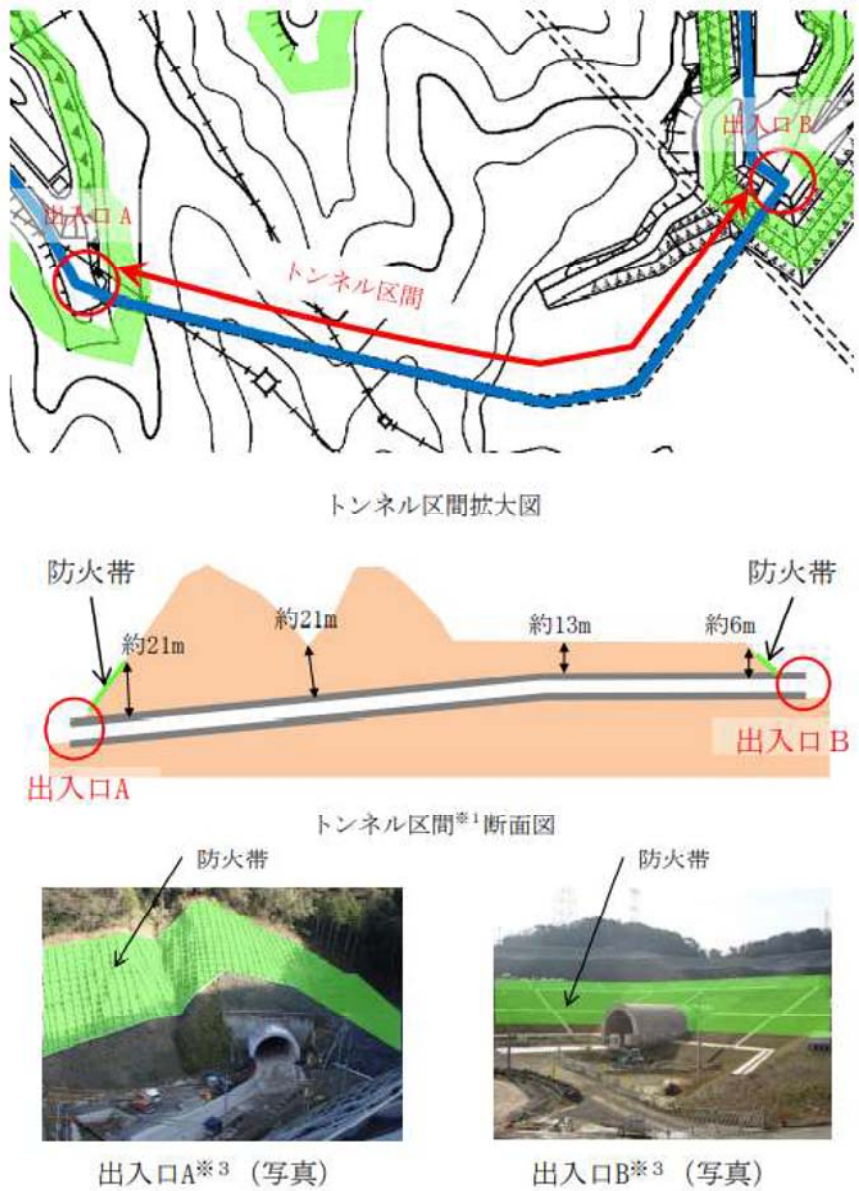
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第1図 保管場所及びアクセスルートと防火帯の位置</p>	 <p>第1図 防火帯と保管場所及びアクセスルートの位置</p>	 <p>第1図 保管場所及びアクセスルートと防火帯の位置</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川及び島根】                  記載表現の相違                  ・プラントの相違による                  図の内容の相違</p>



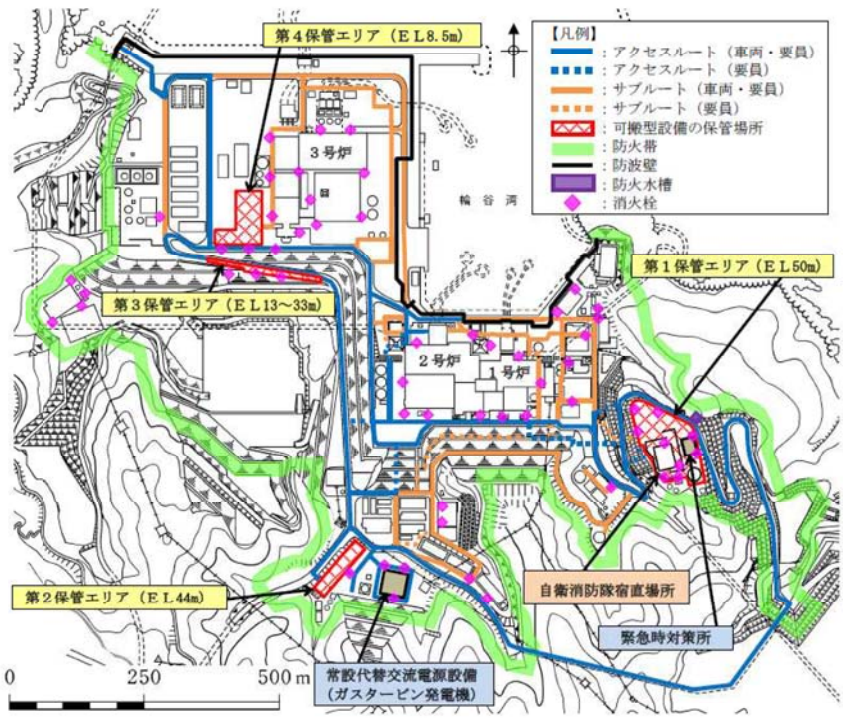
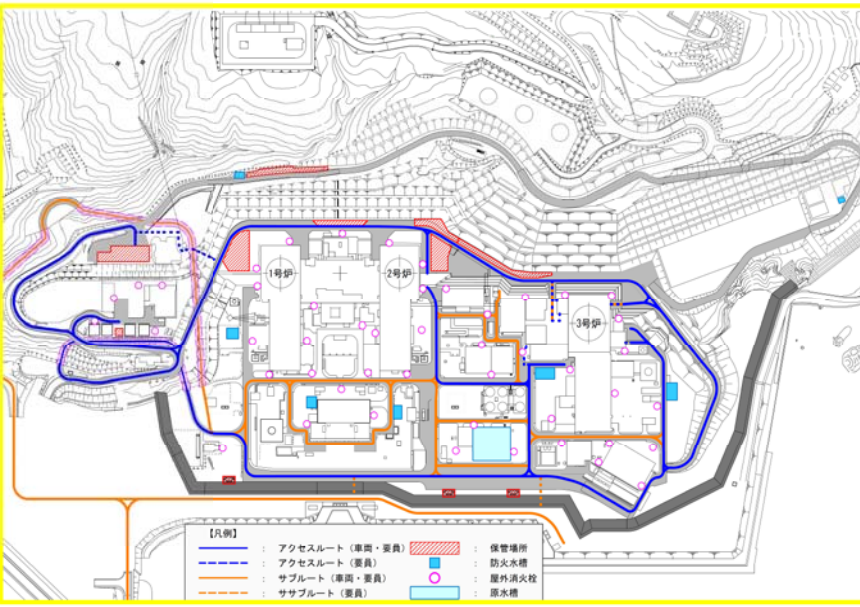
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>トンネル区間拡大図</p> <p>トンネル区間断面図</p> <p>出入口A*3 (写真)</p> <p>出入口B*3 (写真)</p> <p>※1：火災による熱の影響は、地中深くになるにしたがって温度は低下する。*2トンネル区間は、地中に埋設されており、火災による熱的影響を受けない。              ※2：（参考文献）一般社団法人 日本森林学会 「山火事と地域環境」（森林科学 24 1998.10）              ※3：トンネルの出入口部は、防火帯（約21m）の内側に設置。</p> <p>第2図 防火帯外側のトンネル区間</p>		<p>【島根】設備の相違                  ・島根はアクセスルートの一部であるトンネル区間が防火帯外に位置する。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

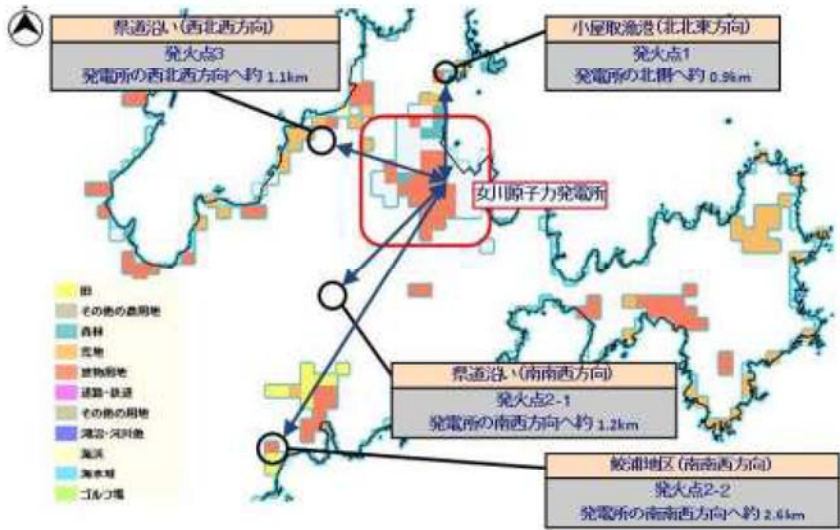
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>※：屋外消火栓等の設置場所については、今後の検討結果等により変更となる可能性がある。</p> <p>第3図 屋外消火栓及び防火水槽の配置図</p>	 <p>第2図 屋外消火栓及び防火水槽の配置図</p>	<p>【島根】記載表現の相違                  ・プラントの相違による                  図の内容の相違</p>



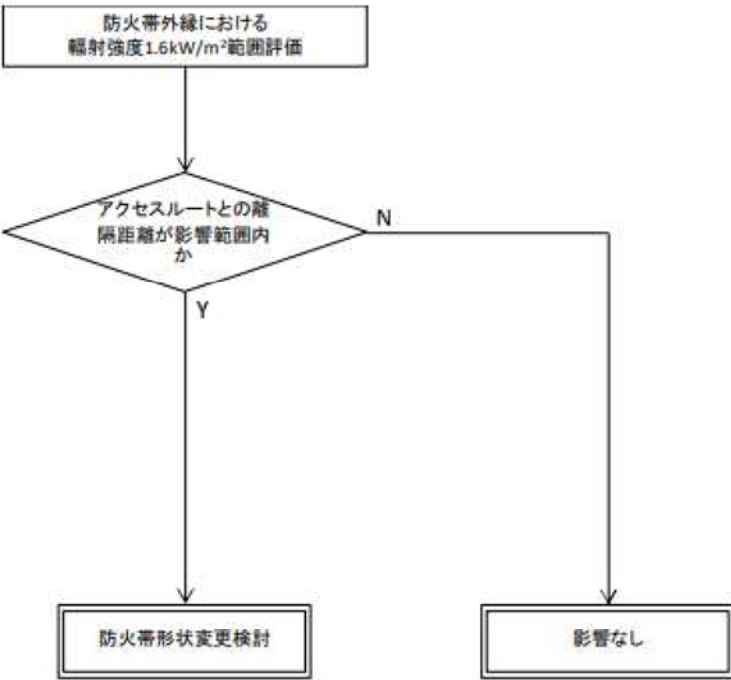
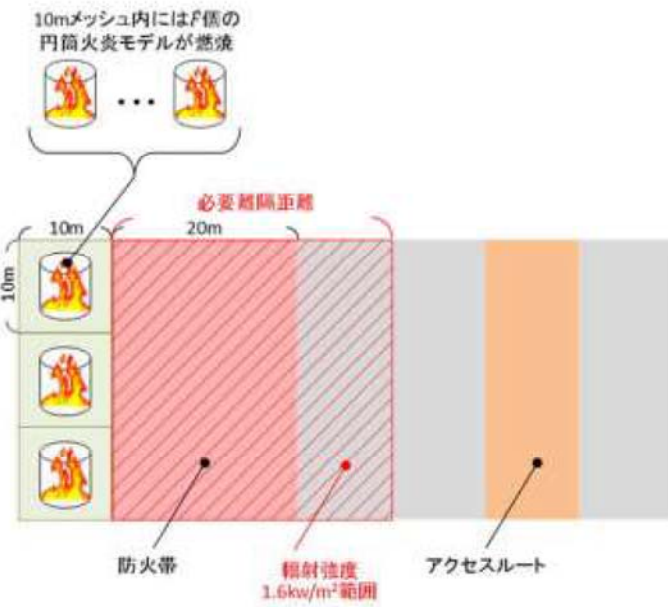
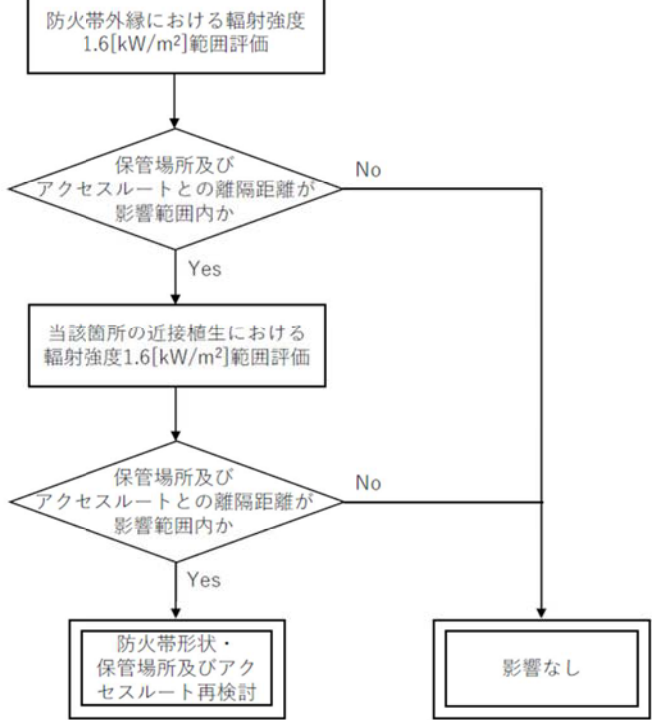
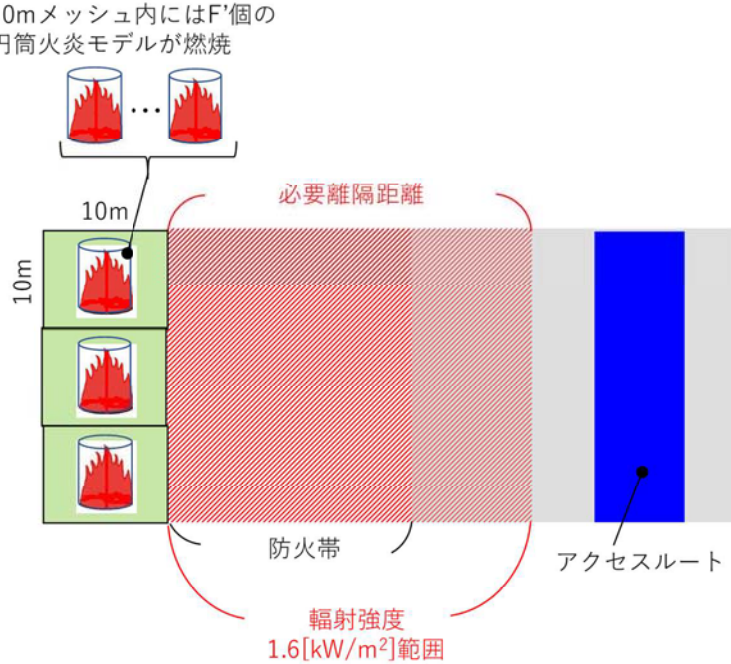
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由										
<p>2. 保管場所に対する森林火災影響について</p> <p>可搬型設備の保管場所は屋外にあり、森林火災による熱影響を受ける可能性があることから、森林火災発生時には可搬型設備を森林火災の影響が及ばない位置に移動する。</p> <p>なお、森林火災発生から防火帯外縁まで最も早く到達する発火点3の火炎到達時間は約1.8時間であることから、可搬型設備の移動は可能であると考える。</p> <p>第1表 各発火点における火炎到達時間</p> <table border="1" data-bbox="210 527 822 716"> <thead> <tr> <th>発火点位置</th> <th>火炎到達時間 [ h ]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発火点1</td> <td>約2.6</td> </tr> <tr> <td>発火点2-1</td> <td>約5.3</td> </tr> <tr> <td>発火点2-2</td> <td>約13.4</td> </tr> <tr> <td>発火点3</td> <td>約1.8</td> </tr> </tbody> </table>  <p>第2図 発火点位置</p>	発火点位置	火炎到達時間 [ h ]	発火点1	約2.6	発火点2-1	約5.3	発火点2-2	約13.4	発火点3	約1.8			<p>【女川】対応方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊は保管場所について必要離隔距離を確保していることを次項で確認する。</li> </ul>
発火点位置	火炎到達時間 [ h ]												
発火点1	約2.6												
発火点2-1	約5.3												
発火点2-2	約13.4												
発火点3	約1.8												

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

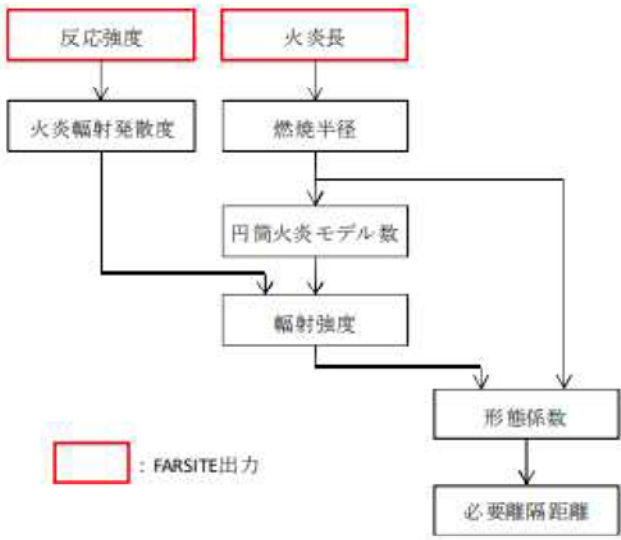
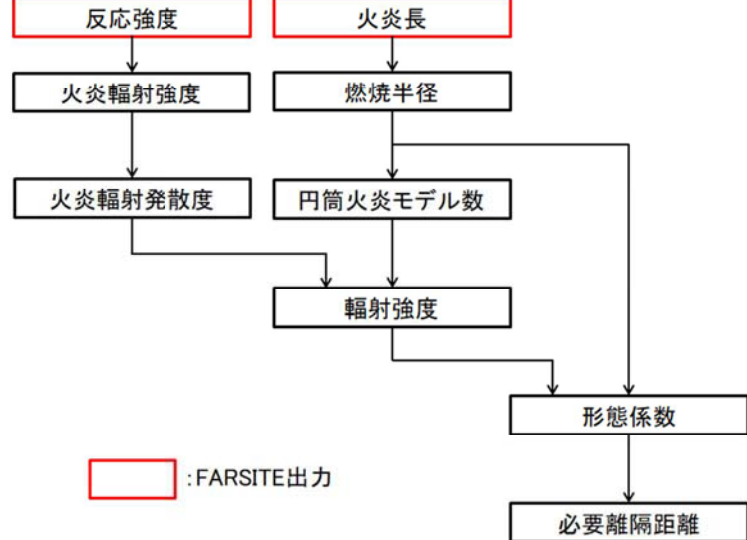
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉 3. アクセスルートに対する森林火災影響について 森林火災によりアクセスルートが「長時間さらされても苦痛を感じない強度」である1.6kW/m <sup>2</sup> 以下となることを第3図のフローにより確認する。  <p>※ 放射強度1.6kW/m<sup>2</sup>：石油コンビナートの防災アセスメント指針における長時間さらされても苦痛を感じない放射強度</p> <p>第3図 森林火災影響評価フロー</p>  <p>第4図 森林火災影響評価概要図</p>	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉 2. 保管場所及びアクセスルートに対する森林火災影響について 森林火災により保管場所及びアクセスルートが「長時間さらされても苦痛を感じない強度」である放射強度1.6kW/m <sup>2</sup> 以下となることを第3図のフローにより確認する。  <p>※1 放射強度1.6kW/m<sup>2</sup>：石油コンビナートの防災アセスメント指針における長時間さらされても苦痛を感じない放射強度</p> <p>第3図 森林火災影響評価フロー</p>  <p>第4図 森林火災影響評価概要図</p>	相違理由 【女川】対応方針の相違 ・泊は保管場所に対しても、必要離隔距離を確保できることを確認する。 ・評価フローの考え方の相違
--	-------------	---	---



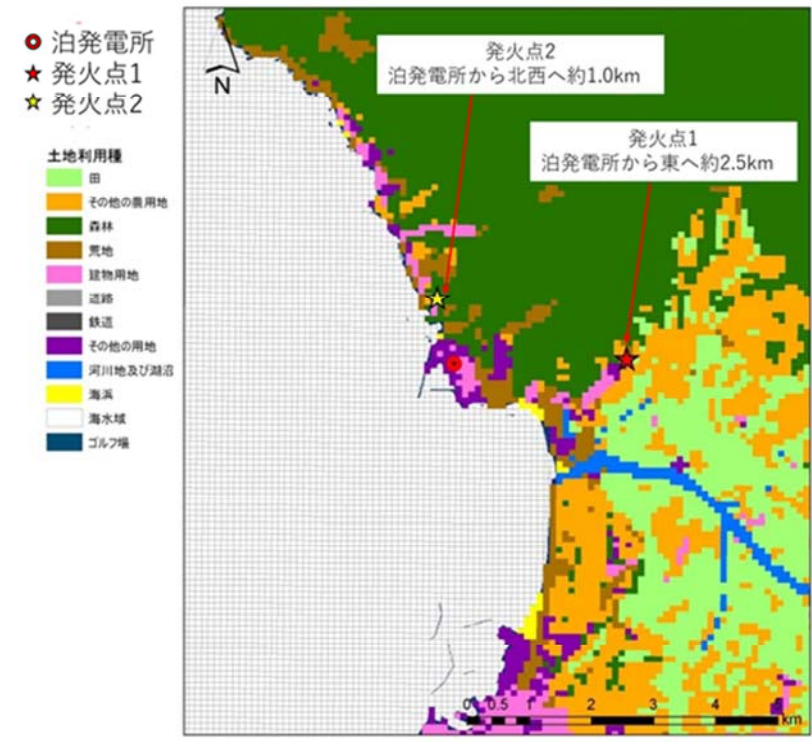
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(1) 必要離隔距離評価の流れ                      石油コンビナートの防災アセスメント指針における放射強度及び、FARSITE 出力より得られた、反応強度及び火炎長より、第5図のとおり必要離隔距離を評価する。</p>  <p>第5図 必要離隔距離評価（概要図）</p> <p>a. 円筒火炎モデル数の算出                      外部火災影響評価ガイドに基づき、10mメッシュ内における円筒火炎モデル数（<math>F'</math>）を次式により算出する。</p> $F' = \frac{10}{2R} \quad R = \frac{H}{3}$ <p>H: 火炎長 [m]                      R: 燃焼半径 [m]</p> <p>b. 火炎放射発散度の算出                      FARSITEの結果より得られた防火帯外縁の最大反応強度に米国防火協会（NFPA）の係数0.377<sup>※1</sup>を乗じて算出する。                      ※1 NFPA「THE SFPE HANDBOOK OF Fire Protection Engineering」に定める針葉樹の係数</p>		<p>(1) 必要離隔距離評価の流れ                      石油コンビナートの防災アセスメント指針における放射強度及び、FARSITE 出力より得られた、反応強度及び火炎長より、<b>第5図のとおり</b>必要離隔距離を評価する。</p>  <p>第5図 必要離隔距離評価（概要図）</p> <p>a. 円筒火炎モデル数の算出                      外部火災影響評価ガイドに基づき、10mメッシュ内における円筒火炎モデル数（<math>F'</math>）を次式により算出する。</p> $F' = \frac{10}{2R} \quad R = \frac{H}{3}$ <p>H: 火炎長[m], R: 燃焼半径[m]</p> <p>b. 火炎放射発散度の算出                      FARSITEの結果より得られた防火帯外縁の最大反応強度に米国防火協会（NFPA）の係数0.377<sup>※1</sup>を乗じて算出する。                      ※1 : NFPA「THE SFPE HANDBOOK OF Fire Protection Engineering」に定める針葉樹の係数</p>	<p>【女川】記載表現の相違                      ・泊は反応強度を元に火炎放射強度を算出した後、火炎放射発散度を算出している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>c. 必要離隔距離の算出</p> <p>形態係数を算出する下記式から、必要離隔距離を算出する、</p> $\Phi = \frac{1}{\pi n} \tan^{-1} \left( \frac{m}{\sqrt{n^2-1}} \right) + \frac{m}{\pi} \left\{ \frac{(A-2n)}{n\sqrt{AB}} \tan^{-1} \left[ \sqrt{\frac{A(n-1)}{B(n+1)}} \right] - \frac{1}{n} \tan^{-1} \left[ \sqrt{\frac{(n-1)}{(n+1)}} \right] \right\} : \text{形態係数}$ <p>ここで、<math>m = \frac{H}{R} \approx 3</math>, <math>n = \frac{L}{R}</math>, <math>A = (1+n)^2 + m^2</math>, <math>B = (1-n)^2 + m^2</math></p> <p>L : 必要離隔距離[m]</p> <p>(2) 評価結果                  それぞれの発火点における必要離隔距離について第2表のとおり算出した。</p>		<p>c. 必要離隔距離の算出                  輻射強度Eが1.6[kW/m<sup>2</sup>]となる形態係数Φを式1より算出する。</p> $E = F' \times R_f \times \Phi \quad (\text{式1})$ <p>E：輻射強度(W/m<sup>2</sup>), F'：円筒火炎モデル数(10mメッシュ),                  Rf：輻射発散度(W/m<sup>2</sup>), Φ：形態係数</p> <p>式1で求めた形態係数Φとなる必要離隔距離Lを式2より算出する。</p> $\Phi = \frac{1}{\pi n} \tan^{-1} \left( \frac{m}{\sqrt{n^2-1}} \right) + \frac{m}{\pi} \left\{ \frac{(A-2n)}{n\sqrt{AB}} \tan^{-1} \left[ \sqrt{\frac{A(n-1)}{B(n+1)}} \right] - \frac{1}{n} \tan^{-1} \left[ \sqrt{\frac{(n-1)}{(n+1)}} \right] \right\} \quad (\text{式2})$ $m = \frac{H}{R} \approx 3, n = \frac{L}{R}, A = (1+n)^2 + m^2, B = (1-n)^2 + m^2$ <p>H：火炎長[m], R：燃焼半径[m], L：離隔距離(m)</p> <p>(2) 評価結果                  第6図に示す発火点における必要離隔距離について第1表のとおり算出した。</p>  <p>第6図 発火点位置</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】記載表現の相違                  ・記載の充実化</p> <p>【女川】記載箇所の相違                  ・女川は第2図に記載しており、プラントの相違による図の内容の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉					島根原子力発電所2号炉					泊発電所3号炉					相違理由
第2表 必要離隔距離算出結果										第1表 必要離隔距離算出結果					【女川】記載内容の相違 ・プラントに相違による必要離隔距離算出結果の相違  【女川】設備の相違 ・泊のアクセスルート及び保管場所は必要離隔距離を確保している。
発火点	必要離隔距離 [m]	最大火炎放射発散度 [kW/m <sup>2</sup> ]	円筒火炎モデル数	火炎長 [m]	発火点	最大火炎放射発散度 [kW/m <sup>2</sup> ]	火炎長 [m]	円筒火炎モデル数	必要離隔距離 [m]	発火点	最大火炎放射発散度 [kW/m <sup>2</sup> ]	火炎長 [m]	円筒火炎モデル数	必要離隔距離 [m]	
1	20.3	477	35	0.43	1	1,200	1.63	9.3	63.0	2	1,200	3.62	4.2	94.1	
2-1	32.8	408	12	1.31	以上の評価により最大必要離隔距離が発火点2における94.1mであったことから、防火帯外縁から可搬型設備の保管場所及びアクセスルートが必要離隔距離を確保しているか確認した結果、すべてのアクセスルートについて必要離隔距離以上確保していることを確認した。										
2-2	26.7	413	18	0.86											
3	31.2	421	14	1.15											

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙(10)</p> <p>屋外アクセスルート近傍の障害となり得る要因と影響評価について</p> <p>屋外アクセスルート近傍の障害となり得る構造物を抽出し、抽出した構造物に対しアクセスルートへの影響評価を実施した。また、影響評価における建物の損壊による影響範囲については、過去の地震時の建屋被害事例から損傷モードを想定し、影響範囲を設定した。</p> <p>1. 屋外アクセスルート近傍の構造物の抽出                      可搬型設備の保管場所及び屋外アクセスルートの障害となり得る周辺構造物については、以下の手順により抽出を行った。</p>	<p style="text-align: right;">別紙(28)</p> <p>保管場所及び屋外のアクセスルート近傍の障害となり得る要因と影響評価について</p> <p>保管場所及びアクセスルート近傍の障害となり得る構造物を抽出し、抽出した構造物に対し保管場所及びアクセスルートへの影響評価を実施した。また、影響評価における建物の損壊による影響範囲については、過去の地震時の建物被害事例から損傷モードを想定し、影響範囲を設定した。</p> <p>1. 保管場所における影響評価手順                      保管場所に影響する構造物の抽出及び影響評価は以下の手順で行った。                      手順①：発電所構内の構造物を抽出                      発電所構内の構造物を全て抽出する。                      手順②：構造物の損壊による保管場所への影響範囲の評価                      各保管場所の敷地が設定した周辺構造物の影響範囲に含まれるか否かを評価する。</p> <p>2. アクセスルートにおける影響評価手順                      アクセスルートに影響する構造物の抽出及び影響評価は以下の手順で行った。                      手順①：発電所構内の構造物を抽出（3項）                      発電所構内の構造物を全て抽出する。                      手順②：構造物の損壊によるアクセスルートへの影響範囲の評価（4項）                      構造物が損壊した場合の影響範囲をもとに、アクセスルートへの干渉の有無を確認の上、以下の点を評価する。                      ・アクセスルートに干渉する全ての構造物について、単独で損壊した場合に必要な幅員が確保可能か                      ・損壊時にアクセスルートに干渉する全ての構造物について、アクセスルートを挟んだ向かい側にアクセスルートに干渉する構造物の有無、ある場合は必要な幅員が確保可能か</p> <p>なお、手順②の評価結果からアクセスルートに影響がある構造物が抽出された場合は重大事故時等対応の成立性について詳細確認を行う。</p> <p>3. アクセスルート近傍の構造物の抽出                      図面確認並びに現場調査により、アクセスルート近傍の障害となり得る構造物を抽出した。抽出した構造物を第1表及び第2表に示す。また、構造物の配置を第1図～第5図に示す。</p>	<p style="text-align: right;">別紙(9)</p> <p>保管場所及び屋外のアクセスルート近傍の障害となり得る要因と影響評価について</p> <p>保管場所及び屋外アクセスルート近傍の障害となり得る構造物を抽出し、抽出した構造物に対し保管場所及びアクセスルートへの影響評価を実施した。また、影響評価における建物の損壊による影響範囲については、過去の地震時の建屋被害事例から損傷モードを想定し、影響範囲を設定した。</p> <p>1. 保管場所及び屋外アクセスルート近傍の構造物の抽出                      可搬型設備の保管場所及び屋外アクセスルートの障害となり得る周辺構造物については、以下の手順により抽出を行った。</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【島根】記載箇所の相違                      ・泊は女川と同様に                      「1. 保管場所及び屋外アクセスルート近傍の構造物の抽出」に記載している。</p>



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																						
	<p style="text-align: center;">第1表 アクセスルートの周辺構造物（建物）（1/2）</p> <table border="1" data-bbox="946 273 1751 1348"> <thead> <tr> <th>管理番号</th> <th>構造物名称</th> <th>参照図面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>緊急時対策所</td><td>第2図</td></tr> <tr><td>2</td><td>1号水ろ過装置室</td><td rowspan="2">第2図, 第3図</td></tr> <tr><td>3</td><td>技術訓練棟2号館</td></tr> <tr><td>4</td><td>管理事務所1号館</td><td rowspan="2">第2図, 第4図</td></tr> <tr><td>5</td><td>管理事務所2号館</td></tr> <tr><td>6</td><td>ガスタービン発電機建物</td><td rowspan="10">第3図</td></tr> <tr><td>7</td><td>協力企業A社事務所1</td></tr> <tr><td>8</td><td>協力企業A社事務所2</td></tr> <tr><td>9</td><td>協力企業A社事務所3</td></tr> <tr><td>10</td><td>協力企業A社事務所4</td></tr> <tr><td>11</td><td>協力企業B社事務所1</td></tr> <tr><td>12</td><td>協力企業B社事務所2</td></tr> <tr><td>13</td><td>協力企業B社事務所3</td></tr> <tr><td>14</td><td>協力企業C社事務所1</td></tr> <tr><td>15</td><td>協力企業D社売店</td></tr> <tr><td>16</td><td>合併処理施設機械室</td><td rowspan="15">第4図</td></tr> <tr><td>17</td><td>固体廃棄物貯蔵所B棟</td></tr> <tr><td>18</td><td>1号炉原子炉建物</td></tr> <tr><td>19</td><td>1号炉廃棄物処理建物</td></tr> <tr><td>20</td><td>2号炉原子炉建物</td></tr> <tr><td>21</td><td>2号炉廃棄物処理建物</td></tr> <tr><td>22</td><td>2号炉タービン建物</td></tr> <tr><td>23</td><td>屋内閉閉所</td></tr> <tr><td>24</td><td>44m 盤事務所</td></tr> <tr><td>25</td><td>プラスチック固化設備建物</td></tr> <tr><td>26</td><td>西側事務所</td></tr> <tr><td>27</td><td>北口警備所</td></tr> <tr><td>28</td><td>2号炉取水コントロール建物</td></tr> <tr><td>29</td><td>2号炉鉄イオン貯蔵建物</td></tr> <tr><td>30</td><td>2号炉排気筒モニタ室</td></tr> <tr><td>31</td><td>地下湧水浄化設備</td></tr> </tbody> </table>	管理番号	構造物名称	参照図面	1	緊急時対策所	第2図	2	1号水ろ過装置室	第2図, 第3図	3	技術訓練棟2号館	4	管理事務所1号館	第2図, 第4図	5	管理事務所2号館	6	ガスタービン発電機建物	第3図	7	協力企業A社事務所1	8	協力企業A社事務所2	9	協力企業A社事務所3	10	協力企業A社事務所4	11	協力企業B社事務所1	12	協力企業B社事務所2	13	協力企業B社事務所3	14	協力企業C社事務所1	15	協力企業D社売店	16	合併処理施設機械室	第4図	17	固体廃棄物貯蔵所B棟	18	1号炉原子炉建物	19	1号炉廃棄物処理建物	20	2号炉原子炉建物	21	2号炉廃棄物処理建物	22	2号炉タービン建物	23	屋内閉閉所	24	44m 盤事務所	25	プラスチック固化設備建物	26	西側事務所	27	北口警備所	28	2号炉取水コントロール建物	29	2号炉鉄イオン貯蔵建物	30	2号炉排気筒モニタ室	31	地下湧水浄化設備		<p>【島根】記載箇所の相違                  ・泊は女川と同様に「第2表 アクセスルートの周辺構造物」に記載している。</p>
管理番号	構造物名称	参照図面																																																																							
1	緊急時対策所	第2図																																																																							
2	1号水ろ過装置室	第2図, 第3図																																																																							
3	技術訓練棟2号館																																																																								
4	管理事務所1号館	第2図, 第4図																																																																							
5	管理事務所2号館																																																																								
6	ガスタービン発電機建物	第3図																																																																							
7	協力企業A社事務所1																																																																								
8	協力企業A社事務所2																																																																								
9	協力企業A社事務所3																																																																								
10	協力企業A社事務所4																																																																								
11	協力企業B社事務所1																																																																								
12	協力企業B社事務所2																																																																								
13	協力企業B社事務所3																																																																								
14	協力企業C社事務所1																																																																								
15	協力企業D社売店																																																																								
16	合併処理施設機械室	第4図																																																																							
17	固体廃棄物貯蔵所B棟																																																																								
18	1号炉原子炉建物																																																																								
19	1号炉廃棄物処理建物																																																																								
20	2号炉原子炉建物																																																																								
21	2号炉廃棄物処理建物																																																																								
22	2号炉タービン建物																																																																								
23	屋内閉閉所																																																																								
24	44m 盤事務所																																																																								
25	プラスチック固化設備建物																																																																								
26	西側事務所																																																																								
27	北口警備所																																																																								
28	2号炉取水コントロール建物																																																																								
29	2号炉鉄イオン貯蔵建物																																																																								
30	2号炉排気筒モニタ室																																																																								
31	地下湧水浄化設備																																																																								

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																										
	<p style="text-align: center;">第1表 アクセスルートの周辺構造物（建物）（2/2）</p> <table border="1" data-bbox="943 262 1745 945"> <thead> <tr> <th>管理番号</th> <th>構造物名称</th> <th>参照図面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>32</td><td>3号炉原子炉建物</td><td rowspan="20" style="text-align: center;">第5図</td></tr> <tr><td>33</td><td>3号炉サービス建物</td></tr> <tr><td>34</td><td>3号炉出入管理棟</td></tr> <tr><td>35</td><td>放水路モニタ建物</td></tr> <tr><td>36</td><td>給水設備建物</td></tr> <tr><td>37</td><td>野外放射線モニタ関係資材倉庫</td></tr> <tr><td>38</td><td>第1危険物倉庫</td></tr> <tr><td>39</td><td>3号炉補機海水系ポンプメンテナンス建物</td></tr> <tr><td>40</td><td>7号倉庫</td></tr> <tr><td>41</td><td>8号倉庫</td></tr> <tr><td>42</td><td>9号倉庫</td></tr> <tr><td>43</td><td>10号倉庫</td></tr> <tr><td>44</td><td>資材倉庫</td></tr> <tr><td>45</td><td>新2号倉庫</td></tr> <tr><td>46</td><td>恒常物品保管倉庫</td></tr> <tr><td>47</td><td>協力企業A 社会庫1</td></tr> <tr><td>48</td><td>協力企業A 社会庫2</td></tr> <tr><td>49</td><td>協力企業A 社会庫3</td></tr> <tr><td>50</td><td>協力企業C 社事務所2</td></tr> </tbody> </table>	管理番号	構造物名称	参照図面	32	3号炉原子炉建物	第5図	33	3号炉サービス建物	34	3号炉出入管理棟	35	放水路モニタ建物	36	給水設備建物	37	野外放射線モニタ関係資材倉庫	38	第1危険物倉庫	39	3号炉補機海水系ポンプメンテナンス建物	40	7号倉庫	41	8号倉庫	42	9号倉庫	43	10号倉庫	44	資材倉庫	45	新2号倉庫	46	恒常物品保管倉庫	47	協力企業A 社会庫1	48	協力企業A 社会庫2	49	協力企業A 社会庫3	50	協力企業C 社事務所2		<p>【島根】記載箇所の相違                  ・泊は女川と同様に「第2表 アクセスルートの周辺構造物」に記載している。</p>
管理番号	構造物名称	参照図面																																											
32	3号炉原子炉建物	第5図																																											
33	3号炉サービス建物																																												
34	3号炉出入管理棟																																												
35	放水路モニタ建物																																												
36	給水設備建物																																												
37	野外放射線モニタ関係資材倉庫																																												
38	第1危険物倉庫																																												
39	3号炉補機海水系ポンプメンテナンス建物																																												
40	7号倉庫																																												
41	8号倉庫																																												
42	9号倉庫																																												
43	10号倉庫																																												
44	資材倉庫																																												
45	新2号倉庫																																												
46	恒常物品保管倉庫																																												
47	協力企業A 社会庫1																																												
48	協力企業A 社会庫2																																												
49	協力企業A 社会庫3																																												
50	協力企業C 社事務所2																																												



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																													
	<p style="text-align: center;">第2表 アクセスルートの周辺構造物（建物以外）（1/2）</p> <table border="1" data-bbox="943 258 1745 1465"> <thead> <tr> <th>管理番号</th> <th>構造物名称</th> <th>参照図面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>A</td><td>通信用無線鉄塔</td><td rowspan="3">第2図</td></tr> <tr><td>B</td><td>統合原子力防災NW用屋外アンテナ</td></tr> <tr><td>C</td><td>除だく槽設備</td></tr> <tr><td>D</td><td>1号ろ過水タンク</td><td>第2図, 第3図</td></tr> <tr><td>E</td><td>2号開閉所遮風壁</td><td rowspan="14">第3図</td></tr> <tr><td>F</td><td>2号開閉所防護壁</td></tr> <tr><td>G</td><td>輪谷貯水槽（西1）</td></tr> <tr><td>H</td><td>輪谷貯水槽（西2）</td></tr> <tr><td>I</td><td>輪谷貯水槽（東1）</td></tr> <tr><td>J</td><td>輪谷貯水槽（東2）</td></tr> <tr><td>K</td><td>66kV 鹿島支線 No. 2-1 鉄塔</td></tr> <tr><td>L</td><td>66kV 鹿島支線 No. 3 鉄塔</td></tr> <tr><td>M</td><td>220kV 第二島根原子力幹線 No. 1 鉄塔</td></tr> <tr><td>N</td><td>220kV 第二島根原子力幹線 No. 2 鉄塔</td></tr> <tr><td>O</td><td>第2-66kV 開閉所屋外鉄構</td></tr> <tr><td>P</td><td>ガスタービン発電機用軽油タンク</td></tr> <tr><td>Q</td><td>ガスタービン発電機用軽油タンク用消火タンク</td></tr> <tr><td>R</td><td>碍子水洗タンク</td></tr> <tr><td>S</td><td>協力企業B社設備1</td></tr> <tr><td>T</td><td>協力企業B社設備2</td></tr> <tr><td>U</td><td>協力企業B社設備3</td></tr> <tr><td>V</td><td>協力企業B社倉庫1</td></tr> <tr><td>W</td><td>協力企業B社倉庫2</td></tr> <tr><td>X</td><td>宇中系統中継水槽（西山水槽）</td><td rowspan="11">第4図</td></tr> <tr><td>Y</td><td>雑用水タンク</td></tr> <tr><td>Z</td><td>2号炉 NGC 液体窒素貯蔵タンク</td></tr> <tr><td>a</td><td>2号炉 NGC 液体窒素蒸発装置</td></tr> <tr><td>b</td><td>1号炉復水貯蔵タンク</td></tr> <tr><td>c</td><td>固化材タンク</td></tr> <tr><td>d</td><td>防火壁</td></tr> <tr><td>e</td><td>原子炉建物空気冷却系冷凍機</td></tr> <tr><td>f</td><td>原子炉建物空気冷却系冷凍機制御盤</td></tr> <tr><td>g</td><td>1,2号炉開閉所間電路接続用洞道</td></tr> <tr><td>h</td><td>低圧原子炉代替注水ポンプ格納槽</td></tr> <tr><td>i</td><td>第1ペントフィルタ格納槽</td></tr> </tbody> </table>	管理番号	構造物名称	参照図面	A	通信用無線鉄塔	第2図	B	統合原子力防災NW用屋外アンテナ	C	除だく槽設備	D	1号ろ過水タンク	第2図, 第3図	E	2号開閉所遮風壁	第3図	F	2号開閉所防護壁	G	輪谷貯水槽（西1）	H	輪谷貯水槽（西2）	I	輪谷貯水槽（東1）	J	輪谷貯水槽（東2）	K	66kV 鹿島支線 No. 2-1 鉄塔	L	66kV 鹿島支線 No. 3 鉄塔	M	220kV 第二島根原子力幹線 No. 1 鉄塔	N	220kV 第二島根原子力幹線 No. 2 鉄塔	O	第2-66kV 開閉所屋外鉄構	P	ガスタービン発電機用軽油タンク	Q	ガスタービン発電機用軽油タンク用消火タンク	R	碍子水洗タンク	S	協力企業B社設備1	T	協力企業B社設備2	U	協力企業B社設備3	V	協力企業B社倉庫1	W	協力企業B社倉庫2	X	宇中系統中継水槽（西山水槽）	第4図	Y	雑用水タンク	Z	2号炉 NGC 液体窒素貯蔵タンク	a	2号炉 NGC 液体窒素蒸発装置	b	1号炉復水貯蔵タンク	c	固化材タンク	d	防火壁	e	原子炉建物空気冷却系冷凍機	f	原子炉建物空気冷却系冷凍機制御盤	g	1,2号炉開閉所間電路接続用洞道	h	低圧原子炉代替注水ポンプ格納槽	i	第1ペントフィルタ格納槽		<p>【島根】記載箇所の相違          ・泊は女川と同様に「第2表 アクセスルートの周辺構造物」に記載している。</p>
管理番号	構造物名称	参照図面																																																																														
A	通信用無線鉄塔	第2図																																																																														
B	統合原子力防災NW用屋外アンテナ																																																																															
C	除だく槽設備																																																																															
D	1号ろ過水タンク	第2図, 第3図																																																																														
E	2号開閉所遮風壁	第3図																																																																														
F	2号開閉所防護壁																																																																															
G	輪谷貯水槽（西1）																																																																															
H	輪谷貯水槽（西2）																																																																															
I	輪谷貯水槽（東1）																																																																															
J	輪谷貯水槽（東2）																																																																															
K	66kV 鹿島支線 No. 2-1 鉄塔																																																																															
L	66kV 鹿島支線 No. 3 鉄塔																																																																															
M	220kV 第二島根原子力幹線 No. 1 鉄塔																																																																															
N	220kV 第二島根原子力幹線 No. 2 鉄塔																																																																															
O	第2-66kV 開閉所屋外鉄構																																																																															
P	ガスタービン発電機用軽油タンク																																																																															
Q	ガスタービン発電機用軽油タンク用消火タンク																																																																															
R	碍子水洗タンク																																																																															
S	協力企業B社設備1																																																																															
T	協力企業B社設備2																																																																															
U	協力企業B社設備3																																																																															
V	協力企業B社倉庫1																																																																															
W	協力企業B社倉庫2																																																																															
X	宇中系統中継水槽（西山水槽）	第4図																																																																														
Y	雑用水タンク																																																																															
Z	2号炉 NGC 液体窒素貯蔵タンク																																																																															
a	2号炉 NGC 液体窒素蒸発装置																																																																															
b	1号炉復水貯蔵タンク																																																																															
c	固化材タンク																																																																															
d	防火壁																																																																															
e	原子炉建物空気冷却系冷凍機																																																																															
f	原子炉建物空気冷却系冷凍機制御盤																																																																															
g	1,2号炉開閉所間電路接続用洞道																																																																															
h	低圧原子炉代替注水ポンプ格納槽																																																																															
i	第1ペントフィルタ格納槽																																																																															

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

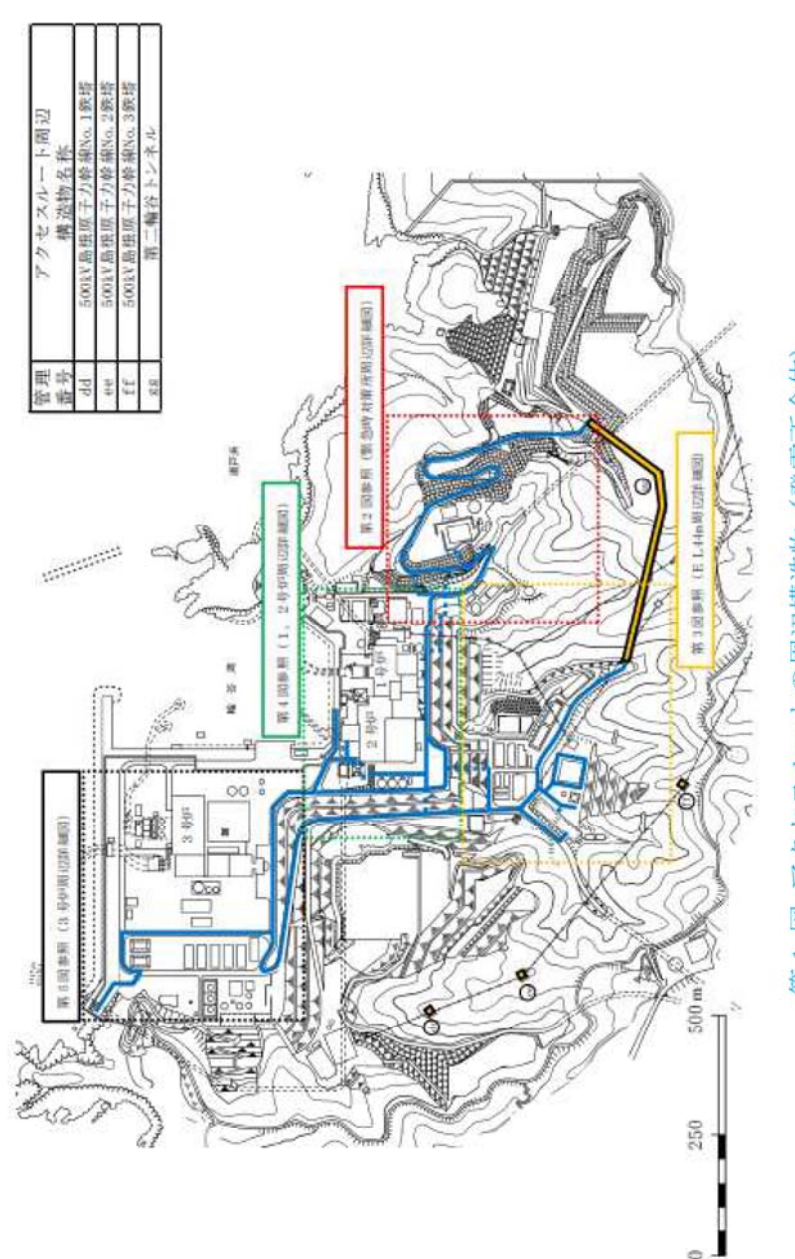
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																											
	<p style="text-align: center;">第2表 アクセスルートの周辺構造物（建物以外）（2/2）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">管理番号</th> <th style="width: 60%;">構造物名称</th> <th style="width: 30%;">参照図面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>j</td><td>補助消火水槽</td><td rowspan="15" style="text-align: center;">第4図</td></tr> <tr><td>k</td><td>B-ディーゼル燃料貯蔵タンク</td></tr> <tr><td>l</td><td>2号炉復水貯蔵タンク</td></tr> <tr><td>m</td><td>2号炉補助復水貯蔵タンク</td></tr> <tr><td>n</td><td>2号炉トーフス水受入タンク</td></tr> <tr><td>o</td><td>2号炉排気筒</td></tr> <tr><td>p</td><td>燃料移送ポンプエリア電巻防護対策設備</td></tr> <tr><td>q</td><td>2号炉鉄イオン溶解タンク</td></tr> <tr><td>r</td><td>取水槽除じん機エリア防水壁</td></tr> <tr><td>s</td><td>取水槽海水ポンプエリア防水壁</td></tr> <tr><td>t</td><td>2号炉起動変圧器</td></tr> <tr><td>u</td><td>2号炉所内変圧器</td></tr> <tr><td>v</td><td>2号炉主変圧器</td></tr> <tr><td>w</td><td>取水槽ガントリクレーン</td></tr> <tr><td>x</td><td>1号炉排気筒</td></tr> <tr><td>y</td><td>防波壁</td><td style="text-align: center;">第4図, 第5図</td></tr> <tr><td>z</td><td>配管ダクト出入口建物</td><td rowspan="3" style="text-align: center;">第5図</td></tr> <tr><td>aa</td><td>配管・ケーブル架台</td></tr> <tr><td>bb</td><td>訓練用模擬水槽</td></tr> <tr><td>cc</td><td>非常用ディーゼル発電設備軽油タンク(B)</td><td rowspan="3" style="text-align: center;">第1図</td></tr> <tr><td>dd</td><td>500kV 島根原子力幹線 No.1 鉄塔</td></tr> <tr><td>ee</td><td>500kV 島根原子力幹線 No.2 鉄塔</td></tr> <tr><td>ff</td><td>500kV 島根原子力幹線 No.3 鉄塔</td></tr> <tr><td>gg</td><td>第二輪谷トンネル</td><td style="text-align: center;">第1図, 第3図</td></tr> <tr><td>hh</td><td>連絡通路</td><td style="text-align: center;">第2図, 第4図</td></tr> </tbody> </table>	管理番号	構造物名称	参照図面	j	補助消火水槽	第4図	k	B-ディーゼル燃料貯蔵タンク	l	2号炉復水貯蔵タンク	m	2号炉補助復水貯蔵タンク	n	2号炉トーフス水受入タンク	o	2号炉排気筒	p	燃料移送ポンプエリア電巻防護対策設備	q	2号炉鉄イオン溶解タンク	r	取水槽除じん機エリア防水壁	s	取水槽海水ポンプエリア防水壁	t	2号炉起動変圧器	u	2号炉所内変圧器	v	2号炉主変圧器	w	取水槽ガントリクレーン	x	1号炉排気筒	y	防波壁	第4図, 第5図	z	配管ダクト出入口建物	第5図	aa	配管・ケーブル架台	bb	訓練用模擬水槽	cc	非常用ディーゼル発電設備軽油タンク(B)	第1図	dd	500kV 島根原子力幹線 No.1 鉄塔	ee	500kV 島根原子力幹線 No.2 鉄塔	ff	500kV 島根原子力幹線 No.3 鉄塔	gg	第二輪谷トンネル	第1図, 第3図	hh	連絡通路	第2図, 第4図		<p>【島根】記載箇所の相違                  ・泊は女川と同様に「第2表 アクセスルートの周辺構造物」に記載している。</p>
管理番号	構造物名称	参照図面																																																												
j	補助消火水槽	第4図																																																												
k	B-ディーゼル燃料貯蔵タンク																																																													
l	2号炉復水貯蔵タンク																																																													
m	2号炉補助復水貯蔵タンク																																																													
n	2号炉トーフス水受入タンク																																																													
o	2号炉排気筒																																																													
p	燃料移送ポンプエリア電巻防護対策設備																																																													
q	2号炉鉄イオン溶解タンク																																																													
r	取水槽除じん機エリア防水壁																																																													
s	取水槽海水ポンプエリア防水壁																																																													
t	2号炉起動変圧器																																																													
u	2号炉所内変圧器																																																													
v	2号炉主変圧器																																																													
w	取水槽ガントリクレーン																																																													
x	1号炉排気筒																																																													
y	防波壁	第4図, 第5図																																																												
z	配管ダクト出入口建物	第5図																																																												
aa	配管・ケーブル架台																																																													
bb	訓練用模擬水槽																																																													
cc	非常用ディーゼル発電設備軽油タンク(B)	第1図																																																												
dd	500kV 島根原子力幹線 No.1 鉄塔																																																													
ee	500kV 島根原子力幹線 No.2 鉄塔																																																													
ff	500kV 島根原子力幹線 No.3 鉄塔																																																													
gg	第二輪谷トンネル	第1図, 第3図																																																												
hh	連絡通路	第2図, 第4図																																																												



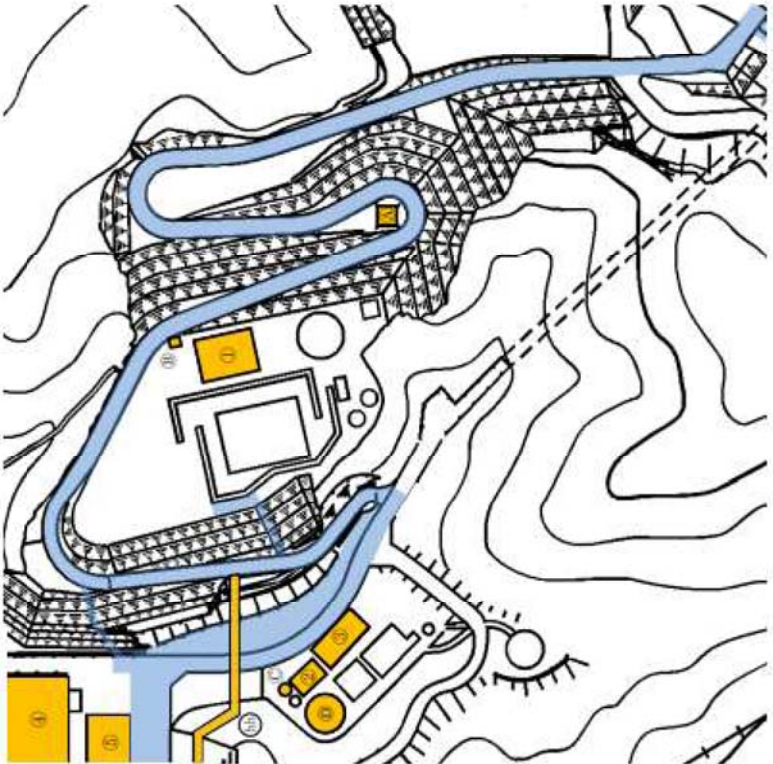
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>第1図 アクセスルート（発電所全体）</p>		<p>【島根】記載箇所の相違                  ・泊は女川と同様に「第3図 アクセスルートの周辺構造物」に記載している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																						
	 <table border="1" data-bbox="964 955 1261 1375"> <thead> <tr> <th>管理番号</th> <th>アクセスルート周辺構造物名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>緊急時対策所</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1号炉の過熱保護</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>技術訓練棟2号館</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>管理事務所1号館</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>管理事務所2号館</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>通信用無線鉄塔</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>総合原子力防災NW用屋外アンテナ</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>除だく構設備</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>1号炉過水タンク</td> </tr> <tr> <td>hh</td> <td>連絡通路</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1706 420 1745 1186" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第2図 アクセスルートの周辺構造物（緊急時対策所周辺詳細図）</p>	管理番号	アクセスルート周辺構造物名称	1	緊急時対策所	2	1号炉の過熱保護	3	技術訓練棟2号館	4	管理事務所1号館	5	管理事務所2号館	A	通信用無線鉄塔	B	総合原子力防災NW用屋外アンテナ	C	除だく構設備	D	1号炉過水タンク	hh	連絡通路		<p>相違理由</p> <p>【島根】記載箇所の相違                  ・泊は女川と同様に「第3図 アクセスルートの周辺構造物」に記載している。</p>
管理番号	アクセスルート周辺構造物名称																								
1	緊急時対策所																								
2	1号炉の過熱保護																								
3	技術訓練棟2号館																								
4	管理事務所1号館																								
5	管理事務所2号館																								
A	通信用無線鉄塔																								
B	総合原子力防災NW用屋外アンテナ																								
C	除だく構設備																								
D	1号炉過水タンク																								
hh	連絡通路																								



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="985 231 1662 1375" style="border: 1px solid black; height: 545px; width: 228px; margin: 0 auto;"></div> <div data-bbox="1697 445 1739 1159" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; position: absolute; right: 0; top: 212px;">第3図 アクセスルート周辺の構造物（E.L.44m 周辺詳細図）</div> <div data-bbox="1210 1390 1685 1423" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</div>		<p>【島根】記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は女川と同様に「第3図 アクセスルートの周辺構造物」に記載している。</li> </ul>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

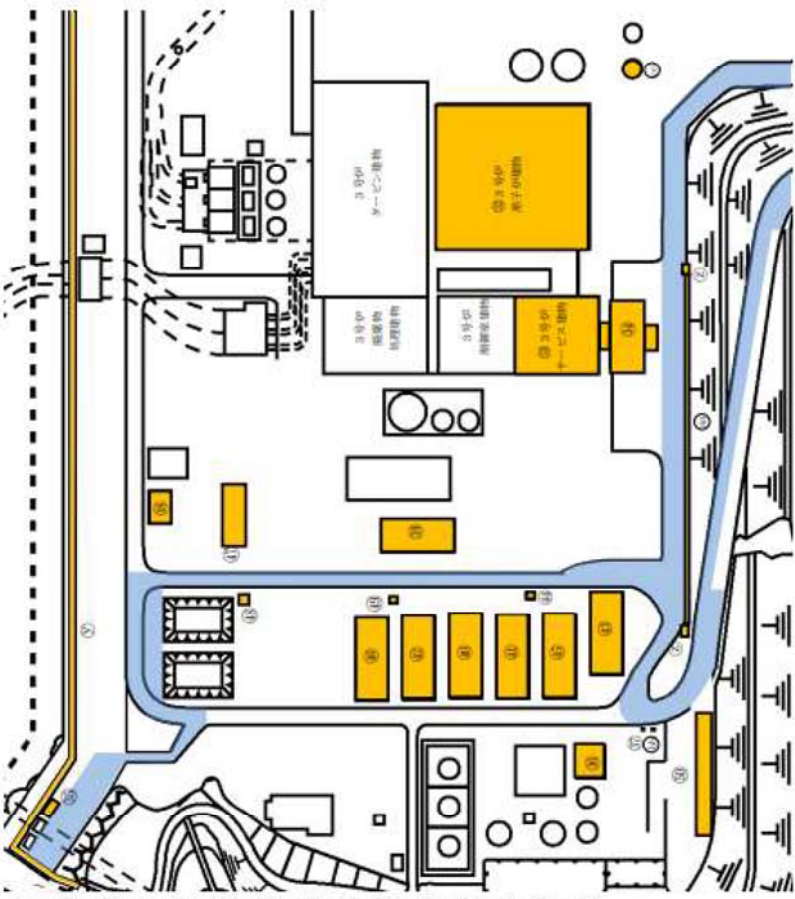
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="973 239 1685 1415" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <div data-bbox="1697 457 1739 1197" style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; right: 10px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">                     第4図 アクセスルートの周辺構造物（1, 2号炉周辺詳細図）                 </div> <div data-bbox="1199 1423 1685 1461" style="border: 1px solid black; width: 100%; text-align: center; margin-top: 10px;">                     本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。                 </div>		<p>【島根】記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は女川と同様に「第3図 アクセスルートの周辺構造物」に記載している。</li> </ul>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																		
	 <table border="1" data-bbox="964 1060 1528 1438"> <thead> <tr> <th>管理番号</th> <th>アクセスルート周辺 構造物名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>32</td><td>3号炉原子炉建物</td></tr> <tr><td>33</td><td>3号炉サービス建物</td></tr> <tr><td>34</td><td>3号炉出入管理棟</td></tr> <tr><td>35</td><td>放水路モニタ建物</td></tr> <tr><td>36</td><td>給水設備建物</td></tr> <tr><td>37</td><td>野外放射線モニタ関係資材倉庫</td></tr> <tr><td>38</td><td>第1貯蔵物倉庫</td></tr> <tr><td>39</td><td>3号炉補機油系ポンプメンテナンス建物</td></tr> <tr><td>40</td><td>7号倉庫</td></tr> <tr><td>41</td><td>8号倉庫</td></tr> <tr><td>42</td><td>9号倉庫</td></tr> <tr><td>43</td><td>10号倉庫</td></tr> <tr><td>44</td><td>資材倉庫</td></tr> <tr><td>45</td><td>新2号倉庫</td></tr> <tr><td>46</td><td>廃棄物品保管倉庫</td></tr> <tr><td>47</td><td>協力企業A社倉庫1</td></tr> <tr><td>48</td><td>協力企業A社倉庫2</td></tr> <tr><td>49</td><td>協力企業A社倉庫3</td></tr> <tr><td>50</td><td>協力企業C社事務所2</td></tr> <tr><td>y</td><td>防波壁</td></tr> <tr><td>z</td><td>配管ダクト出入口建物</td></tr> <tr><td>aa</td><td>配管・ケーブル架台</td></tr> <tr><td>bb</td><td>訓練用燃焼本槽</td></tr> <tr><td>cc</td><td>非常用ディーゼル発電設備軽油タンク(D)</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">第5図 アクセスルートの周辺構造物（3号炉周辺詳細図）</p>	管理番号	アクセスルート周辺 構造物名称	32	3号炉原子炉建物	33	3号炉サービス建物	34	3号炉出入管理棟	35	放水路モニタ建物	36	給水設備建物	37	野外放射線モニタ関係資材倉庫	38	第1貯蔵物倉庫	39	3号炉補機油系ポンプメンテナンス建物	40	7号倉庫	41	8号倉庫	42	9号倉庫	43	10号倉庫	44	資材倉庫	45	新2号倉庫	46	廃棄物品保管倉庫	47	協力企業A社倉庫1	48	協力企業A社倉庫2	49	協力企業A社倉庫3	50	協力企業C社事務所2	y	防波壁	z	配管ダクト出入口建物	aa	配管・ケーブル架台	bb	訓練用燃焼本槽	cc	非常用ディーゼル発電設備軽油タンク(D)		<p><b>相違理由</b></p> <p>【島根】記載箇所の相違                  ・泊は女川と同様に「第3図 アクセスルートの周辺構造物」に記載している。</p>
管理番号	アクセスルート周辺 構造物名称																																																				
32	3号炉原子炉建物																																																				
33	3号炉サービス建物																																																				
34	3号炉出入管理棟																																																				
35	放水路モニタ建物																																																				
36	給水設備建物																																																				
37	野外放射線モニタ関係資材倉庫																																																				
38	第1貯蔵物倉庫																																																				
39	3号炉補機油系ポンプメンテナンス建物																																																				
40	7号倉庫																																																				
41	8号倉庫																																																				
42	9号倉庫																																																				
43	10号倉庫																																																				
44	資材倉庫																																																				
45	新2号倉庫																																																				
46	廃棄物品保管倉庫																																																				
47	協力企業A社倉庫1																																																				
48	協力企業A社倉庫2																																																				
49	協力企業A社倉庫3																																																				
50	協力企業C社事務所2																																																				
y	防波壁																																																				
z	配管ダクト出入口建物																																																				
aa	配管・ケーブル架台																																																				
bb	訓練用燃焼本槽																																																				
cc	非常用ディーゼル発電設備軽油タンク(D)																																																				